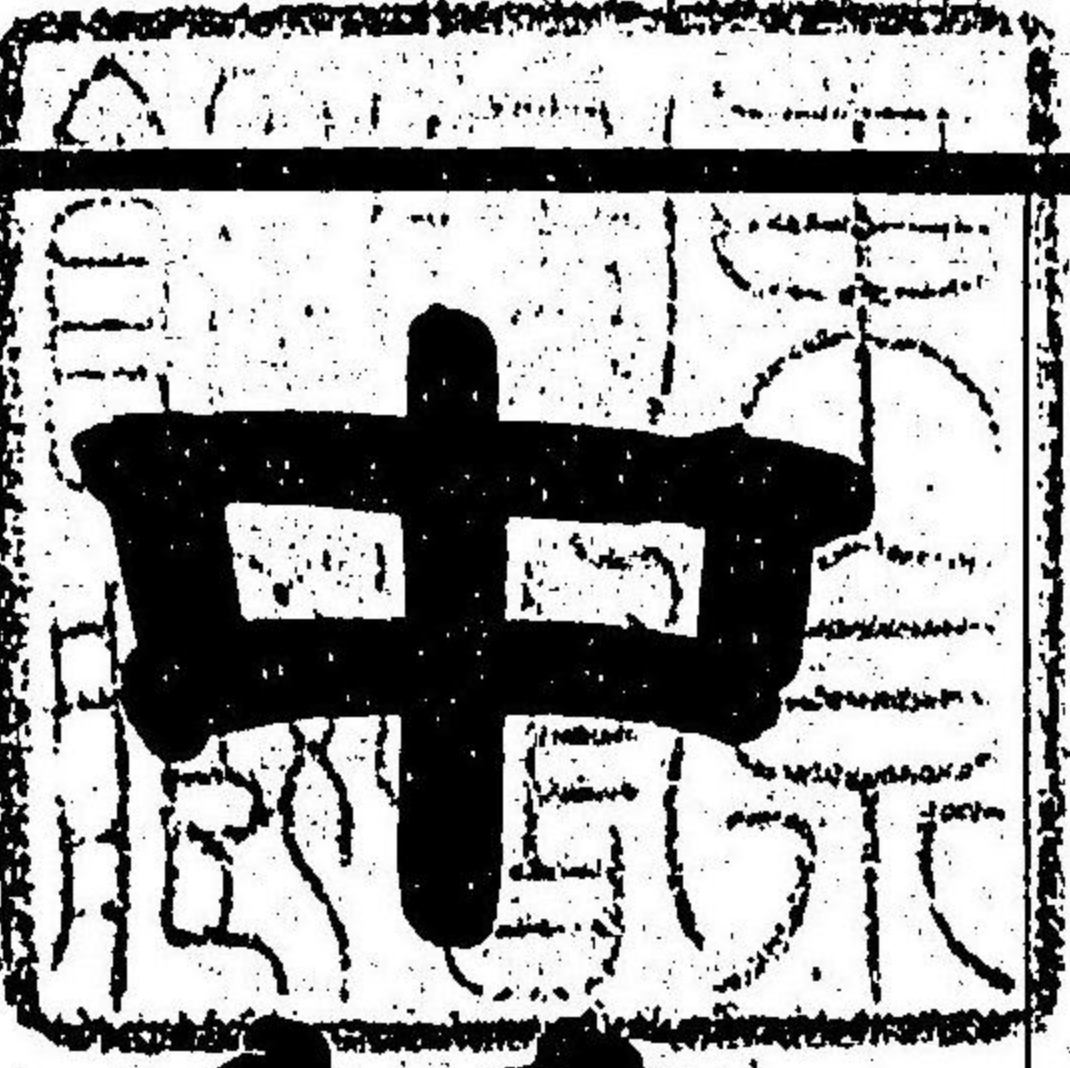


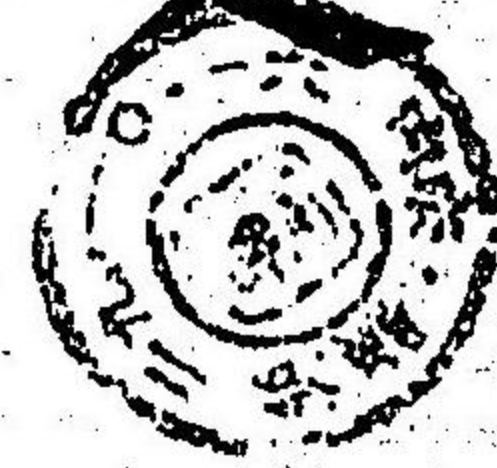
73-156



中等中地理

中村五六編纂
頓野廣太郎修補

文學社編輯所刊定



東京

文學社

中等中地理 地理學

目次

第一篇

地理學

一 數理地理學一班

- (一) 地球ノ形狀及大サ
- (二) 方位
- (三) 地球ノ自轉 晝夜ノ變更
- (四) 地球ノ公轉 四季ノ循環 晝夜ノ長短
- (五) 五帶
- (六) 經度及緯度

二 自然地理學一斑

- (一) 陸及水
- (二) 陸ノ區別
- (三) 地面ノ變動
- (四) 水ノ區別
- (五) 海水ノ運動
- (六) 大氣
- (七) 風
- (八) 雨
- (九) 氣候
- (十) 植物
- (二) 動物

三 政治地理學一斑

- (三) 人類及人種
- (三) 礦物
- (一) 國民ノ生業
- (二) 文明ノ等級
- (三) 宗教
- (四) 政體

第二篇

日本誌

- 一 總論
- 二 畿内
- 三 東海道

- 四 東山道
- 五 北陸道
- 六 山陰道
- 七 山陽道
- 八 南海道
- 九 西海道
- 十 北海道
- 十一 臺灣

目次終

中等中地理

地理學

中村 五六 編纂
 頓野 廣太郎 修補
 文學社編輯所 刪定



地理學 第一篇

地理學ハ地球ノ位置、形勢、氣候ノ異同、及人類、禽獸、蟲魚、草木、礦物等ノ分布如何等、凡ソ吾人ノ生活ニ關スル地球表面萬般ノ狀態ヲ講究スル學ナリ。實ニ吾人ノ生活ハ、直接間接ニ、此等ノ狀態ニ支配セラル、コト至リテ大ナリ。是レ此學ノ吾人ニ要用ナル所以ナリ。

斯ク地理學ハ、博ク多種ノ事物ヲ包括シテ、他ノ諸學科ニ關係スル

コト少カラサルカ故ニ、之ヲ講究スルニハ、亦此等諸學科ノ助力ヲ
資ラサルヘカラス、而シテ、其關係スル所ノ學科ニ因リ、通常之ヲ類
別シテ左ノ三科トナス。

(1) 數理地理學

此科ハ地球ノ形狀及大サ、其運動、四季、晝夜ノ變化、並ニ地球表面
各地ノ位置ヲ確定スル方法ヲ論スルモノトス。

(2) 自然地理學

此科ハ、海陸自然ノ區別、空氣、氣候、並ニ動植礦物ノ播布ヲ論スル
モノニシテ、現今地文學ト稱スル所ノモノ即チ是ナリ。

(3) 政治地理學

此科ハ各邦國ノ位置、境界、住民開化ノ程度、政體、風俗、宗教、人種、言
語等ヲ論スルモノナリ。

一 數理地理學一斑

(一) 地球ノ形狀及大サ

試ニ茫漠タル平原ニ立チ、眼ヲ放チテ四周ヲ望メハ、吾人カ棲息ス
ルコノ地球ハ、恰モ一直線ニ四方ニ延長シテ、其邊隅ハ、直ニ雲際ニ
接スルカ如クニ思ハルヘシ。然レトモ、是レ全ク迷想ニシテ、其實地
球ハ球ニ類スル一大圓體ナリ。但其ハ甚タ廣大ナルヲ以テ、吾人ノ
眼ニ見ユル處ハ、僅ニ其一小部タルニ過キスシテ、其表面彎曲ノ度
極メテ小ナレハ、吾人容易ニ之ヲ認識スルコト能ハサルノミナリ。
然レトモ、其眞ニ彎曲セルコトハ、次ナル事實ニヨリテ知ルコトヲ
得。(一) 試ニ、吾人カ立チタル觀望ノ地ヲ、高ムルコト若干尺ナルトキ
ハ、吾人ハ、曩ニ見ル能ハサリシ遠方ノ物ヲモ、始メテ見ルニ至ルヘ
シ。是レ、吾人カ立脚點ノ高マリタルタメ、眼界モ亦擴マリタルニ由



地ニ歸ル。是等皆地球ノ圓体ナルヲ證スルニ足ルモノナリ。
地球ハ其形球ニ似タリト云フト雖モ是レ眞ノ球形ニアラスシテ

ルモノニシテ地面彎曲セル
ニアラスンハ決シテ此事ナ
カルヘシ。(二)月蝕ノ時月面ニ
映スル地球ノ影ハ常ニ圓形
ヲ現ハス。(三)海岸ニ立チテ入
港スル船ヲ眺ムルニ、檣頭先
ツ見ハレテ漸ク船体ヲ見ル。
出港スル船ハ全ク之ニ反ス。
(四)人常ニ東ニ向ヒ航シテ止
マサレハ遂ニ初メ出發セシ

南北ノ兩端稍匾平ニシテ所謂匾圓體ナルナリ。是レ振子ノ振動ニ
因リテ證明スルヲ得タルナリ。最近ノ測定ニ據レハ南北ノ直徑ハ
七千八百九十九哩、東西ノ直徑ハ七千九百二十五哩二分ノ一ニシ
テ平均直徑大約八千哩七千九百十六哩、周圍二萬五千哩(二萬四千
八百九十九哩)面積ハ二億平方哩(一億九千七百萬方哩)ナリ。

(二) 方位

地球表面ナル各處相互ノ位置ノ關係ヲ説クニハ其基本タルヘキ
一定ノ方位ナカルヘカラス。斯ル方位ニ基本方位ト云フモノアリ。
即チ東西南北ノ四點ニシテ太陽ノ昇ル方ヲ東トシ、没スル方ヲ西
トス、東ニ面シテ吾人ノ左ヲ北ト云ヒ、右ヲ南ト云フ。
基本方位ノ外尙ホ中間方位ト云フモノアリ。即チ北ト東トノ正中
ヲ北東ト云ヒ、南ト東トノ正中ヲ南東ト云ヒ、南ト西トノ正中ヲ南

西ト云ヒ、北ト西トノ正中ヲ北西ト云フ。尙ホ、更ニ之ヲ半分シ、總テ三十二方位トスルコトアリ。

(三) 地球ノ自轉 晝夜ノ變更

地球ハ日々自ラ運動スルモノナリ。而シテ此運動ニ二様アリ。自轉及公轉是ナリ。

今想像上一ノ直線ヲ以テ、地球ノ中心ヲ通シテ、南北ヲ串クトキハ、是線ハ、即チ所謂地軸ニシテ、其北端ヲ北極ト云ヒ、南端ヲ南極ト云フ。又、南北兩極ヨリ同一ノ距離ニ於テ、地球ノ周圍ニ、一圏ヲ畫スレハ、是レ即チ赤道ニシテ、其北ナル地球ノ一半ヲ北半球ト稱シ、南ナル一半ヲ南半球ト云フ。

地球ハ、其地軸ヲ軸トシテ、西ヨリ東ニ向ヒ、絶エス回轉ス、之ヲ自轉又ハ日動ト稱シ、一回轉ノ時間ヲ、一晝夜、即チ二十四時間トス。

抑、太陽ハ、地球ト共ニ天空ニ懸リテ、光ト熱トヲ發射スルモノナリ。然ルニ、地球ハ圓體ナルカ故ニ、其表面、一半ハ、常ニ必ス太陽ニ面シテ、其光熱ヲ受ケ、一半ハ、之ニ背キテ、光熱ヲ受ケサルナリ。地球ノ表面ニ晝ト夜トアルハ、之カタメナリ。然リ而シテ、地球ハ、絶エス、西ヨリ東ニ自轉スルカ故ニ、其表面ノ各處、晝ト夜トハ、一去一來、互ニ循環シテ、際限ナキナリ。

地球自轉ノ證據少カラス。其形ノ兩極稍匾平ニシテ、赤道ノ部ノ最モ膨大ナルカ如キモ、亦其一證トスヘシ。其故ハ、地球果シテ兩極ヲ軸トシテ回轉セルモノナラハ、其速度ハ、赤道ニ於テ最モ大ニ、兩極ニ近ツクニ從ヒ、漸ク減少スヘク、隨ヒテ、赤道ニ於ケル遠心力、最モ強勢ナルヘケレハ、上説ノ結果ヲ生スヘキ理ナリ。

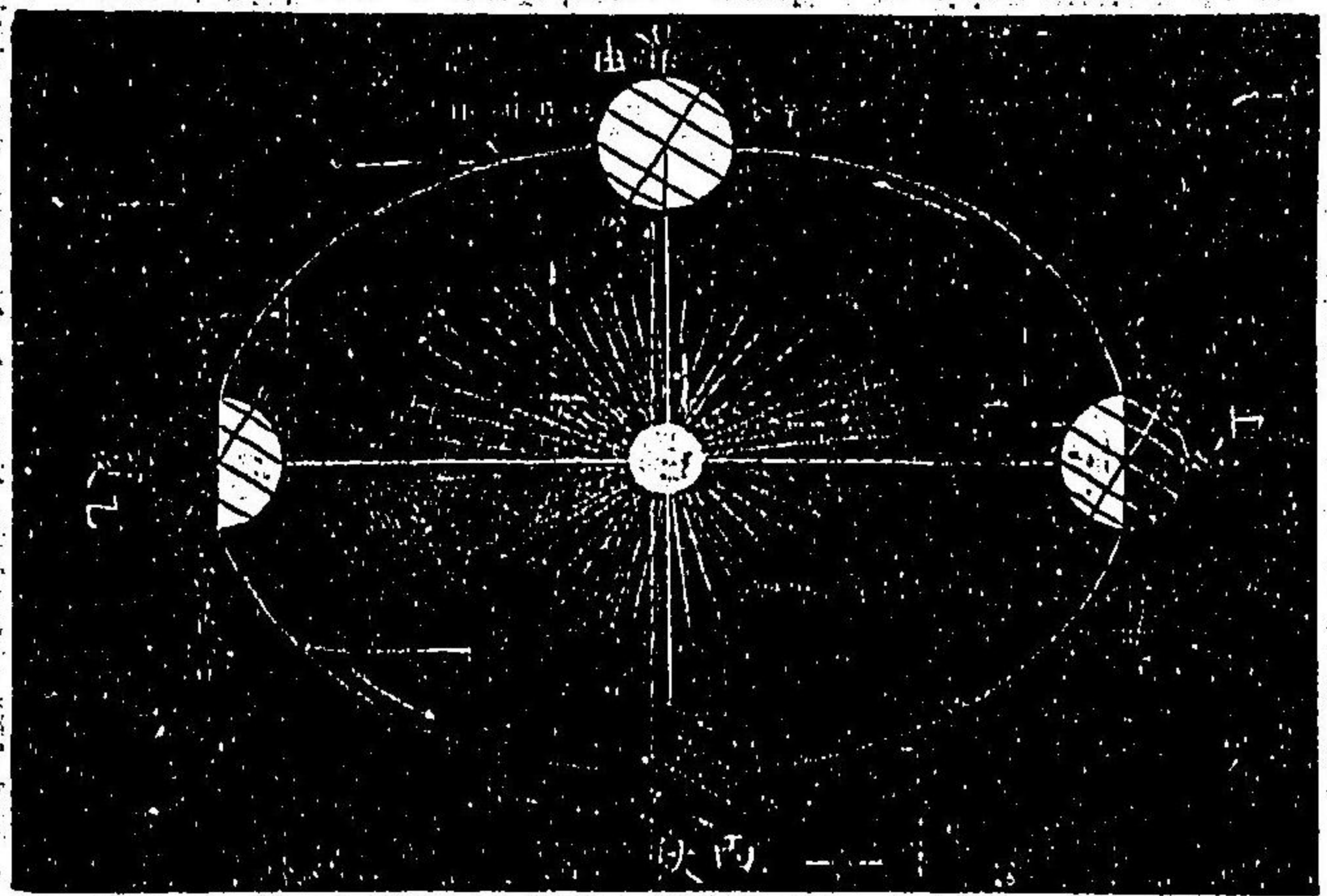
(四) 地球ノ公轉

四季ノ循環
晝夜ノ長短

地球ハ、自轉ヲナスト同時ニ、又太陽ノ周圍ヲ運行ス、之ヲ公轉又ハ年動ト稱ス。公轉ノ線路ハ、橢圓圈ニシテ、之ヲ軌道ト名ツケ、一年即チ三百六十五日四分ノ一ニシテ、地球之ヲ一周ス。彼ノ四季ノ循環及晝夜ノ長短ハ、皆此公轉ヨリ生スルモノナリ。故ニ之ヲ説明スルニハ、先ツ地軸ト軌道トノ關係、並ニ日光發射ノ狀態ヲ示スヲ要ス。地球カ軌道ヲ運行スル狀ニツキ、二ノ注意スヘキコトアリ。第一、地軸ハ、軌道ノ平面ト六十六度半ノ交角ヲナスコト、第二、其地軸ノ指ス方位ノ常ニ同一ナルコト是ナリ。同一ナルトハ、地球カ、軌道ノ何レノ點ニ在リテモ、其延長線ノ常ニ互ニ並行ナルヲ云フニテ、同シ一點ヲ指ストニハ非ス。此二ノ事情アルカタメ、地球公轉ノ際、其表面ニ於ケル、太陽光熱直射ノ方面ハ、常ニ移動シテ一定スルコトナク、只其移動ノ範圍ノ自ラ定マレルアルノミナリ。即チ其範圍ハ赤

道ヲ中央トシテ南北各二十三度半ノ處ヲ限界トスルナリ。然ルニ、地球表面ニ、太陽ノ光熱ヲ受クルニ當テ直射セラル、トキハ、其分量多ク、斜射セラル、トキハ、其分量少シ、而シテ、四季ハ畢竟此光熱ヲ受クル分量ノ多少ニヨリテ名ツケタルモノナリ。サレハ、四季ノ循環ハ、地球表面ニ於ケル、太陽光熱直射ノ方面ノ常ニ移動スルニヨリテ起ルモノナルヲ知ルヘシ。又太陽ハ、毎日必ス地球ノ半面ヲ照ラスモノナリト雖モ、其方面ハ、直射ノ方面ノ移動スルニ伴ヒテ移動スルハ、論ヲ俟タス、而シテ、世界各地ノ晝夜ハ、各地カ地球ノ自轉ニヨリテ、此光照域ニ出入スルニヨリテ生スルモノナリ。故ニ光照方域ノ毎日移動スルニ隨ヒテ、各地カ之ニ出入スル時間ニモ、亦自ラ長短アルヘク、又其ノ地ノ位置ニヨリテハ、毎日必シモ此光照域ニ出入スルモノニアラス、是レ世界各地季節ニヨリテ晝夜ニ長

短アル所以ナリ。尙ホ左ニ地球運動ノ實況ニツキテ、四季晝夜ノ三
トヲ説カン。



地球カ軌道ヲ運行スル間ニ於テ、日光
赤道ニ直射スル時季、即チ地軸ノ兩極
カ、何レモ太陽ノ方ニ傾カサル時季、二
度アリ、三月二十一日ト、九月二十三日
ト是ナリ。此兩日ハ、俗ニ彼岸ノ中日ト
稱スル日ニテ、世界各國晝夜平分ナリ、
上圖甲ハ三月二十一日ニ於ケル地球
ノ狀況ヲ示セルナリ。今假ニ、此日ヲ地
球公轉ノ初日トシテ説クトキハ、此日
以後ハ、北半球ニアリテハ、晝次第ニ長

クナリ、夜次第ニ短クナル、南半球ニアリテハ之ニ反ス。斯クテ、六月
二十一日ニ至レハ、(圖中乙)北極太陽ノ方ニ傾キ、日光赤道ノ北二十
三度半ノ處ヲ直射シ、北極ノ背後二十三度半ノ處ニ達シ、南極ヨリ
二十三度半マテノ間ヲハ、全ク照サス。此日、北半球ハ晝最モ長ク夜
最モ短ク、即チ其夏至ナリ、南半球ハ之ニ反シ、即チ其冬至ナリ。是ヨ
リ以後ノ實況ハ、全ク前ニ同シ、唯南北兩半球互ニ其ノ狀相反對ス
ルノミナリ。即チ略之ヲ説カンニ、六月二十一日以後ハ、南半球ノ晝
日ヤニ長クナリ、九月二十三日(圖中丙)ニ至レハ、復晝夜平分トナル。
是レ北半球ノ秋分ニシテ、南半球ノ春分ナリ。更ニ進ミテ、十二月二
十一日(圖中丁)ニ至レハ、此日ハ北半球ノ冬至、南半球ノ夏至ナリ。斯
クテ遂ニ三月二十一日ニ復歸シ、即チ北半球ノ春分、南半球ノ秋分
トナルナリ。

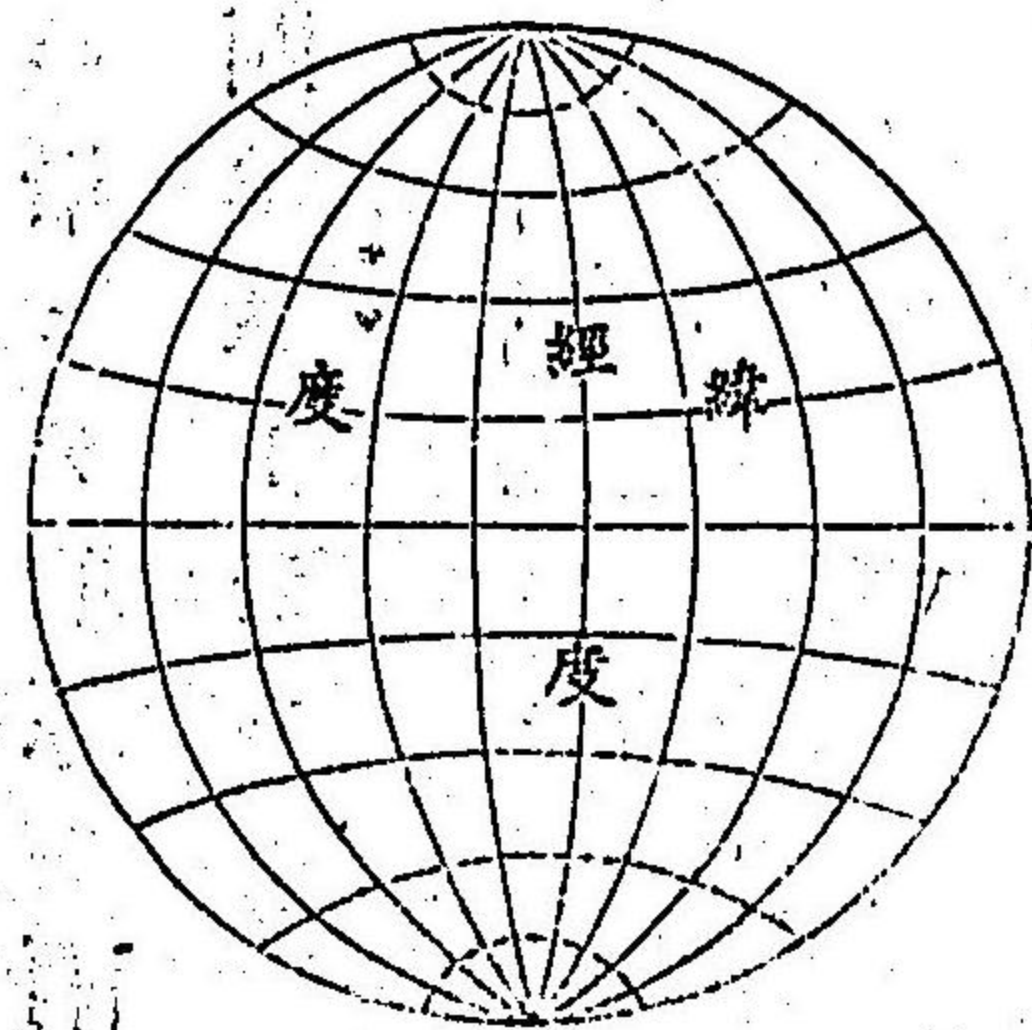
(五) 五帶

日光直射ノ點ハ、赤道ノ南北各二十三度半以外ニアルコトナシ。因テ此限界ノ所ニ、各一圈ヲ畫シ、北ニ在ルモノヲ、北回歸線又夏至線ト云ヒ、南ニ在ルモノヲ、南回歸線又冬至線ト名ツク。又南北兩半球共ニ、其最モ短日ノ時ニ在リテハ、地極ヨリ二十三度半マテノ所ニ於テハ、日光ヲ見ルコト能ハス、茲ニ又一圈ヲ畫シ、北ナルヲ北極圈、南ナルヲ南極圈ト名ツク。

地球ノ表面ハ、地理學上之ヲ五區ニ分チ、五帶ト名ツク。次ニ説カン。寒帶ハ兩極ヨリ極圈ニ至ル間ニシテ、北ニ在ルヲ北寒帶ト云ヒ、南ニ在ルヲ南寒帶ト云フ。温帶ハ、極圈ヨリ回歸線ニ至ル間ヲ謂ヒ、北温帶、南温帶ノ別アリ。熱帶ハ、兩回歸線ノ間ヲ謂フ。

(六) 經度及緯度

場所ノ位置ヲ表スルニ便センガ爲メ、吾人想像上、地球表面ニ縱横ノ線ヲ畫キ、之ヲ緯度線及經度線ト稱ス。緯度線トハ、赤道ト兩極トノ間ヲ、各九十度ニ分チタル線ニテ赤道ニ並行セリ。經度線ハ、緯度線ト直角ニ畫キテ、之ヲ三百六十度ニ分チタル線ニテ、一ニ之ヲ子午線ト云フ。經度ノ起算點ハ、緯度ノ如クニ一定ナラサレトモ、通常、英國綠林 (Greenwich) ノ經度線ヲ本初子午線トシ、之ヲ零度ト算シ、是ヨリ東西兩方ニ向ヒ、東經幾度、西經幾度ト算シ、共ニ百八十度ヲ限ト



經緯線



五帶

ス、通常、綠林西經廿度及東經百六十度ノ線ニ沿ヒテ地球ヲ兩斷シタル其一ノ半球ヲ東半球ト稱シ、他ノ一ヲ西半球ト云フ。

二 自然地理學一斑

(一) 陸及水

地球ノ表面ハ、陸ト水トノ二者ヨリ成立ス、而シテ、水ハ殆ト其四分ノ三(一億四千四百萬方哩)ヲ領シ、陸ハ僅ニ其四分ノ一(五千三百萬方哩)ヲ占ム。水ハ南半球ニ多クシテ、陸ハ北半球ニ多シ。地球上全陸地ノ四分ノ三ハ、實ニ北半球ニ在リ。

(二) 陸ノ區別

陸ハ、其大小ニ因リテ、大陸及島ニ大別シ、形狀ニ因リテ、半島、岬及地峽ニ區別シ、地勢ニ因リテ、平原、山及谷ニ區別ス。



地文圖

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|------|---------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|--------|
| 1 島 | 2 半島 | 3 地峽 | 4 海角 | 5 岬 | 6 山 | 7 火山 | 8 丘陵 | 9 海岸 | 10 大洋或ハ | 11 港 | 12 入江 | 13 海峽 | 14 瀬戸 | 15 内海 | 16 湖 | 17 河 | 18 平原 | 19 高原 | 20 三角洲 |
|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|------|---------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|--------|

大陸トハ、陸ノ最大區別

ノ稱ニシテ、地球上其數

六アリ、即チ亞細亞、亞非

利加、歐羅巴、濠斯太刺利

亞、南亞米利加、北亞米利

加是ナリ。

島ハ大陸ヨリ小ニシテ、

四面全ク水ニ圍マレタ

ル陸ノ謂ナリ。而シテ地

球上、各所ニ散在スル島

嶼ハ、大小無數ナリ。

島ニ二種アリ、大陸ノ近

傍ニ在リテ、其一部トモ見做スヘキモノヲ洲島ト云ヒ、大洋中ニ孤立セルモノヲ洋島ト云フ。又多數ノ島嶼彙集シテ、群ヲナセルモノヲ島彙ト云フ。

半島トハ、三面海ニ圍マレ、一方大ナル陸地ニ連絡セル陸ヲイフ。又此兩陸ヲ連絡セル地、狹キトキハ、之ヲ地峽ト名ツク。

岬トハ、海中ニ突出セル陸ニシテ、其尖頭ノ隆起セルモノヲ海角又ハ山嘴トイフ。

平原トハ、平坦ニシテ廣闊ナル地面ノ稱ナリ。其海面ヨリ著シク高キモノヲ高原、又ハ臺地、又ハ高臺ト云ヒ、其著シク低キモノヲ低原ト云フ。

山トハ、地面ヨリ高ク聳ヘ立テル陸ノ稱ニシテ、其小ナルモノヲ丘陵ト云ヒ、其群立セルモノヲ山彙ト云ヒ、群山連續セルモノヲ山脉

ト云ヒ、數條ノ山脈同一ノ方向ニ走レルモノヲ山系ト云フ。又火山ト云フハ、蒸氣灰烟岩汁等ヲ噴出スル山ノ稱ニシテ、概シテ圓錐狀ヲナス、是レ其噴出物ノ堆積ニ因リテ成レルニ由ルナリ。谷トハ、山ト山トノ間ニ夾マレタル低地ヲ云フ。

(三) 地面ノ變動

地面ハ時々刻々多少ノ變動ヲナセルモノニテ、決シテ吾人カ、普通想像スルカ如ク、何時マテモ無變動ノモノニハアラス、而シテ此變動ノ原力ハ、何ソト云フニ、主トシテ熱ト水トナリ。

今日ノ學者ノ推測ニ據レハ、此地球ハ、其初メ極メテ熱キ氣體ナリシカ、漸ク冷エテ液體トナリ、尋テ外部凝固シテ地殼トナリタルモノニテ、内部ハ今尚ホ極熱ノ液體ナリ。而シテ此地熱ノ事ハ、試ニ地ヲ掘ルニ、漸ク下ルニ隨ヒ、熱度次第ニ増加スルヲ以テモ徵スヘシ。

夫ノ火山地震ノ如キハ、皆此地熱ノ作用ニヨリテ生スルナリ。極メテ精密ナル驗器ヲ以テ測量スルニ、地殼ハ晝夜間斷ナク、輕微ノ震動ヲナセルモノニシテ、地震ハ此震動ノ強烈ナルモノニ外ナラス。而シテ其震動ハ地熱ノ外發セントシテ、地殼ヲ壓迫スルヨリ起ルナリ。火山ハ地震ト稍、其趣ヲ異ニスト、雖モ、是モ畢竟地熱ノ爆發作用ナリ。

水力ノ地形ヲ變動スルハ、熱力ニ劣ラス。雨滴ハ其力小ナルニ似タレトモ、漸々岩石ヲ鑿リテ地底ニ入り、更ニ岩層ヲ穿テテ通路ヲ開キ、終ニ川流トナリ、土壤ヲ運下シテ、海中ニ一新陸地ヲ生スルニ至ルモノナリ。斯ル陸地ハ沖積的陸地トテ、今日海濱又ハ河邊ニアル平原沃土ハ、大抵皆是ナリ。

之ヲ要スルニ、地熱ハ地面ヲ隆起シ、水ハ地面ヲ平坦ナラシムル力

ヲ有シテ、日夜働ケルモノナレハ、其結果トシテ、此地面ニ何時如何ナル大變動ヲ生スルヤモ測リ難キナリ。

(四) 水ノ區別

地球表面ノ水ハ、之ヲ陸水、海水ノ二種ニ大別ス。

陸水ハ、陸上ニ在ル水ノ謂ニシテ、河及湖ノ區別アリ。

河ハ、地上一定ノ通路、即チ河床ヲ流ル、水ノ稱ナリ。河ニ本流アリ、支流アリ、合稱シテ河系ト云フ。一河系ノ排水及灌溉區域ニ屬スル全地域ヲ、其河ノ河領ト云フ。

湖ハ窪地ニ溜レル水ノ稱ニシテ、吐口ヲ有スルモノアリ、又之ヲ有セサルモノアリ、前者ハ淡水ナレトモ、後者ハ概シテ鹹水ナリ。

海水トハ陸水ニ對シテ、陸ヲ圍繞セル水ヲ稱スル者ニテ、之ヲ大洋、海灣、海峽等ニ區別ス。

大洋トハ海水ノ最大區分ニシテ、地球上ニ其數五アリ、太平洋、大西洋、印度洋、北氷洋、南氷洋是ナリ。

海トハ、海水ノ、陸地ニ接近セル部分ノ名ニシテ、其所在地ノ名ヲ冠スルヲ通例トス。

灣トハ、陸地ニ彎入スル海水ノ稱ニシテ、海峡トハ、兩海水ヲ接續スル狹キ水路ノ稱ナリ。

(五) 海水ノ運動

海水ハ波浪、潮汐及洋流ト稱スル三様ノ運動ヲナス。

波浪ハ、海水ノ表面、風ノ爲メニ壓セラレテ、動搖起伏スルモノニシテ、其運動ハ海底ニ及フコトナシ、但シ地震ノ爲メニ起ル高浪、所謂海嘯ハ深ク海底ニ及フ。

潮汐ハ、日月ノ引力ニ因リテ、海水全體ニ生スル定時ノ運動ニテ、只

海水ノ表面ノミナラス、最深ノ海底ニモ及フ。此波浪ノ高部ハ、所謂満潮ニテ、其低部ハ干潮ナリ。干満各一回ノ時間ハ、十二時二十六分許ニシテ、地球表面相反對セル位置ニハ、干満同一ノ現象ヲ起ス。洋流ハ、海中ノ河トモ稱スヘキモノニシテ、海水カ、大洋中ニ一定ノ通路ヲ求メテ流動スルモノヲ云フ。是レ寒熱兩地方ノ海水、温度ノ差異ト定時風ノ作用ト鹽分ノ多寡トニ因リテ、起ルモノニシテ、其土地ノ氣候ニ影響ヲ及ホスコト大ナリ。

洋流ハ兩極洋流、赤道洋流及回歸洋流ノ三種ニ大別ス。

- (1) 兩極洋流 兩極地方ノ海水ノ、赤道ニ向ヒ流動スルモノニシテ、北極洋流ハ南西ノ方向ヲ取り、南極洋流ハ北東^西ノ方向ヲ取ル。
- (2) 赤道洋流 東ヨリ西ニ向ヒ、兩回歸線ノ間ヲ流動スルモノニシテ、北赤道洋流、南赤道洋流ノ別アリ。

(3) 回歸洋流 赤道地方ノ海水ノ兩極ニ向ヒテ流動スルモノニシテ、北半球ニテハ北東ノ方向、南半球ニテハ南東ノ方向ヲ取ル。北大西洋ノ回歸洋流ハ、墨其西哥灣ヨリ北東ニ向ヒ、流動スルヲ以テ、灣流ト稱シ、北太平洋流ノ回歸洋流ハ、日本ノ東海岸ヲ沿行スルヲ以テ、日本洋流(黑潮)ノ名アリ。

(六) 大氣

大氣トハ、地球ノ外部ヲ包メル空氣全體ノ名稱ニシテ、其上層ハ、其質至リテ稀薄ナレトモ、下層ハ、上層ニ壓セラレテ、其質濃厚ナリ。大氣ノ温熱ハ、多クハ太陽ノ熱ニ因リテ生スルモノナレトモ、其直射ニ因ルコトハ極メテ少ナク、多クハ日熱ノ爲メ暖メラレタル地面ヨリ、傳受スルモノナルヲ以テ、下層ハ温暖ニシテ、上層ハ寒冷ナリ。空氣ノ壓力ハ其厚薄ニヨリテ増減シ、其厚薄ハ、温度ノ高低ニ因

リテ増減スルモノナリ。

(七) 風

太陽ノ大氣ヲ温ムルハ、熱帶、温帶、寒帶等地方ニ因リテ互ニ差異アリ。然ルニ此温度ノ差異ハ、即チ氣壓ノ差異ヲ生スルコト、前ニ述ヘタルカ如クナリ。故ニ地球上ノ空氣ハ、常ニ其權衡ヲ失ヒテ、温暖ナル空氣上昇シ、寒冷ナル空氣之ニ代ラントテ流動スルハ、自然ノ勢ナリ。此空氣ノ流動ハ、即チ風ナリ。

赤道近傍ノ空氣ハ、其地ノ酷熱ナルカ爲メニ温マリテ、斷ニス上昇スルヲ以テ、南北兩温帶ノ冷空氣亦絶ニス赤道地方ニ向ヒテ流動ス。故ニ赤道ノ南北各、三十緯度ノ間ニ於テハ、終歲一定ノ風アリ。此風ハ商船ノ航海ニ便益ヲ與フルヲ以テ、之ヲ貿易風ト名ツク。貿易風ハ、正南正北兩方ヨリ、赤道ニ向ヒテ吹クヘキモノナレトモ、

地球自轉ノ爲メニ北風ハ變シテ北東風トナリ、南風ハ變シテ南東風トナル。此兩風赤道近傍ニ至レハ、其地ノ温熱ナルト濕氣多キトニ因リテ、共ニ上昇シ、其中間ハ無風トナル。此無風ノ部分ヲ赤道無風帶ト稱ス。印度洋及支那近海ニテハ、三月ヨリ九月ニ至ル半年間ハ、北東貿易風ナクシテ、前者ニハ南西、後者ニハ南東ノ卓越風アリ、餘ノ半年間ハ之ト正反對ノ風アリ、之ヲ半年風又ハ季節風ト名ク。季節風ハ南半球ニ於テモ亦之アリ、即チ濠洲ノ北岸及亞非利加ノ南西岸ニ在リテハ、九月ヨリ三月ニ至ル間、南東貿易風ハ概子止ミテ、北西風ヲ生スル是ナリ。

凡テ卓越風交代ノ時季ニハ、霖雨暴風アルヲ通例トス。陸ハ海ニ比スレハ、熱ヲ收受スルコトモ、發散スルコトモ、俱ニ速カナルモノ故、海濱ノ地方ニ於テハ、晴天穩和ナル日ニハ、晝間ハ風多

ク海上ヨリ吹キ、夜間ハ陸上ヨリ吹ク、之ヲ海軟風、陸軟風ト稱ス。河海ノ水ハ、常ニ蒸發シテ、水蒸氣トナリテ空際ニ上ル。此上リタル水蒸氣、冷氣ニ遇ヘハ、凝リテ雲トナリ、雲又凝リテ雨トナリテ降ル。霧、雪、露、霜、雹等モ、亦皆水蒸氣ノ凝リタルモノニ外ナラサルナリ。

五帶中雨量雪共ニ最モ多キハ、熱帶地方ニシテ、温帶之ニ次キ、寒帶最モ少シ。是レ太陽ノ熱、各帶強弱ノ差異アルニ因ルナリ。又同一帶中ニテモ、海ヨリ遠隔セル内地ハ、概シテ雨少シ。尙ホ次ニ各帶降雨ノ模様ヲ略述セン。

熱帶地方ニテハ、多クハ太陽其直上ヲ通過スル前後、數十日間ハ、毎日驟雨アリテ、雷電之ニ伴ヒ、數時間又ハ終日止マス。此時節ヲ雨節ト稱ス。雨節經過スレハ、數月間更ニ降雨ナシ、之ヲ乾節ト云フ。

熱帶地方ニ在リテハ、終歲熱氣酷烈ニシテ、春夏秋冬ノ區別ナク、只

ナリ。故ニ熱帯ハ酷熱ニ、温帯ハ中和ニ、温帯ハ互寒ナリ。然レトモ、大氣ハ下層温暖ニシテ、上層寒冷ナルカ故ニ、同緯度ノ地ト雖モ、地勢ノ高低ニ因リテ亦温暖ノ差別アリ。

サレハ雪ノ如キハ、海面ヲ抜クコト高キ處ニアリテハ、緯度ハ低クトモ亦降ルヘシ。但シ其高サノ度ハ、緯度ノ異ナルニ隨ヒテ異ナルクミナリ。サテ吾人想像上、地球上ニ於ケル此雪際ヲ、南北ニ連子タル線ヲ雪線ト稱ス。

各地ノ寒暖ハ、概シテ緯度及地勢ノ高低ニ準スルコト、右ノ如クナレトモ、其他諸般ノ事情ニ制セラル、コト頗ル多シ。要スルニ濕潤温暖ノ風吹キ來ル處、暖ナル洋流流レ來ル處ハ即チ温暖ニシテ、乾燥寒冷ノ風吹キ來ル處、冷ナル洋流流レ來ル處ハ即チ寒冷ナリ。又島地及海岸ノ地ハ、寒暖兩ナカラ大陸内地ノ如クニ酷烈ナラス。又

草木生茂スル地ハ、沙礫不毛ノ地ヨリ寒暑俱ニ温和ナリ。

(一〇) 植物

熱ト水トハ、植物ノ生育ニ缺クヘカラサル要素ナリ。然ルニ地球上ノ各帶ニ於ケル、此熱ト水トノ分量ハ、各相異ナルヲ以テ、其植物ノ種類及其生育ノ模様モ、亦自ラ相異ナラサルヲ得サルナリ。

熱帯ハ終歲温暖ニシテ、雨露ノ露モ亦裕カナル地方多ケレハ、草木常ニ鬱蒼タリ。中ニモ黑檀・白檀・蘇木・丁子・棕櫚・椰子樹・棗樹・甘蔗等ハ、此帶ニ繁茂スル貴重ノ樹木ニシテ、棉花・藍・珈琲・砂糖・米及諸種ノ香料物ハ、其主ナル農産物トス。

温帯ハ、熱帯ニ次キテ、植物ノ生長繁殖ニ適合スル帶ナレトモ、冬ハ草木概シテ雪霜ノ爲ニ枯凋ス。サレトモ、日用有要ノ植物ハ、多ク此帶ノ所産ニシテ、其中部ニハ楓樹・榆・山毛櫸・胡桃・樺木・松柏類、暖部ニハ

桂樹・橄欖及其他ノ常綠樹茂生シ、寒部ニハ、松類其他ノ喬木生長ス。
 農産物ノ主ナルモノハ、米・小麥・諸穀類・馬鈴薯・苳類及林檎・桃・梨・茶
 珈琲・煙草・麻・苧・棉花・甘藷・桑・葡萄・甘蔗等トス。
 寒部ノ大部ハ植物極テ少ク、苔蘚ノ外ハ殆ト之ナシ、稀ニ矮小ノ灌
 木ヲ見ルトイヘトモ、只暫時ノ間綠葉ヲ着クルノミナリ。

(二) 動物

地球上各地ニ於ケル動物ノ種類及生育ハ、植物ノ多少ト温度ノ高
 低トニ制セラレ。サレハ各帶自然ニ特産ノ動物アリ。
 熱部ハ、獅子・虎・豹・象・犀・河馬・麒麟・狸々・猿猴・鱷魚・駝鳥等ノ如キ最大
 ナル陸生動物ノ定住處タリ。而シテ此他ノ鳥類及昆蟲モ亦夥多ニ
 シテ、其色最モ美麗ナリ。然レトモ鳴禽ハ稀ナリ。又毒蟲多シ。
 温部ハ、鹿・熊・狐・狸・狼等ノ定住處ニシテ、此他、馬・牛・羊・犬・豚等ノ家畜



本帶ハ、寒氣酷烈ニシテ、草木稀ナレハ、陸生ノ禽獸ハ、概シテ寡少ナ
 リ。

モ亦此ニ接ム。
 寒部ハ、鯨・海豹及
 海馬等ノ如キ最
 大ナル海獸ノ定
 住處ニシテ、陸獸
 ニハ白熊・馴鹿ア
 リ。鳥類ハ水禽多
 ク、又大口魚・鯡等
 食料ニ供スヘキ
 魚類モ夥多ナリ。

(二) 人類及人種

人類ハ心身ノ性狀殆ト完全ニシテ、能ク氣候ノ寒熱ニ耐フカ故ニ、地球表面殆ト到ル所ニ生息セリ。然レトモ猶ホ外界ノ事情ニ制セラル、コト少カラサレハ、其最モ多ク生息セル處ハ、氣候中和ニシテ、植物・動物等衣食住ノ資、最モ饒カナル夫ノ温帶地方ナリ。地球上ノ人口ハ、大略十四億ニシテ、其人種ハ左ノ五種ニ別ル。

- 第一 高加索人種 一名 白色人種
 - 第二 蒙古人種 一名 黃色人種
 - 第三 「エシオピヤ」人種 一名 黑色人種
 - 第四 馬來人種 一名 褐色人種
 - 第五 亞米利加人種 一名 銅色人種
- (1) 高加索人種ハ、容貌秀美ニシテ、皮膚白色ナルカ故ニ、白色人種ノ

名アリ。亞細亞南西部、歐洲ノ殆ト全土、亞米利加ノ大部、濠洲ノ海岸及亞非利加北部ノ人民ハ此種ニ屬シ、其總數大約六億アリ。

(2) 蒙古人種ハ、皮膚黃色ニシテ、亞細亞ノ大半及歐洲ノ一部ニ住シ、總數大約五億以上、日本人・支那人等ハ此種ノ主ナルモノナリ。

(3) 「エシオピヤ」人種ハ、皮膚黑色ニシテ、黑色人種ノ名ヲ得タリ。亞非利加ノ住民ハ、大半此種ニ屬シ、總數大約二億アリ。

(4) 馬來人種ハ、褐色ニシテ、亞細亞ノ馬來半島及濠洲ニ住シ、總數大約六千萬以上トス。

(5) 亞米利加人種ハ、皮膚銅色ナリ、南北兩亞米利加ノ土人此種ニ屬ス、總數大約一千餘萬アリ。

前記人種ノ類別ハ、獨ノ大家ブルームンバツク氏ノ說ニ據ル。

(三) 鑛物

鑛物ハ無生物ナレハ、其播布、氣候ノ如何ニ關係スルコトナシ。
鑛物中、貴重ナルモノハ、貴金屬、寶石、石炭、石油、石材、粘土等トス。
金屬ノ中、最貴重ノモノハ、黃金及銀トス。此二鑛物ハ、岩石ノ間ニ脈
ヲナシテ存在スルヲ常トス。黃金ハ、又河床ノ砂中ニ發見セラル、
コトアリ。此他鐵、鉛、銅等ノ金屬ハ、他物ト化合シテ通常礦石中ニ含
有セラル、モノトス。

石炭ハ前代植物ノ化石シタルモノニシテ、岩石ノ間ニ層ヲナシテ
存在ス。寶石、石油、石材、粘土ノ存在處ハ、一概ニハ言ヒ難シ。

三 政治地理學一斑

(一) 國民ノ生業

萬國人民ノ生業ハ、夥多ナリト雖モ、之ヲ大別スレハ、農業・製造・貿易・

鑛業・林業・漁業・獸獵等トス。

(二) 文明ノ等級

宇内ノ國民ヲ其文野ノ差等ニ因リ、大別シテ四トナス、左ノ如シ。

(1) 文明國民 發達シタル理性ヲ有シ、百般ノ學藝技術ニ秀テ、生活
ノ程度著シク進歩セル國民ヲ云フ。

(2) 半開明國民 前者ニ及ハスト雖モ、尙ホ文學ヲ有シ、農業及製造
ノ術ニ達シタル國民ヲ云フ。

(3) 未開國民 學校書籍等ヲ有セス、又一定ノ住家ナク、水草ヲ逐ヒ
テ移住スルモノヲ云フ。

(4) 野蠻國民 性情兇暴ニシテ知識ニ乏シク、專ラ漁獵ニ依リテ、生
活ヲ遂クルモノヲ云フ。

(三) 宗教

世界ニ於テ盛ニ流行スル宗教五アリ、左ノ如シ。

(1) 基督教 一名耶蘇教 新教・舊教及希臘教ノ三派ニ別ル。

信徒凡三億九千五百萬

(2) 猶太教 信徒凡七百萬

(3) 回教 信徒凡一億八千萬

(4) 巴羅門教 信徒凡一億七千五百萬

(5) 佛教 信徒凡三億四千萬

(四) 政體

政體ハ之ヲ大別シテ二種トナス、左ノ如シ。

(1) 君主政體 一人ノ君主、國家統御ノ大權ヲ握ルモノ、之ヲ君主政

體ト云フ。其君主ノ權力ニ制限ナキモノヲ、擅制君主政體ト云ヒ、

憲法ヲ以テ之ヲ制限シタルモノヲ、立憲君主政體ト云フ。

君主政體ノ國ニハ、王國ト帝國トアリ、其君主、王又ハ女王ナレハ、

王國ト云ヒ、帝又ハ女帝ナレハ帝國ト云フ。

(2) 民主政體 民主政體トハ、國民一般ヨリ代議士ヲ選舉シテ、之ニ

治國ノ事ヲ委子タルモノヲ云フ、民主政體ノ長官ハ、大統領ト稱

シ、一定ノ年限間其職ニ任スルモノトス。

中等地理

日本誌

第二篇

日本誌

一 總論

(位置) 我日本帝國ハ、太平洋ノ北西隅ニ位シ、亞細亞大陸ノ東岸ニ近ク、南西ヨリ斜ニ北東ニ亘レル島嶼國ニシテ、北緯二十一度五十分(臺灣南岬)ヨリ同五十度五十六分(千島アライト島)ニ達シ、東經百十九度十六分(澎湖列島中ノ高島)ヨリ同百五十六度三十二分(千島占守島)ニ及フ、而シテ北緯三十六度東經百三十九度ノ處、殆ト國ノ中心ニ當レリ。

(境界) 東ハ太平洋ニ臨ミ、南西ハ支那海ヲ隔テ、遙ニ支那本部ニ

對シ、北西ハ狹キ日本海ヲ夾ミテ、朝鮮及露領滿州ニ隣シ、北端ハ北海道ノ宗谷海峽、千島ノ久留里海峽ニ因リテ、露領樺太島及甘察加ニ近ツク。

〔五大島〕帝國ハ、五個ノ大島及無數ノ小島ヨリ成レリ。五大島トハ、本州・蝦夷・九州・四國及臺灣ナリ。

五大島中、本州ハ最大ニシテ、中央ニ横ハリ、全長凡五百里、幅最モ廣キ處ハ一百里ニ近シ。其形蛟龍ノ天ニ翔ルカ如シ、之ニ次クモノハ、蝦夷島即チ北海道本地ニシテ、本州ノ北ニ位シ、廣袤各、八十里、其形鱧魚ノ尾ヲ振フニ彷彿タリ。次ハ九州ニシテ、本州ノ西ニ在リ、幅員ハ前者ノ半ニ近ク、其形舞ヘル猿猴ノ如シ。臺灣ハ遙ニ西南ニ隔リ、幅員ハ殆ト九州ニ等シク、其形、虎魚ノ浮フニ似タリ。最小ナルハ即チ四國ニシテ、本州ノ南九州ノ東ニ横ハル。幅員ハ九州ノ半ニ及ハ

ス、形ハ蝙蝠ノ翼ヲ張ルニ類ス。

〔屬島〕屬島ハ無慮數千、其主ナルモノハ千島(三十二島)琉球(五十五島)佐渡・隱岐・淡路・壹岐・對馬及小笠原島(二十島)澎湖列島等トス。

〔面積〕本邦ノ面積ハ計凡二萬八千〇五十二方里。其内譯左ノ如シ。

本州	一四、五七一・一二一
九州	二、六一七・五四四
四國	一、一八〇・六七
北海道本地(蝦夷島)	五、七八五・六一
臺灣	二、五三二・〇〇
諸屬島	一、三六五・〇六
總計	二八、〇五二・〇〇
〔海岸〕本邦ノ海岸ヲ觀ルニ、日本海ノ沿岸ハ、至リテ平直ナレトモ、	

太平洋及支那海ノ沿岸ハ、迂回急折變化極リナシ。今試ニ灣ノ主ナルモノヲ列舉スレハ、第一北海道ニ在リテハ、根室ニ根室灣アリ、膽振・渡島ノ間ニ火山灣アリ、次ニ本州ニ在リテハ、北端ニ青森灣アリ、日本海ノ沿岸ニハ、富山灣及若狹灣ノ二大灣アルノミナレトモ、太平洋ノ沿岸ニ在リテハ、北ニ仙臺灣アリ、中部ニ東京灣、相模灣、駿河灣相竝ヘリ。其西ノ方、遠州灘ヲ越ユレハ、三河尾張ト志摩トノ間ニ、伊勢海ノ大灣アリ。更ニ進ミテ紀州半島ヲ廻レハ、和泉攝津ノ沖ニ大阪灣アリ。其西ナル瀬戸内海ニ在リテハ、沿岸到ル處ニ内海又ハ灣浦アリ。更ニ四國ニ渡レハ、南岸ニ土佐ノ大灣アリテ太平洋ノ水ヲ抱ク。最後ニ九州ニ至レハ、南端ニ鹿兒島灣アリ、肥後ニ有明灣アリ、肥前ニ大村灣アリ、三灣皆支那海ニ向ヘリ。

(半島) 半島ハ、蝦夷ノ南端ニ渡島ノ半島アリ、本州ニ在リテハ、北端

ニ北郡半島アリ。日本海ニ突入スル能登半島アリ。太平洋海岸ニ房總半島・伊豆半島アリ。志摩・紀伊ノ二國モ、亦洋中ニ突出シテ半島ヲ成セリ。九州ニ在リテハ、南端ニ大隅薩摩ノ兩半島アリ、西端ニ肥前ノ島原及彼杵ノ兩半島アリ。

(海岸線) 我邦ハ、四方海ヲ環ラシ、水陸ノ交錯甚シケレハ、海岸線ノ延長ハ、國ノ面積ニ比シテ頗ル長ク、大小島嶼ヲ合算シ、其全長七千二百八十餘里ニ及フ。而シテ邑里ノ海岸ヲ距ルハ、最モ遠キ處ト雖モ直路僅ニ六七十里ニ過キス。サレハ全國各地四方開通シテ、開化的ノ新事物ノ傳播ニハ、最モ便利ナル國柄ナリトス。

(地勢) 本邦ノ地勢ヲ覽ルニ、五大島何レモ其中央ニ一帯ノ山脈アリテ、其軸線ヲナシ、左右海岸ニ向ヒテ徐々ニ傾斜セリ。故ニ本邦ノ中線ハ、概子高度ノ山地ニシテ、左右ノ側面ニハ平原多シトス。

(山脈) 本邦ノ軸線タル諸山脈ハ、其方向ニ因リテ、之ヲ南北脈又樺太山系、東西脈又支那山系ノ二種ニ大別ス、各數線アリ、左ノ如シ。
(南北派第一) 南北派第一ハ、露領樺太島ヨリ、北海道ニ入り來リタルモノニシテ、蝦夷山脈ノ名アリ。北ノ方宗谷岬ヨリ起リ、北見・十勝ノ二國ト天鹽・石狩・日高ノ三國トヲ東西ニ分割シ、日高ノ襟裳崎ヨリ海ニ没ス。

(南北派第二) 南北派第二ハ、本州ノ北端陸奥ニ起リ、火山脈ト共ニ三線トナリ、相竝ヒテ南進シ本州中部ニ達ス。
三線ノ其一即チ東岸山脈ハ、陸奥八戸川ノ南ニ起リ、南ニ向ヒ、陸中陸前ノ西部ヲ走リ、石卷(仙臺灣)ニテ中絶シ、磐城ニ再現シ三春・棚倉ノ東ヲ過キ、八溝山ヲ經テ常陸ニ入り、金砂・高鈴ノ諸山ヨリ、筑波山ニ連リ、土浦ノ近傍ニ盡ク、石卷灣以北ヲ北上山系ト云ヒ、其以南ヲ

阿武隈山系ト名ク。

其二即チ中央火山脈ノ起頭ハ、陸奥ノ恐山ニシテ、青森灣ヲ渡リ、八甲田山ヲ起シ、陸中ト羽後及陸前ト羽前ノ境上ヲ走リ、岩代ニ入り、山脈頓ニ其勢ヲ逞クシテ、一切經山、磐梯山ノ如キ、火山質高峯十餘ヲ疊起シ、下野ノ那須山・高原山ヨリ日光山彙ニ連リ、上野ヨリ淺間岳ヲ經テ信濃ニ入ル、其奥羽ニ屬スル部分ヲ、陸奥山脈ト云ヒ、下野ノ北ナル部分ヲ帝釋山脈ト云ヒ、上野ノ北西部ヲ三國山脈、兩野ノ間ニ亘ルモノヲ足尾山脈ト云フ。

其三即チ西岸火山脈ハ、陸奥ノ岩木山ヨリ起リ、日本海ノ海岸ニ近ク南行シテ、岩代・越後ノ境ニ入り、穗高・白根ノ諸山ヨリ三國山脈ニ會シテ信濃ニ入ル、一ニ之ヲ出羽山脈ト名

(南北派第三)

南北派第三ハ、能登ヲ發シ右ノ方加賀・越前ト左ノ方

越中・飛騨ノ國境ヲ走り、山勢頗ル峻峻ヲ極メ、美濃・伊勢ノ西境ヲ繞リ、遂ニ大和ニ入ル。

(南北派第四) 南北派第四ハ、九州ニ横ハレル火山脈ニシテ、霧島火山脈ト稱セラレ、其源ハ遠ク南洋諸島ニ起リ、臺灣島ヲ經テ海ニ入り、再ヒ琉球諸島ヲ起シ、薩摩群島ヨリ薩摩ノ南端ニ現ハレ、開聞岳トナリ、櫻島トナリ、大隅ヲ過キ日向ニ入りテ、霧島山ノ一大活火山ヲ起シ、肥後ニ入りテ、二派ニ分レ、一派ハ北西ニ向ヒ、有明海ヲ渡リテ、肥前ノ領巾振山ニ至リ、海ニ没ス。他ノ一派ハ北東ニ直行シ、阿蘇山ヲ過キテ、兩豊ノ境ニ出テ、英彦山トナリ、豊後ノ國東郡ヨリ海ニ入りテ、盡ク而シテ、英彦山ヨリハ、別ニ又一帶ノ山脈西ニ向ヒテ走り出テ、筑前ノ南境ヲ走り、領巾振山ニ連接ス。

(東西派第一) 東西派第一ハ、露領甘察加ヨリ來リ、千島列島ヲ渡リ

テ、北海道本地ニ入り、其中央部ノ國境ヲ東西ニ走リテ、渡島ニ入ルモノニテ、千島火山脈ノ名アリ、遙ニ北米大陸ノ火山ニ連絡スル一大火山系タリ。

(東西派第二) 東西派第二ハ、本州ノ西半即チ中國ヲ東西ニ貫通スルモノニシテ、二線アリ、其一即チ中國山系ト名クルモノハ、長門ノ西端粟野山ニ起リ、山陰・山陽兩道ノ天然ノ境界線トナリ、遂ニ丹波ヲ經テ山城ニ入り、愛宕山・比叡山トナリ、近江ニ入りテ、比良山トナリ、琵琶湖ノ北邊ニ達ス。其二ハ中國ノ火山脈ニシテ、前者ト並行セリ、起頭ハ長州萩ノ北ナル笠山ニシテ、夫ヨリ石雲兩州ノ境ナル三瓶山ニ連絡シ、延テ出雲ノ天狗山・三郡山、伯州ノ大山、但馬ノ妙見山・來日山等トナリ、丹波・丹後ノ境ヲ走リテ、大江・鬼城ノ二山トナリ、若狹ノ東境ヲ繞リテ、多良嶽トナリ、進ミテ南北派第二ト交叉シ、大日

山・白山ニ連リテ飛驒ニ入ル。
 (東西派第三) 東西派第三ハ九州ヨリ四國ニ渡リ進ミテ紀伊・大和ヲ過キ伊勢ニ入ルモノナリ。
 此山脈九州ニ在リテハ九州山脈ト稱ス起頭ハ肥後葦北郡ノ海岸ニシテ日隅兩國ノ境ニ於テ國見岳ヲ起シ進ミテ高千穂ニ盤崛シ、豊後ニ入り白杵佐賀ノ關ヨリ四國ニ向フ。
 四國ニ在リテハ四國山系ト稱セラル伊豫ノ鬼城山ニ起リ土佐伊豫兩國ノ境ヲ走り阿波ニ入りテ劔山トナリ吉野川ノ南岸ヲ走り紀伊ニ向ヒテ海ニ盡ク。
 紀伊ニ在リテハ紀伊山彙ト稱ス和歌山ノ南ヲ走りテ高野山ニ連リ大和ニ入り吉野ノ山彙トナリ吉野川ノ南岸ニ崛起シ伊勢ニ入り伊勢内海ヲ隔テ、遙ニ信濃ヲ望ム。

(富士帶) 富士帶ハ火山脈ナリ越後ノ妙高山・焼山ニ起リ信濃ニ入り黒姫山・高妻山ヲ起シ越中・信濃ノ境ニ於テ蓮華山トナリ進ミテ信飛兩國ノ境ヲ走り鎗ヶ岳・常念岳・乘鞍ヶ岳・御嶽等ノ高峰トナリ是ヨリ東南ニ向ヒ諏訪郡ノ高地トナリ進ミテ甲州ノ諸山トナリ甲駿ノ境ニ於テ本州第一ノ高峯富士山ヲ突起シ更ニ南進シテ愛鷹山トナリ相模ノ足柄函根ニ連リ伊豆半島ヨリ海ニ入りテ伊豆群島及小笠原島ニ赴ク。
 (高山) 前ニ述ヘタルカ如ク本邦ハ頗ル山脈ニ富メル國柄ナレハ國內ノ名山高峰亦少カラス今其最モ著ハルモノヲ舉クレハ左ノ如シ。

山名	國名	海面上高度
モリソン山	臺灣	一二、八五〇尺

富士山	駿河	一二、四六七
御嶽	信濃	一〇、五一〇
乘鞍ヶ岳	飛騨	一〇、四五〇
白根山	甲斐	一〇、二一〇
大逆華山	越後・越中	一〇、〇四〇
立山	越中	九、八〇〇
白山	加賀	八、八九〇
男體山	下野	八、二二〇
淺間山	信濃	八、一八〇
鳥海山	羽後	八、一二〇
後方羊蹄山	後志	八、〇〇〇
燒山	越後	七、九五〇
惠那山	信濃・美濃	七、九二〇
石槌山	伊豫	七、七九〇
四阿山	信濃・上野	七、七八〇

岩手山	陸中	七、四九〇
劔山	阿波	七、三九〇
駒ヶ岳	岩代	七、〇三〇
曇塞別山	天鹽	七、二〇〇
十勝岳	十勝	七、〇〇〇
彌山	大和	六、七二〇
月山	羽前	六、四七〇
宮浦山	大隅屋久島	六、三六〇
磐梯山	岩代	六、二七〇
九重山	豐後	六、一五〇
市房山	肥後	六、一四〇
赤城山	上野	六、〇八〇
大山	伯耆	五、九九〇
藏王山	岩代・陸前	五、九七〇
祖母岳	豐後・日向	五、七八〇

天城山	伊豆	五、五六四
霧島山	日向	五、五三〇
阿蘇山	肥後	五、二三〇
丹澤山	相模	五、一八〇
駒ヶ岳	陸前	五、一七〇
温泉岳	肥前	四、六九〇

(火山) 本邦山脈ノ大半ハ、火山脈ナレハ、全國火山處々ニ散在シ、其總數百七十座ノ多キニ及ヒ、國內ノ名山、高峯ト稱セラル、モノ、多クハ、活火山ニアラサレハ、息火山又ハ睡眠火山ナリ。今圖ヲ以テ火山分布ノ一斑ヲ示スヘシ。

(地震) 本邦ハ、地震熱ニ基因スル火山ニ富ムヲ以テ、之ト地脈ヲ通シテ、其震動ニ感スル土地頗ル多ク、其震數全國一年數百回ニ及ヒ、甚タ劇烈ナルモノ亦少カラス。

(平原) 全國狹長ニシテ山嶽多キヲ以テ、大陸地方ニ見ルカ如キ大廣野大平地アルコトナシ。然レトモ、今其中ノ主ナルモノヲ擧クレハ、北海道ニ在リテハ、石狩河領ノ石狩平原最モ廣ク、地味肥沃ニシテ百樹雜生セリ。本州ニ在リテハ、東部ニ奥州平原アリ。北上・阿武隈兩河ノ河領ニシテ、陸前・陸中・岩代・磐城ニ連リ、地味膏腴、田園遠ク連レリ。中部ニ於ケル關八州ノ平原ハ、本邦第一ノ平野ニシテ武藏・上野・下野・常陸・下總ノ諸國ニ跨リテ、五六十里ノ間ニ廣カリ、利根・荒川ノ二川之ヲ灌溉シ、土地肥エ人煙稠ク、古來關八州ノ富源タリ。此平原ニ次クモノハ、木曾川沿岸ノ沃野ニシテ、濃尾兩國ニ廣カル所謂濃美ノ平野是ナリ。越後信濃川下流ノ平原ハ、日本海沿岸唯一ノ曠原ニシテ、殆ト四十里ノ間ニ連レリ。畿内ノ淀川及大和川ノ平原ハ、稍大ナリト謂ヒテ可ナリ、中國平原ハ皆小ニシテ言フニ足ラス、四

國ニ在リテハ、吉野川ノ平原最モ曠濶ニシテ地味肥エ、九州ニ在リテハ、筑紫ノ平原有明海濱一帯ニ連亘シ、肥前・筑後・肥後ニ連リ、亦肥沃ナリ。

(河流) 本邦ノ河流ハ概シテ小ナリ。然レトモ其數ハ非常ニ多シ。而シテ此等ノ小河流ハ或ハ灌溉ニ、或ハ舟楫ニ、皆各多少ノ用ヲナスモノナレハ、其我國ニ與フル利益ハ、決シテ少小ニアラサルナリ。今大河ノ重ナルモノヲ舉クレハ、第一ハ、北海道ノ石狩川ニシテ、長さ百十一里ニ達ス。之ニ次クモノハ、本州ノ北上川・信濃川及利根川ニシテ、何レモ百里ニ近シ。信濃ノ木曾川、遠江ノ天龍川、駿遠ニ州ノ境ナル大井川、岩代ノ阿武隈川、羽前ノ最上川、駿河ノ富士川、越中ノ神通川、越後ノ阿賀野川、紀伊ノ紀伊川、阿波ノ吉野川、筑後ノ筑後川等ハ、皆二十里乃至五十里ノ長流ナリ。

(湖水) 湖水ノ多キハ、本州ヲ第一トシ、北海道之ニ次キ、四國及九州ニハ甚タ稀ナリ。其最大ナルモノハ、近江ノ琵琶湖ニシテ、周回六十里餘、水亦深シ。之ニ次キテ著大ナル者ハ、常陸ノ霞ヶ浦、羽後ノ八郎潟及岩代ノ猪苗代湖等トス。

(温泉) 全國火山脈縱横ニ馳騁セルヲ以テ、温泉ハ諸所ニ湧キ出ツ、其著名ナルモノハ、上州ノ伊香保、草津、伊豆ノ熱海、相州ノ箱根、攝津ノ有馬、伊豫ノ道後等ニシテ、炭酸泉・硫黃泉・鹽類泉・鐵泉及鹽泉ノ五種アリ、皆病ヲ治スルニ効アリ。

(氣候) 我國ハ、全ク太平洋中ニ孤立セル島國ナレトモ、亞細亞大陸ニ接近セルヲ以テ、氣候ハ大陸ノ影響ヲ蒙ルコト尠シトセス。故ニ氣候ノ變化ハ、他ノ島嶼ニ於ケルカ如ク緩ナラス、頗ル劇ニシテ、稍大陸ニ似タリ、即チ夏冬兩期ニ於ケル平均溫度ノ差ハ、北部ニ於

テハ概テ三十度ニ近ク、南部ノ地ト雖モ、尙ホ二十度ヲ超過ス。
 冬期ハ、亞細亞大陸非常ニ冷却スルヲ以テ、本邦モ亦其影響ヲ蒙リ、
 温度甚々低ク、臺灣・琉球及小笠原ヲ除ケ、ハ、全國中、平均最低温度ノ
 氷點已下ニ降ラサル地ナク、九州ノ南端即チ北緯三十度前後ノ地
 ニ於テスラ、平均温度ノ氷點已下ニ降ルコトハ珍シカラス。
 夏期ハ、大陸甚々熱スルヲ以テ、其影響ニ因リ、本邦ノ温度モ亦割合
 ニ高シト雖モ、其影響ハ冬期ニ於ケルカ如クニ甚シカラス、是レ大
 陸ノ寒熱ノ能ク本邦ノ卓越風ヲ支配スルニ由ルナリ。
 秋期大陸ノ冷ユルニ當テハ、大陸ノ大氣ハ漸次濃厚トナリテ、其壓
 カヲ増シ、太平洋ノ低氣壓ト平衡ヲ失フ。又春夏大陸ノ暖ナルニ當
 リテハ、大陸ノ大氣ハ輕薄トナリテ、氣壓ハ太平洋ノ高氣壓ト又平
 衡ヲ失フ。是ヲ以テ、冬期ハ、西北風毎ニ卓越シテ吹き、夏期ニハ之ニ

反シテ南東ノ風卓越シテ吹ク。但シ其風力ハ冬ノ如ク強カラズ。而
 シテ、此兩卓越風ハ、四月頃ト十月ノ末トニ互ニ交代スルナリ。
 冬夏兩期ニ於ケル卓越風ノ方向、前ニ述ヘタルカ如クナルニ、本邦
 ノ主山脈ハ、南西ヨリ北東ニ走リテ、本邦ヲ表裏北西ニ面スル方ヲ
 裏面ト稱ヘ、南東ニ面スル方ヲ表面ト稱フ。兩面ニ分ツヲ以テ、表裏
 日本ニ於ケル降水量ハ、夏冬兩期ノ間ニ大ナル差アルナリ。
 冬期ハ、日本海上ノ卓越風、本邦ノ主山脈ニ衝突シテ、稍、上昇シ、爲メ
 ニ冷却シテ、其含ム所ノ濕氣ヲ遊離ス。是ヲ以テ、裏日本冬期ノ天氣
 ハ、毎ニ陰鬱ニシテ、多少ノ降水アラサル日ハ、殆トコレナキナリ。此
 ノ如ク、日本海ヨリ來レル卓越風ハ、主山脈ノ北面ニ、多少其水分ヲ
 遊離セシムルヲ以テ、其山脈ヲ超エテ南面ニ出ツルニ當テハ、甚シ
 ク乾燥セリ。是ヲ以テ、表日本ハ、冬期概テ快晴ナリ。

夏期ハ、全ク冬期ニ反シ、南ノ風、卓越シテ吹クヲ以テ、表日本ハ、概子曇天ニシテ降水多ク、特ニ六月中旬ヨリ七月中旬ニ至ル凡三十日間、所謂梅雨期ニ於テハ、表日本ノ全體ヲ通シテ、日トシテ多少ノ降雨アラサルコトナシ。然レトモ、夏期ノ南風ハ、冬期ノ北風ノ如ク強カラス、且ツ屢雷雨アリ、暴風起ルヲ以テ、裏日本ニ於ケル夏期ノ天氣ハ、表日本ノ冬期ニ於ケル程ニハ、清明ナラサルナリ。

本邦ノ降水量ハ、南西ヨリ北東ニ進ムニ從ヒ、漸次ニ其量ヲ減シ、北海道一個年間ノ降水量ハ、約九州地方ノ三分ノ一ニ過キス。然レトモ各地、地形ノ相異アレハ、此定則ハ、必シモ細カニ適合スルモノニアラス。本邦中降水量ノ特ニ多キハ、表日本ニテハ、紀州熊野ノ海岸、四國ノ南岸及九州ノ南東海岸ニシテ、裏日本ニテハ、越前已東越後ノ中部迄トス。凡此等ノ地方ハ、高山海岸ニ沿フテ屏立シ、時ノ卓越

風ノ衝ニ當ルヲ以テ、表日本ニ於テハ、夏期ニ非常ノ大雨アリ、裏日本ニ於テハ、冬期ニ非常ノ降雪アリテ、大ニ其降水量ヲ増スナリ。又降水量ノ特ニ寡キハ、瀬戸内海并ニ本州ノ中央部トス。是等ノ地方ハ、四面繞ラスニ山嶽ヲ以テセルカ故ニ、前ニ説キタル理ニ依リ、冬夏何レノ卓越風モ、此地方ニ入ルニ方リテハ、已ニ甚シク乾燥セリ。故ニ此等ノ地方ニ於テハ、四時共ニ降水量甚々寡キナリ。

海流モ亦雨風ト共ニ、大ニ氣候ニ影響スルモノナリ。蓋シ本邦ノ海流ハ、對馬海流、親潮及黑潮ノ三ナリ。對馬海流ハ、朝鮮海峽ヨリ日本海ニ入り、本邦ノ北西海岸ヲ洗フ。然ルニ冬期本邦ノ卓越風ハ、恰モ北西風ナルヲ以テ、此海流ハ大ニ裏日本ノ嚴寒ヲ緩和シ、且ツ大ニ其降水量ヲ増スカ如シ、親潮ハ千島ニ沿フテ南西ニ流レ、北海道ノ東及南部并ニ本州東部ヲ洗フ寒潮ナレハ、夏期大ニ此等地方ノ温

度ヲ低下ス。又彼ノ本州ノ南岸ヲ洗ヘル黒潮ノ本流ハ、其廣域其温度何レモ遙ニ前陳ノ海流ニ勝ルモノナリ。然ルニ、冬期ハ北西風卓越シテ吹キ、此暖流上ノ空氣ヲ陸地ニ來ラシメス、又夏期ハ南東風以テ、此海流更ニ之ヲ熱スル能ハス。サレハ、黒潮ハ本邦ノ氣候ニハ、殆ト何等ノ影響ヲモ及ホサスト謂フヘシ。然レトモ、其降水量ニ及ホス影響ハ尠少ニアラス。表日本夏期ノ大雨ハ、主トシテ此海流ニ歸因スルモノナリ。

(植物) 本邦ハ、南端ハ熱帶ニ至リ、北端ハ殆ト寒帶ニ入り、而シテ中部ハ全ク温帶ナルヲ以テ、寒、温、熱三帶ノ植物ヲ併有ス、且ツ全國氣候温暖ニシテ雨潤多ク、地味亦概子肥沃ナレハ、草木ノ繁殖甚々盛ニシテ、到ル處ニ森林アラサルハナシ。

農商務省ニ於テハ、本州及四國、九州ノ植物ヲ調査シテ、其地ヲ五個ノ植物帶ニ區別セリ。即チ第一榕樹帶、第二黒松帶、第三山毛櫨帶、第四白檜帶、第五偃松帶是ナリ。

(第一榕樹帶) 此帶ハ本邦ノ最暖部、即チ薩摩、日向及土佐ノ南端ヲ占メ、常綠樹凡二十三種ヲ有ス。

(第二黒松帶) 此帶ハ、南端ハ第一帶ノ境ヨリ、北東ハ磐城及能登ニ及ヒ、本州・四國・九州ノ全半ヲ占ム。但シ本州ニ在リテハ三千尺以上ノ高地ニ達スルコトナシ。樹木ハ樟・檜・椎等四十九種ヲ有シ、落葉樹少シ。此帶ハ第三帶ニ境スルコトアリ、或ハ間帶ニ境スルコトアリ。

(間帶) 是レ第二・第三兩帶ノ中間ニ、時トシテ介在スルモノニシテ、其一ハ相模・武藏・兩毛・常總ノ諸國ヨリ、磐城・岩代・陸前ヲ經テ陸中ニ及ヒ、其一ハ越前ヨリ北陸道ニ入り、羽前・羽後ニ至ル。樹木ハ二帶

三帶ノモノ凡七十種ニシテ赤松・樺等アリ。

(第三山毛櫟帶) 此帶ハ稍寒冷ニシテ其領地第二帶若クハ間帶ト第四帶トノ間ヲ占メ東山道及北陸道ノ東部東海道ノ北部ニ廣ク四國・九州・中國・畿内ニ狹シ面積ハ第二帶ニ匹敵ス。樹木ハ栲櫟「ヒバ」等五十五種ニテ槲子落葉樹ナリ。竹ハ此帶以上ノ寒地ニハ生セス。(第四白檜帶) 此帶ハ東海東山北陸三道ノ寒冷ナル高山地方ヲ占メ樹木ハ白檜「タケモミ」ノ二種ナリ。但他道中獨リ阿波ノ劍山ト伊豫ノ右槌山トニハ此樹ヲ見ル。

(第五偃松帶) 此帶ハ各帶中地最モ高ク最モ寒ク樹木生育ノ極帶ナリ。其領地ハ東海東山北陸三道ノ諸所ノ高山ニアリ實ハ帶狀ヲナス。樹木ハ僅ニ偃松ノ一種トス。

(動物) 動物ハ其種類多カラズ殊ニ猛獸少シ野獸ニハ猪・鹿・兔・狐・

狸・鼬等ハ各地ニ産シ猿ハ四國ニ多ク熊・狼ハ寒地ニ棲ム海獸ニハ鰐・鰐鰓虎アリ北海ニ住ス鯨アリ北海及四國九州ノ近海ニ多シ家畜ニハ馬・牛・羊・家猪・鶏等アリ皆能ク繁殖ス。其他魚類ハ全國ノ近海ニ繁生シテ食料ノ重ナル部分ヲ占メ水陸ノ禽鳥亦夥シ。蟲類ノ中蠶ハ最モ好ク本邦ノ風土ニ適シテ全國各地殆ト飼養セサル處ナシ。

(鑛物) 鑛物ハ金屬ニハ金・銀・銅・鐵・鉛・安質母ニアリ非金屬ニハ石炭・石油・硫黃・陶土其他丹礬・綠礬・土瀝青・雲母等アリ。石材ニハ花崗石・寶石ニハ水晶・瑪瑙等最モ多シ。

(物産) 本邦ノ物産ハ勝ケテ數フヘカラスト雖モ今其主要ナルモノハミヲ列舉スレハ鑛物ニハ金・銀・銅・鐵・鉛・石炭アリ。農産物ニハ米・麥・豆・甘藷・綿・麻・烟草等アリ。果物ニハ蜜柑・柿・梨・葡萄等アリ。畜類

國人口ノ大分ヲ占ム。農業ノ一派ナル養蠶業ハ、本邦ノ風土ニ最モ適合スルヲ以テ、之ニ從事スルモノ亦頗ル多ク、其數歲々増加スル勢アリ。工商二業ハ古來未業ト稱シテ、之ヲ忽ニシタリシカ、輓近之ニ從事スルモノ、日ニ多キヲ加フルニ至レリ。全國近海ハ魚類、海草等ノ海産物ニ富ムヲ以テ、海濱地方ニテハ漁業ヲ生計トスルモノ亦多シ。鑛業、牧畜ノ如キハ、未タ甚タ盛ナラス。

〔區劃〕日本全國ハ、山海ノ形勢ニ因リテ、之ヲ畿内及東海・東山・北陸・南海・山陰・山陽・西海・北海ノ一畿、八道ニ大別シ、更ニ一廳、三府、四十三縣ヲ置キテ、之ヲ分轄統治セシム。又其管内ヲ郡市區ニ小分シ、各役所ヲ置キテ、之ヲ分治セシム。又臺灣ニハ別ニ總督府アリテ、其下ニ一島廳、三縣ヲ置キ、各其所管ヲ統フ。

市制ハ人口二萬五千以上ノ都市ニ限リ、施行ヲ許スノ例規ナレ

トモ、甲府・水戸・津・高岡等ノ如キハ特別ナリ。但シ北海道・沖繩縣・臺灣ニハ未タ之ヲ施行セス。又東京府管轄ノ小笠原島、島根縣管轄ノ隱岐島、長崎縣管轄ノ對馬島、鹿兒島縣管轄ノ大島ニハ、島廳ヲ置キテ之ヲ治ム。

〔政體〕本邦ハ宇内萬國ニ比類ナキ萬世一系ノ君主國ニシテ、萬機悉ク

天皇ノ親ヲ統ヘ給フ所ナリ。而モ明治二十二年二月十一日、千歲不磨ノ大典タル帝國憲法ヲ發布セラレテヨリハ、乃チ所謂立憲君主政體ノ國トナリ、國家ノ治具細ニ備ハル、今左ニ其大畧ヲ述ヘン。行政ノ最高府ヲ內閣ト稱シ、其長官ヲ總理大臣ト云フ、其下ニ內務・外務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・拓殖務・遞信ノ十省ヲ置キ、各省ノ長官ヲ大臣ト云フ。此十省ノ外ニ宮内省アリ、內閣ニ屬セスシテ、

皇室内外ノ政務ヲ司ル、長官ハ同シク大臣ト云フ。又
 天皇ノ至高顧問府タル樞密院アリ、其官吏ハ國老ヲ以テ之ニ任ス。
 地方ノ行政ニハ、廳ニ長、府縣ニ知事各一人アリテ、其管内ヲ統轄ス。
 其下ニ市郡及區役所、更ニ其下ニ町村役場ヲ設ケ、亦各長一人アリ。
 帝國議會ハ、即チ帝國立法府ニシテ、貴族院及衆議院ノ兩院ヨリ成
 立ス。其貴族院議員ハ、皇族華族及國家ニ大功勞アル者、博學多識ナ
 ル者、民間ノ多額納稅者ヲ以テ之ニ任シ、衆議院議員ハ各府縣ノ公
 選ニ係リ、直稅十五圓以上ヲ納ムル者ニ限ル。此他府縣ニハ府縣會、
 郡ニハ郡會、市ニハ市會、區ニハ區會、町村ニハ町村會アリテ、各公共
 事務ヲ處理ス、而シテ其議員ハ皆人民ノ公選スル者トス。
 (教育) 教育ハ往時甚々盛ナラザリシカ、明治維新以來諸般ノ制度
 ト共ニ學制亦大ニ改マリ、其成績頗ル觀ルヘキモノアルニ至レリ。

明治二十六年末全國各種ノ學校ノ總數ハ、二萬五千六百十一校、其
 生徒ハ、三百四十五萬九千四百四十六人ニシテ、内小學校二萬三千
 九百六十、生徒三百三十三萬七千五百六十人、其他ハ大學校、中學校、
 師範學校、及各種專門學校等トス。

(兵制) 我國封建時代ニハ、軍務ニ服スルモノハ、只士族ノ一級ニ止
 マリシカ、維新以後、兵制モ亦一變シ、現時ハ華士族、平民ノ區別ナク、
 國民一般ニ男子ハ滿十七歳ニ達スレハ、之ヲ國民軍ニ編入シ、廿歳
 ニ至レハ、抽籤法ヲ以テ之ヲ徵集シ、三箇年間兵役ニ服セシメ、以後
 四十歳ニ至ルマテハ、尙ホ國民軍籍ニ置クヲ法トス。國民軍トハ、非
 常ノ變アルニ當リテ、之ヲ徵集シ、軍務ニ從事セシムルモノヲ云フ。
 (陸軍管區) 陸軍ハ全國ヲ十二師管ニ分割シ、師團ヲ置キテ之ヲ管
 轄ス。而シテ陸軍々人ノ總數ハ明治二十七年末ニ於テ將校下士ヲ

第十		第十一				第十二	
大分	小倉	高知	松山	徳島	四國	岡山	姫路
大分(八郡) 熊本(三郡)	福岡(五郡) 大分(四郡) 山口(二市、一郡)	高知	愛媛	徳島	香川	岡山(二市、十八郡) 鳥取(三郡)	兵庫(二市、十郡) 鳥取(二市、三郡) 岡山(三郡)
考						備	
一 警備隊設置迄ハ小笠原島ハ麻布聯隊區ニ 佐渡ハ柏崎聯隊區ニ陸岐ハ浪田聯隊區ニ 大島鹿兒島二郡及沖繩ハ鹿兒島聯隊區ニ 五島長崎松浦郡ハ大村聯隊區ニ屬ス 二 臺灣ノ管區ハ他日ヲ待テ之ヲ定ム 三 本表ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス 但シ第七師管ヲ除クノ外師管ノ區域ハ當 分従前ニ於ケル師管ノ規定ニ依ル						久留米 福岡(二市、十一郡)	
						佐賀 福岡(三郡)	

(海軍管區) 海軍ニ於テハ、全國ノ海岸及海面ヲ分割シテ、五海軍區トナシ、各區ニ一鎮守府ヲ置ク。其鎮守府所在ノ港ヲ軍港トシ、其守備スル所ノ海口ヲ要港ト稱ス。鎮守府ハ、第一ハ相模國橫須賀港ニ、第二ハ安藝國吳港ニ、第三ハ肥前國佐世保港ニ、第四ハ丹後國舞鶴港ニ、第五ハ膽振國室蘭港ニ、之ヲ置ク。而シテ海軍々人ノ總數ハ明

治廿八年末ニ於テ將校下士卒ヲ合セテ、一萬七千〇九十九人、軍艦大小合セテ四十八艘、大砲七百二十門アリ。

(交通) 交通ノ便ハ、近來ニ至リ海陸共ニ大ニ開ケ、汽車・汽船・郵便・電信等ノ設ケ殆ト全國ニ普及セリ。

(道路) 道路ハ廢藩以來日ニ月ニ修マリ、今ハ、大小ノ河流ニ橋梁ヲ架セサルモノ稀ナリ。但シ山間ノ僻地ニハ、尙ホ險難車ヲ通セサル處アリ。總テ道路ハ之ヲ別チテ、國道・縣道及里道ノ三種トナス。國道ハ更ニ又之ヲ三等ニ分テリ、其一等ハ東京ヨリ各開港場ニ達スルモノニシテ幅七間、二等ハ東京ヨリ伊勢ノ大廟及各府縣廳、各師團ノ所在地ニ通スルモノニシテ幅六間、三等ハ東京ヨリ各府縣廳ニ達スルモノ、及各府縣廳各師團ノ所在地ヲ接續スルモノニシテ、幅三間ト定メラレタリ。縣道ハ各府縣廳ヲ連接シ、又各師團ヨリ其分

營ニ達シ各府縣廳ヨリ市郡區役所ニ達スル者ニシテ二等ニ分ツ
 其幅四間乃至五間ナリ里道ハ唯其便利ニ從ヒ一定ノ成規ナシ左
 ニ帝都東京ノ中心日本橋ヨリ廳府縣元標ニ至ル里程ヲ舉ク。

府縣名	位置	道路	里程
京都府	山城國京都	東海道通り	百三十一里
大阪府	攝津國大阪	京都ヲ經テ	百四十四里
神奈川縣	武藏國橫濱	神奈川ヲ經テ	八里
兵庫縣	攝津國神戸	京都及山崎ヲ經テ	百五十里
長崎縣	肥前國長崎	京都及小倉ヲ經テ	三百四十四里
新潟縣	越後國新潟	長野及高田ヲ經テ	九百九里
埼玉縣	武藏國浦和	中山道通り	六里
千葉縣	下總國千葉	市川ヲ經テ	十里
茨城縣	常陸國水戸	土浦ヲ經テ	二十九里
群馬縣	上野國前橋	熊谷及伊勢崎ヲ經テ	二十八里

栃木縣	下野國宇都宮	陸羽街道通り	二十七里
奈良縣	大和國奈良	大津及伏見ヲ經テ	百四十里
三重縣	伊勢國津	四日市ヲ經テ	百十三里
愛知縣	尾張國名古屋	熱田ヲ經テ	九十五里
静岡縣	駿河國静岡	東海道通り	四十六里
山梨縣	甲斐國甲府	甲州街道通り	三十四里
滋賀縣	近江國大津	東海道通り	百二十八里
岐阜縣	美濃國岐阜	名古屋ヲ經テ	百四里
長野縣	信濃國長野	上田ヲ經テ	五十九里
宮城縣	陸前國仙臺	陸羽街道福島ヲ經テ	九十二里
福島縣	岩代國福島	陸羽街道通り	七十一里
岩手縣	陸中國盛岡	陸羽街道通り仙臺ヲ經テ	百四十里
青森縣	陸奥國青森	陸羽街道通り仙臺ヲ經テ	百九十二里
山形縣	羽前國山形	米澤通り	九十五里
秋田縣	羽後國秋田	同	百五十一里

福井縣	越前國福井	名古屋及柳ヶ瀬ヲ經テ	百三十七里
石川縣	加賀國金澤	名古屋及福井ヲ經テ	百五十九里
富山縣	越中國富山	名古屋及高田ヲ經テ	百七十六里
鳥取縣	因幡國鳥取	姫路及岩櫻ヲ經テ	百九十四里
島根縣	出雲國松江	姫路及津山ヲ經テ	二百二十一里
岡山縣	備前國岡山	京都及神戸ヲ經テ	百八十六里
廣島縣	安藝國廣島	同	二百三十一里
山口縣	周防國山口	京都及廣島ヲ經テ	二百六十六里
和歌山縣	紀伊國和歌山	大阪ヲ經テ	百六十一里
德島縣	阿波國德島	明石ヲ經テ淡路通リ	百七十八里
香川縣	讃岐國高松	下津井及丸龜ヲ經テ	二百七十里
愛媛縣	伊豫國松山	同	二百三十七里
高知縣	土佐國高知	同	二百三十四里
福岡縣	筑前國福岡	小倉及蘆屋ヲ經テ	三百三里
佐賀縣	肥前國佐賀	小倉及山家ヲ經テ	三百十四里

大分縣	豐後國大分	京都及小倉ヲ經テ	三百十七里
熊本縣	肥後國熊本	小倉及久留米ヲ經テ	三百二十五里
宮崎縣	日向國宮崎	小倉及大分ヲ經テ	三百六十八里
鹿兒島縣	薩摩國鹿兒島	小倉及熊本ヲ經テ	三百八十一里
沖繩縣	那 覇	鹿兒島大島那覇ヲ經テ	五百七十四里
北海道廳	札 幌	陸羽街道青森及函館 苫小牧ヲ經テ	二百七十六里

(鐵道) 本邦ノ鐵道ハ明治五年ニ官始テ東京橫濱間ニ布設シタルモノヲ以テ、ソノ嚆矢トシ之ニ次キテ神戸・大阪及京都間ニ布設セシニ、爾來私立諸鐵道會社、踵ヲ繼キテ各地ニ起リテ次第ニ其數ヲ増シ、明治二十八年三月ニ於テ已成線路ノ延長實ニ二千百十八哩ノ長サニ達シ、工事中ノモノ數百哩、測定済ノモノ二千餘哩ニ及ヘリ。

今既設鐵道線路及哩數ヲ舉クル、左ノ如シ。

(區) 間

線 路(哩)

合 計(哩)

京東	新橋、神戶間	三七六・三九	
	大船、横須賀間	一〇〇・〇四	
	大府、武豐間	一二・〇一	
	米原、金ヶ崎間	三一・〇一	
	高崎、直江津間	一一七・一二	
	青森、弘前間	二三・二五	
	大津、馬場間	一・二九	
	深谷、長濱間	九・七五	
	計(管轄)		五八〇・八六
京東	秋葉原、青森間	四五六・〇一	
	品川、赤羽間	一二・九五	
	大宮、前橋間	五二・四五	
	小山、那珂川(水戸)間	四二・三三	
	宇都宮、日光間	二五・〇〇	

岩切、鹽竈間
尻内、湊間

四・二九
五・〇五

計(日本鐵道會社)

五九八・〇八

京東
本所、佐倉間

三一・五〇

計(總武鐵道會社)

三一・五〇

京東
八王子間

二六・四六

計(甲武鐵道會社)

二六・四六

國分寺、川越間

一八・五〇

計(川越鐵道會社)

一八・五〇

立川、青梅間

一一・五〇

計(青梅鐵道會社)

一一・五〇

小山、前橋間

五〇・九四

計(兩毛鐵道會社)

五〇・九四

葛生、越名間

九・六八

計(佐野鐵道會社)

九・六八

室蘭、歌志内間	一一四・五〇	
追分、夕張間	二六・六一	
手宮、幌内間	五六・四四	
幌内太、幾春別間	四・四九	
砂川、空知太間	二・八五	二〇四・八九
計(北海道炭礦鐵道會社)		
標茶、跡佐登間	二五・九八	
ウノシコイチャル、シヘオンコチャル間	・八六	二六・八四
計(釧路鐵道會社)		
草津、桑名間	五六・六九	
龜山、津間	九・七五	六六・四四
計(關西鐵道會社)		
津、宮川間	二三・七三	二三・七三
計(參宮鐵道會社)		
大坂、難波、堺間	六・二八	

大坂		
計(阪界鐵道會社)		六・二八
港町、奈良間	二五・四五	
王寺、櫻井間	一三・一四	三八・五九
計(天阪鐵道會社)		
尼ヶ崎、池田間	八・四四	八・四四
計(攝津鐵道會社)		
神戸、廣島間	一八九・七八	
兵庫、和田崎間	一・八〇	一九一・五八
計(山陽鐵道會社)		
姫路、長谷間	二三・〇〇	二三・〇〇
計(播但鐵道會社)		
門司、松橋間	一三〇・九四	
鳥栖、佐賀間	一五・三七	一四六・三一
計(九州鐵道會社)		
若松、飯塚間	二四・四八	

直方、金田間	六・二五
小竹、幸袋間	三・五二
計(筑豊鐵道會社)	三四・二五
丸龜、琴平間	一〇・一九
計(讃岐鐵道會社)	一〇・一九
高濱、平井河原間	一〇・二四
計(伊豫鐵道會社)	一〇・二四
總計	二一一・八三〇

(航路) 航海ノ業ハ、徳川時代ニ、法令ヲ以テ嚴シク檢束シタルヲ以テ、從來不振ノ有様ナリシカト、今ハ著シク進歩シテ諸種ノ船舶夥シク、其航路モ亦頗ル長シ、今假ニ横濱ヲ元トシ、東西兩方ノ航路ヲ述シニ、西ノ方ハ、遠州灘ニ至リ二線ト爲リ、一ハ伊勢國四日市及尾張國武豐ニ至リ、一ハ攝津ノ神戸ニ至ル。神戸ヨリハ内海ヲ過キ、長

門國下ノ關ヲ經テ、肥前國長崎ニ至ル。長崎ニ於テハ、航路二線アリ、一ハ對州嚴原ヲ經テ、朝鮮ノ諸港、露領浦鹽斯德港並ニ支那ノ芝罘、天津ニ向ヒ、一ハ支那海ヲ横キリテ上海ニ至ル。並ニ、ほんべいニ達ス。神戸ヨリハ又南ノ方鹿兒島及大島ヲ經テ、琉球ニ至ル線路アリ。又東方ノ航路ハ、東京灣ヲ出テ、北東ニ針路ヲ取り、陸前ノ荻ノ濱、陸中ノ釜石及陸奥ノ青森ヲ經過シテ、北海道ノ函館及小樽ニ至ル。函館ヨリハ、又日本海ヲ廻リテ、下ノ關ニ至ル航路アリ。而シテ横濱ヨリハ、又西ノ方香港印度歐洲ニ通シ、東ハ北米桑港及ヴァンクーヴァールニ至ルノ三大内外國船航路アリ。以上ハ航海線路ノ幹線ニシテ、其他沿岸各港ノ間ニハ、概子汽船ノ往復アリ、明治廿七年十二月ノ調査ニ係ル、全國各種商船ノ數ヲ看ルニ、西洋形ハ大小千四百六十七艘、其噸數二十一萬二千九百二十五、日本形ハ大小五千九百

七千七百七十八艘トス。
左ニ内國各港間ノ里程ヲ示スヘシ。

(漕ハ海里ニシテ凡十六町九分七厘五毛ニ當ル)

一 横濱ヨリ	横須賀 相州 十二漕	四日市 勢伊 二百漕
清水 港州 百十三漕	神 戶 津 三百漕	
荻ノ 濱 前 二百八十六漕	釜 石 中 陸 三百五十三漕	
函 館 渡 島 五百二十九漕	青 森 陸 四百六十二漕	
小 樽 後 八百十漕		
一 神 戶 ヨリ	廣 島 州 藝 百五十五漕	高 知 土 百四十二漕
赤 間 關 州 長 二百四十漕	鹿 兒 島 陸 四百漕	
一 赤 間 關 ヨリ	博 多 前 筑 六十漕	長 崎 前 肥 百四十二漕
伊 萬 里 前 肥 九十九漕		新 潟 後 越 四百九十六漕

一長崎ヨリ
鹿兒島 陸 百六十二漕 佐世保 前 肥 二十一漕
殿 原 對 馬 百六漕
一鹿兒島ヨリ
那 覇 沖 三百七十三漕
石 垣 (八重山) 六百十五漕
一函館ヨリ
青 森 陸 五十九漕 室 蘭 振 七十九漕
根 室 根 二百九十五漕

(燈臺) 前ニ述ヘタル航路中ニハ處々ニ燈臺ノ設ケアリ。其數五十以上ノ多キニ達スレトモ、今其重ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ。

建設地 位 置
觀音崎 相模國東京灣口
劍崎 相模國

野島崎	安房國
御子元島	伊豆國下田港ノ南方
御前崎	遠江國ノ南端
汐岬	紀伊國ノ極南
江崎	淡路國ノ北岬
部崎	長門國下ノ關ノ東方
六連島	同上
鳥帽子島	肥前壹岐兩國ノ間
大瀬崎	肥前五島ノ極南
伊王島	同長崎港口
佐多岬	大隅國極南
鞍島	日向國大島
萬登支岬	函館港口
宗谷岬	北見國北端
尻矢崎	陸奥國津輕海峽

金華山

犬吠崎

陸前國北上川口ノ一島

下總國

(郵便) 郵便ハ明治四年始テ三府ノ間ニ本線路ヲ開キテヨリ漸次ニ各地ニ連接シ今ハ全國郵便ノ通セサル地ナキニ至レリ。明治廿八年三月ノ調査ニ依レハ全國郵便局數三千七百十八、函數三萬三千七百〇一、線路ハ普通道路一萬千六百七十六里、鐵道二千〇〇四哩ナリ。

(電信) 電信線ハ明治二年東京橫濱間ニ架設シタルヲ始メトシ爾來其線路ヲ各地ニ延長シテ二十八年三月ニハ局ヲ置クコト六百三十五、線路ハ三千四十二里、其延長一萬一千五百〇三里ニ及ヘリ。而シテ外國電報ハ長崎電信局ヨリ之ヲ接續ス。電話機モ近來架設甚々盛ナリ。

(都市) 東京ハ本邦ノ首府ニシテ、殆ト全國ノ中央ニ位シ、世界屈指ノ大都會タリ、之ニ次クモノハ京都及大阪ニシテ、東京ト共ニ三府ト稱セラル。其他東海道ニ在リテハ、尾州ノ名古屋、及横濱、畿内ニアリテハ、神戸、北陸道ニ在リテハ、加賀ノ金澤、中國ニ在リテハ、藝州ノ廣島、九州ニ在リテハ、肥後ノ熊本、奥州ニ在リテハ、陸前ノ仙臺ノ如キ、皆三府ニ次ク大都會ナリ。若シ之ニ人口一萬以上ノ小都會ヲ合セ算スレハ、其數一百九十餘ノ多キニ達ス。

(港口) 本邦ノ海岸線ハ參差出入シテ、近海ノ水淺カラサレハ、良港亦少カラス。就中武藏ノ横濱港、攝津ノ神戸港、肥前ノ長崎港、渡島ノ函館港、越後ノ新潟港ハ之ヲ五港ト稱シ、外國トノ互市場タリ。而シテ勢州ノ四日市、丹後ノ宮津、長州ノ赤間關、筑前ノ博多、豊前ノ門司、肥前ノ口ノ津及唐津、肥後ノ三角、越中ノ伏木、後志ノ小樽、釧路ノ釧

路等ノ諸港モ、亦米・麥・麥粉・石炭・硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ、近コロ特別輸出港ト定メラレタリ。

輸出入品ハ一年一年ヨリ増加スルノ兆候ヲ示セリ、而シテ其輸出ノ最多額ナルハ、第一ハ北米諸國、第二ハ佛國、第三ハ支那、第四ハ英國、第五ハ朝鮮等ニシテ、輸入ノ最多額ナルハ、第一ハ英國、第二ハ支那、第三ハ北米合衆國、第四ハ東印度諸國、第五ハ獨逸等ナリトス。今廿七年中、輸出入物品元價一百萬圓以上ノモノヲ表示スレハ左ノ如シ。但シ表中千圓未滿ノ端數ハ之ヲ棄却ス。

輸出之部		輸入之部	
品目	元價千圓ヲ以テ	品目	元價千圓ヲ以テ
各種蠶絲	四二、五六三	各種砂糖	一三、三二四
米	五、五九五	器械類	五、五三五
各種製茶	七、九三〇	石油	五、一三五

石	炭	六、五七八	縮緬吳呂	三、一五〇
熟	銅	三、一〇一	綿布類	六、九六九
生	銅	一、七九九	綿	一、九六一〇
陶器磁器		一、四八四	毛縞子	一、七五九
絹布手巾		三、六二八	毛布類	一、七一六
絹	布	八、四二九	綿織糸	七、九七七
鰯		一、一六二	鐵類	九、二一四
マ	ツチ	三、七九五	米	八、四一三
樟	腦	一、〇二三	豆類	二、九七七

(沿革) 今ヨリ二千五百五十餘年前 神武天皇日向ヨリ東征ノ師
 ヲ起シ、中州ヲ平定シテ、始テ天位ニ即カセ給ヒ、都ヲ大和ニ定メテ、
 國造・縣主ヲ置キ、大ニ善政ヲ布キタマフ。之ヲ本邦ノ紀元トス。降テ
 一千三百年ノ頃、孝德天皇ノ朝ニ、國造・縣主ニ代フルニ國司・郡司
 ヲ以テシ、益、中央集權ノ政治ヲ固クセラル。尋テ一千四百五十六年

ノ頃 桓武天皇ノ朝ニ、阪上田村賢古ヨリ東方ノ地ニアリテ久シ
 ク王化ニ服セサル蝦夷民族ヲ征シテ、之ヲ蝦夷島ニ驅逐セシヨリ、
 王化始テ本州ニ普及シ、五畿七道全ク完備スルニ至レリ。其後、一千
 八百四十六年、源賴朝、霸府ヲ鎌倉ニ開キテヨリ、封建ノ制漸ク起リ、
 足利氏ニ至リテ、全ク成ル。此頃武田信廣ナルモノアリ、蝦夷島ニ渡
 航シテ之ヲ征服シ、居城ヲ松前ニ築キ、全島ヲ領セリ。是ニ至リテ四
 大島全ク王政ニ歸セリ。應仁以降天下麻ノ如ク亂レ、豪傑諸方ニ割
 據シタリシカ、豊臣氏興リテ全國ヲ平定シ、徳川氏之ニ代ルニ及ヒ
 テ、全國ノ地ヲ舉ケテ、分チテ之ニ諸侯ヲ封セリ。然ルニ、明治初年ニ
 至リ、諸侯悉ク封土ヲ朝廷ニ奉還セシカハ、再ヒ郡縣ノ政治トナリ、
 蝦夷島ヲ改メテ北海道トナシ、尋テ琉球藩ヲ廢シ、沖繩縣トナシ、五
 畿八道悉ク備ハル。而シテ明治二十七年清國ト兵ヲ交ヘテ之ニ勝

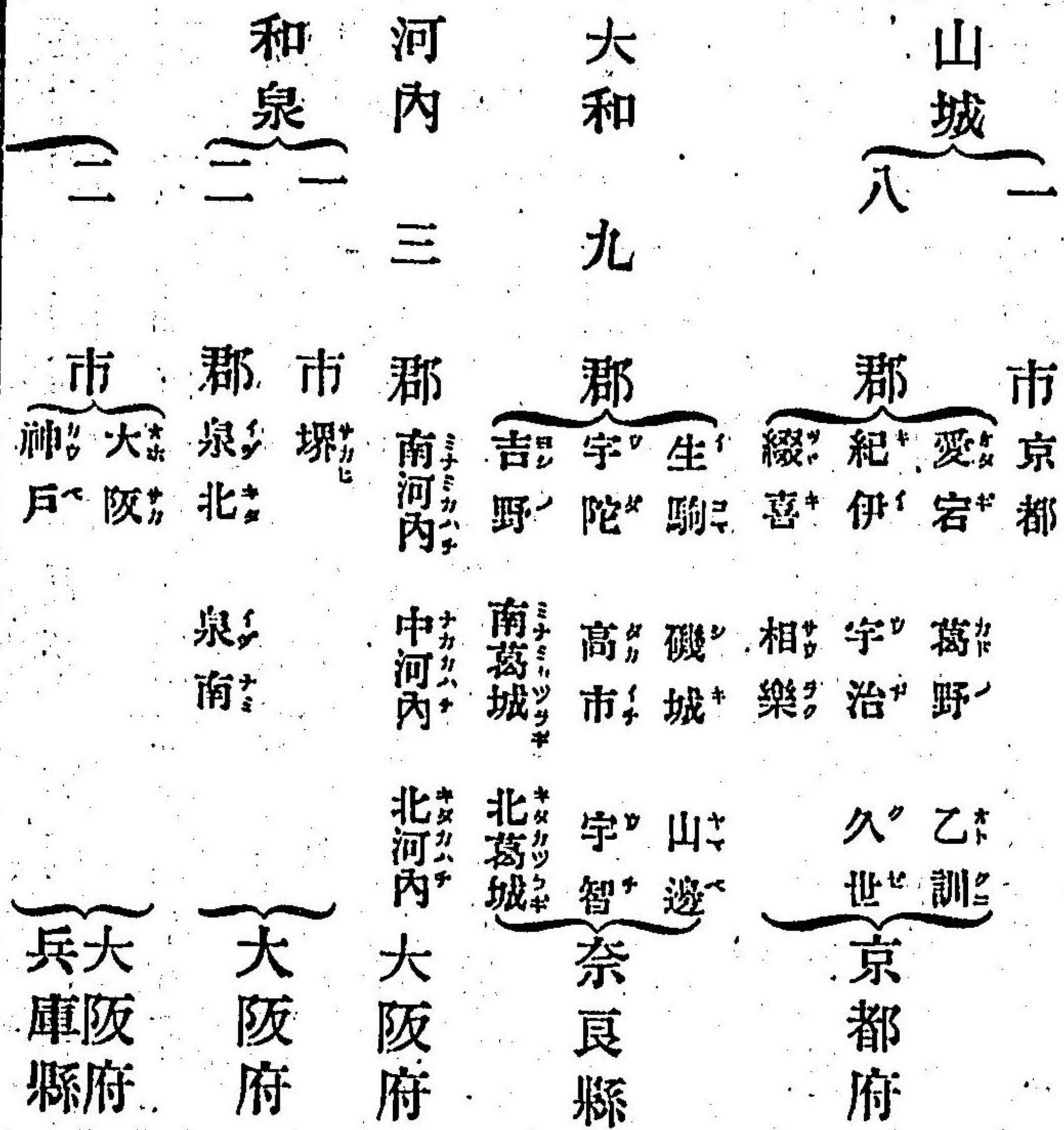
チ、和議成リテ臺灣我版圖ニ歸シタリ。
 (外交) 我邦ノ外國ト交通シタルハ、紀元六百二十八年任那ノ來貢
 セシヲ以テ始メトシ、爾來高麗百濟相繼キテ入貢ス。此諸國ハ即チ
 今ノ朝鮮ニ國セシ者ナリ。降テ一千二百年代ノ頃ニ至リ、始テ支那
 ト交通ヲ開キ、其後二千二百年葡萄牙ノ商船、颶風ニ遇フテ、豊後
 ニ漂着セシヨリ、西班牙・和蘭及英吉利等ノ諸國人、相尋キテ來リ通
 商貿易ヲナシ、又耶蘇教ヲ傳ヘタリ。後此教ノ國ニ害アルヲ見テ之
 ヲ嚴禁シ、併セテ外國船ノ來泊ヲ拒ミ、唯和蘭・支那二國ノ商船ノミ、
 長崎ニ來リテ通商スルヲ許シタレハ、是ヨリ外國ノ交通ハ、殆ト斷
 絶ノ姿ナリシカ、二千五百十三年亞米利加合衆國政府使節ヲ發遣
 シ來リテ、交通貿易ヲ請ハシム。其翌年遂ニ其請ヲ聽シ、長崎ノ外尙
 ホ下田・函館ノ二港ヲ開キヌ。是レ實ニ我國萬國交通ノ初曉ニシテ、

尋テ英吉利・佛蘭西・露西亞等ノ諸國トモ和親條約ヲ結ヒ、下田ヲ閉
 チテ、更ニ橫濱・神戸・新潟ノ諸港ヲ開キ、之ヲ通商貿易ノ地ト定ム。是
 ヨリ漸次他ノ諸外國トモ和親條約ヲ結ヒ、結局現今ノ條約國ハ、北
 米合衆國・大英王國・露西亞・和蘭・佛蘭西・葡萄牙・獨逸・瑞典・白耳義・伊
 太利・丁抹・瑞西・諸威・西班牙・澳地利・布哇・清國・秘露・朝鮮・暹羅及墨其
 西哥ノ二十一個國トス。

二 畿内

(位置廣袤人口) 畿内又五畿内トモ稱ス。東ハ東海・東山ノ兩道ニ接
 シ、南ハ紀伊ニ界シ、北西ハ山陰・山陽ノ兩道ニ連リ、南西ニハ大阪灣
 ヲ抱ケリ。南北最モ長キ處凡三十五里、東西最モ廣キ處凡二十五里、
 面積四百四十六方里弱、人口二百七十二萬三千九百九十二人(人口
 ハ明治二十八年末調ナリ以下皆同シ)ナリ。

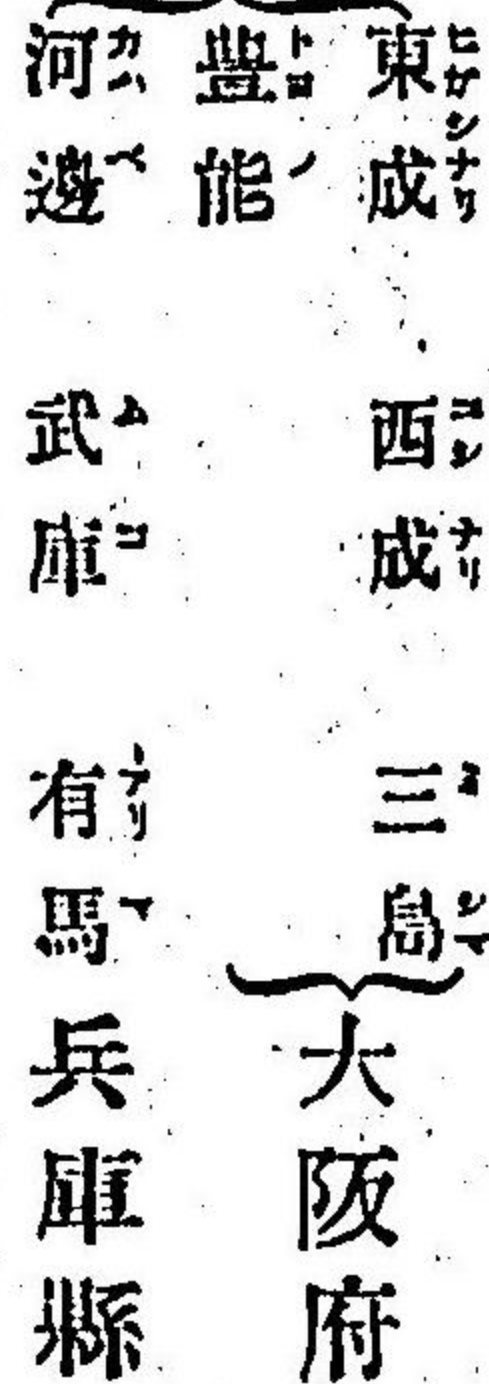
〔區劃〕畿内ハ五國アリ、都テ四市二十九郡。京都・大阪ノ兩府、奈良・兵庫ノ二縣ヲ以テ之ヲ分轄ス、即チ左ノ如シ。



攝津

七

郡



京都府ハ右ノ外尙ホ丹波ノ五郡ヲ管轄シ、兵庫縣ハ尙ホ播磨、但馬、淡路一圓及丹波ノ二郡ヲ管轄ス。

〔海岸〕本道ノ海岸ハ、獨リ大阪灣ノ沿岸アルノミナリ。大阪灣ハ和泉、攝津ノ間ニ在リ、一ニ茅渚、海ト稱ス。灣内水甚タ深カラス。海岸線又出入少シ、然レトモ亦二三ノ良港ヲ闕カス。和泉ノ堺港、攝津ノ大阪港、神戸港皆此灣内ニ在リ。神戸ノ西ナル和田岬ト、堺ノ西ナル觀音崎トハ、灣中著名ノ岬ニシテ、南北遙ニ相對セリ。攝津ノ海岸ハ、白砂青松相映シテ頗ル佳趣アリ、特ニ其西隅ナル須磨ノ如キハ、後ニ青山ヲ負ヒ、前ニ淡路島ヲ受ケ、古ヨリ勝地ヲ以テ稱セラル。

(地勢山岳) 畿内ノ地ハ、中部淀川及大和川ノ近邊ハ低平ナレトモ、其他ハ大抵、山岳ナリ。今其最モ著名ナルモノヲ舉クレハ、山城ノ正北ニ鞍馬山アリ、其西ニ愛宕山アリ。愛宕山ハ山城第一ノ高峯ニシテ高サ三千三百八十尺、其麓ニ高雄山アリ、其南ニ嵐山アリ、高雄ハ紅葉ヲ以テ著レ、嵐山ハ櫻花ヲ以テ知ラル。比叡山ハ、東境ニ聳エテ、近江ニ跨カリ、高サ二千七百二十尺、都富士ト稱セラル。國ノ南部、大和ノ境ニ笠置山アリ、後醍醐帝ノ舊蹟タルヲ以テ、其名特ニ著ル。大和ノ南部ニハ、金峯山・大峯山・彌山・釋迦ヶ岳等十二ノ高峯競ヒ立ツ。是レ即チ吉野山彙ニシテ、其彌山ハ六千七百餘尺ノ高サニ達シ、美濃以西ノ最高峯タリ、金峯山ハ通常之ヲ吉野山ト云フ、南朝四十餘年間ノ舊都趾ニシテ、櫻花ノ名所タリ。河内大和ノ境ニハ金剛山アリ、其西麓ハ即チ楠公千早城ノ故趾ノアル所ナリ。

(河流) 諸川、概チ源ヲ東ニ發シテ、西ニ流レ、大和南部ノ數川ヲ除キ、悉ク大阪灣ニ注ク。

淀川ハ、上流ヲ宇治川ト稱シ、源ヲ近江ノ琵琶湖ニ發シ、山城ニ入り、西流シテ淀ニ至リ、淀川トナリ、河内攝津ノ境ヲ流レ、下流ハ神崎・中津・安治及木津ノ諸川ニ分レ、遂ニ大阪灣ニ注ク。流程十五里餘ニテ、甚タ長カラスト、雖モ幅廣クシテ流レ緩ナルカ故ニ、舟運ノ便利多ク、畿内第一ノ大河タリ。

桂川ハ上流ヲ大堰川ト云フ、丹波ヨリ來リテ嵐山ノ麓ヲ過キ、鳥羽ニ至リテ鴨川ヲ合セ、遂ニ淀川ニ入ル、流程二十六里。

(池沼) 池沼ノ大ナルモノ少シ、只山城ノ巨掠及河内ノ狹山ノ池、稍著名ナリトス。巨掠池ハ、俗ニ大池ト呼フ、周回四里十一町ナリ。

(鑛泉) 鑛泉ハ數十箇處アリ、攝津ニ最モ多シ。其有馬ノ鑛泉ハ、本邦

最舊ノ温泉ニシテ其名全國ニ高シ。

〔平原〕 中部ニ淀川及大和川ノ二大平原アリ。淀川平原ハ山城ヨリ攝津ニ亘リ、大和川平原ハ、大和・河内・和泉ノ三國ヲ連ヌ、何レモ流水ノ作用ニ因リテ生シタル低原ニシテ、地味極テ膏腴ナリ。

〔氣候〕 氣候ハ之ヲ概論スレハ、寒暖俱ニ中和ナリ、然レトモ山地ト海邊ノ低地トハ、其間自ラ差違アルハ論ヲ俟タス、雨量ハ稍少量ナリトス。左ニ京都及大阪兩測候所創設以來ノ氣象概表ヲ示ス。但シ温度ハ攝氏寒暖計ニ據ル、以下皆然リトス。

測候所	最高温度ノ極	最低温度ノ極	平均温度	雨雪水量	雨雪日數
京都	三六・二	零下 一一・九	一三・八	一四四四 <small>キログラム</small>	一五七日
大阪	三五・八	零下 七・一	一四・七	一三三二 <small>キログラム</small>	一三二日

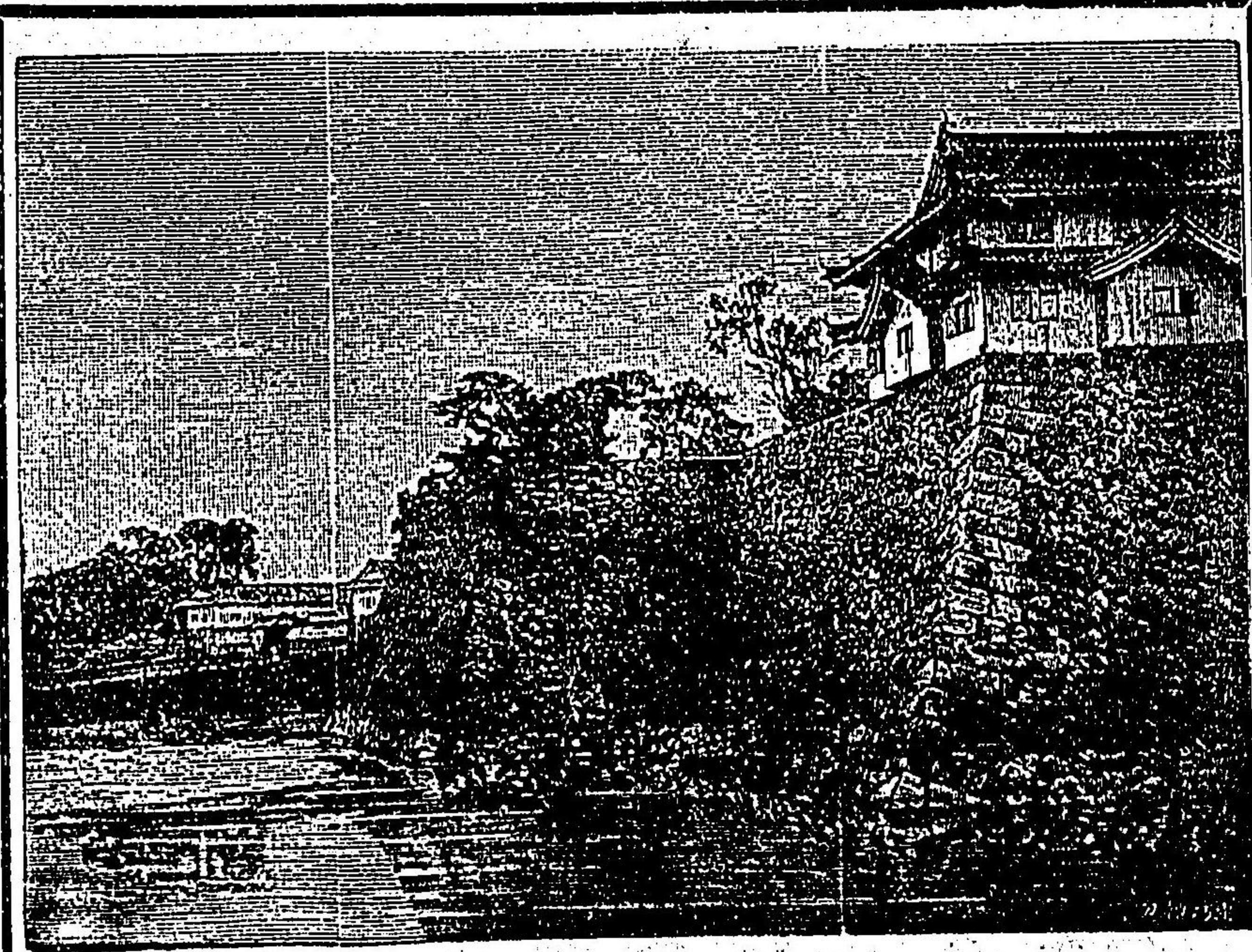
〔物産〕 平原ハ五穀・蔬菜・果物・綿・茶・藍ヲ産シ、山林ハ良材ニ富ム、殊

ニ大和ノ吉野杉ハ、盛ニ諸國ニ輸出ス。製品ニハ京都ノ西陣織・友禪染・陶器・刺繡物・宇治ノ製茶・大和ノ飛白・奈良晒・吉野紙・吉野葛粉・河内ノ木綿・和泉ノ堺段通・鐵器・攝津ノ灘酒・伊丹酒・マツチ・大阪ノ紡績・絲織物・細工物・硫酸等ヲ最トナス。左ニ二三ノ統計表ヲ示ス。

一 京都府	織物(明治二十六年)	帶地織物(明治廿六年)
絹	一、一六〇、五七九反	一七七、一〇九本
木綿	五六三、八三四反	五八九、六〇二本
絹木綿	四六九、一〇〇反	六八二、〇〇〇本
一 大阪府		
木綿織物	二、九三三、五三八反	(明治二十六年)
紡績木綿絲	七、二五二、四四四貫	(明治二十六年)
一 兵庫縣		
清酒醸造高	四九六、四七六石	(明治二十六年)

〔都市〕 畿内ハ 神武天皇以來、明治初年ニ至ルマテ、數千年間、我國

帝都ノアリシ地ナレハ、都會名邑ト稱スヘキモノ甚々多シ、就中京
 都・大阪・神戸・奈良・堺ヲ最モ盛ナリトス。
 京都ハ三府ノ一ナリ。桓武帝ノ延暦以後千七十六年間ノ帝都ニ
 シテ、明治元年遷都ノ時ヨリ、武藏ノ東京ニ對シテ西京ト呼フ。其地
 山城ノ中央ニ位シ、東ハ鴨川ニ臨ミ、愛宕山西方ニ峙チ、鞍馬山北方
 ニ聳エ、比叡山東方ニアリテ、三方皆塞カリ、只南ノ一方伏見ニ通ス
 ル平野アルノミナリ。人口三十三萬九千八百餘、京都府廳此地ニ在
 リ、市街ハ縱横ノ道路井然トシテ、碁盤ノ目ノ如ク、大路七條東西ニ
 通ス。ソノ三條通ヲ界トシテ、全市ヲ上下ノ二區ニ別テリ、而シテ市
 中最モ繁華ノ處ヲ三條通及四條通トナス。舊皇居ハ市ノ北部ニ在
 リ。又二條城ハ西方ニ在リテ、今二條ノ離宮ト稱ス。市民ハ一般ニ閑
 雅優美ニシテ、審美ノ思想ニ富メリ。故ニ此地ハ諸工業頗ル盛ニシ



大 阪 城

テ製品亦精良、其名内外ニ高
 シ。又此地ハ本邦中最モ勝地
 舊蹟ニ富メルヲ以テ、士人ノ
 四方ヨリ來リ遊フモノ多シ。
 大阪ハ、三府ノ一ニシテ、攝津
 ノ南西隅、淀川ノ河口ニ在リ、
 大阪府廳ノ在ル所ナリ。人口
 四十九萬餘、市内ヲ東西南北
 ノ四區ニ分ツ。溝渠縱横ニ通
 シ、水運極テ便利ナリ。此地ハ
 東西諸國ノ中心ニ當ルヲ以
 テ、商業頗ル盛ニ、本邦物價ノ

昂低ヲ掣ス。市街ノ北東ニ大阪城アリ、今第四師團司令部ヲ此ニ置
 ケリ。淀川ノ本流ナル大川ヲ隔テ、造幣局アリ、其西ニ天滿宮アリ。
 又市ノ南東ニ四天王寺アリ、其他宏壯ノ建物亦尠カラズ。
 神戸ハ五港ノ一ニシテ、日本第二ノ貿易市場タリ、港内水深クシテ、
 内外ノ船舶常ニ輻湊セリ。其地攝津ノ西隅ニ在リ。北ニ山ヲ負ヒ南
 ニ海ヲ受ケ、氣候温暖ナリ。西、湊川ヲ夾ミテ兵庫ト相對ス。此地兵庫
 ト合シテ一市タリ、之ヲ神戸市ト稱ス。市ハ人口十六萬一千四百餘
 ニシテ、頗ル殷賑ナリ。湊川神社ハ、湊川ノ東ニ在リ、楠正成ヲ祀ル、參
 詣ノ人常ニ絶ユルコトナシ。布引ノ瀑ハ、市ヲ距ルコト凡半里、北東
 ノ方摩耶山ノ麓ニ在リ、風致賞スヘシ。
 奈良ハ、桓武帝以前、七世八十四年間ノ帝都タリシ地ニシテ、今尙
 ホ南都ト稱シ、日本美術ノ淵源地タリ、人口二萬六千九百餘。其地大

和ノ北隅ニ在リ、奈良縣廳此處ニ在リ。市街ノ東部ニ春日社、東大寺
 ノ名勝アリ。東大寺ニハ著名ナル奈良ノ大佛アリ、五丈三尺ノ坐像
 ナリ。側ニ正倉院アリ、其庫内ニハ一千餘年前ノ珍器ヲ藏ス。
 堺ハ大阪ノ南四里、大和川ノ口ニ在リ。大阪神戸ト水陸ノ往來繁シ。
 人口四萬七千七百餘。鐵器、段通、煉瓦石等ノ製造盛ナリ。
 今左ニ人口一萬以上ニシテ著名ナル市町名及人口表ヲ掲ク。

山城	京都市	三三九、八九六
伏見	町	一七、五六五
大和	奈良町	二六、九三八
郡	山町	一二、七九五
和泉	堺市	四七、七〇六
大阪	市	四九〇、〇〇九
神戸	市	一六二、四〇六

攝津

尼ヶ崎町	一四、六七七人
西宮町	一二、四六六人
曾根崎村	一三、八一六人
東平野町	一四、三六四人

三 東海道

(位置廣袤人口) 東海道ハ、西ハ畿内及紀伊ニ接シ、北ハ東山道ニ界シ、東及南ハ太平洋ニ面ス。其形、東西ニ長クシテ、南北ニ狭ク、東西最モ長キ處、一百二十里、南北最モ長キ處、三十二里餘。面積二千六百六十三方里餘ニシテ、人口一千〇四十八萬七千七百五十八人ナリ。
 (區劃) 本道ハ十五個國、七市百〇八郡ニ別ル。一府八縣ヲ以テ之ヲ分轄ス、即チ左ノ如シ。

伊賀二郡 阿山名賀

伊勢	志摩	尾張	三河	遠江	駿河	甲斐
津市	一郡	九郡	十郡	六郡	一郡	九郡
桑名 員部 三重 鈴鹿 河越 安濃 一志 三重縣	志摩 名古屋 愛智 東春日井 西春日井 丹羽 葉栗	中島 海東 海西 知多 碧海 幡豆 額田 西加茂 東加茂 北設樂	南設樂 寶飯 渥美 八名	榛原 小笠 周智 磐田 濱名 引佐	靜岡 駿東 富士 庵原 安倍 志多	甲府 東山梨 西山梨 東八代 西八代 南巨摩 北巨摩 北都留 南都留
三重縣	愛知縣	靜岡縣	山梨縣			

伊豆二郡 賀茂田方 靜岡縣

相模八郡 三浦 鎌倉 高座 中 足柄上 足柄下 神奈川縣

東京府

神奈川縣

武藏

二十郡 市 東京 横濱 橋本 久良岐 都筑 荏原 西多摩 南多摩 北多摩 豊多摩 北豊島 南足立 南葛飾 大里 秩父 入間 南埼玉 北埼玉 北足立 埼玉 比企 児玉 北葛飾

埼玉縣

安房一郡 安房

千葉縣

上總五郡 市原 長生 山武 君津 夷隅 千葉 東葛飾 印旛 香取 匝瑳 海上 下總九郡 狹島 結城 北相馬

常陸

一市 水戸 十一郡 東茨城 西茨城 那珂 久慈 多賀 真壁 鹿島 行方 新治 筑波 稻敷 茨城縣

右ノ外ニ三重縣ハ紀伊ノ二郡ヲ東京府ハ伊豆七島及小笠原島ヲ管轄ス。

〔海岸〕 本道ノ海岸ハ、大小ノ屈曲極テ多ク、名港良灣少カラズ。陸地

ノ海中ニ突出セルモノ、伊豆及房總ノ二大半島ヲ以テ最トナス。伊豆半島ハ駿河・相模ノ間ヨリ、遠ク南方ニ突出スルコト十四里、其最南端ヲ石廊崎ト云フ。此邊ハ巨巖高ク峙チ、波濤激奔シテ、舟行頗ル危険ナリ。

房總半島ハ、伊豆半島ノ東方ニ在リテ、北東ヨリ南西ニ斗出スルコト二十餘里、其最南端ヲ野島崎ト稱シ、西方ニ突出セル岬角ヲ洲崎ト云フ。半島ノ東側ニハ大東崎アリ、之ヨリ以北ハ海岸一帯平沙相

連リテ東端犬吠崎イヌガキ俗ニ犬坊崎イヌガキト云フニ達ス。此間ニ有名ナル鯉ノ
漁場アリ。古來稱シテ九十九里濱ト云フ。

又前記兩半島ノ中間ニ相模三浦郡ノ山嘴アリ。其東側ニ觀音崎アリ。遙ニ房總半島ノ西側ナル富津崎ト相對シ。東京灣ノ口ヲ扼シ。砲臺ヲ築ケリ。駿河灣ノ西。遠江ノ南東端ニ突出スルモノヲ御前崎ト云フ。三河ノ渥美郡ハ。西ニ向ヒテ半島狀ニ延出ス。其西端ヲ伊良胡崎ト云フ。尾張ノ知多郡ハ。南ニ向ヒテ長ク斗出シ。其岬端ハ。即チ羽豆崎ウヅノサキ又師崎シノサキナリ。志摩ノ沿岸ハ。小屈曲甚々多ク。南方ノ岬角ヲ麥崎ト稱シ。西ニ在ルヲ御座崎ト云ヒ。東ニ在ルヲ大王崎ト云フ。伊勢海ハ伊勢尾張ノ間ニ在リテ。志摩ト伊良胡崎ト其口ヲ扼ス。東西五六里。南北十餘里。沿岸凡三十里アリ。駿河灣ハ伊豆・駿河・遠江ノ間ニ在リ。其沿岸二十餘里。田子浦其正中ニ在リ。浦ノ西方ヨリ一帯

ノ沙嘴東方ニ向ヒテ灣内ニ斗出スルコト一里許。翠松其上ニ列生シ。風景秀絶。世ニ三保松原ト稱スルモノ即チ是ナリ。東京灣ハ觀音崎ト富津崎ノ間ヨリ彎入セル内海ニシテ。南北二十里。東西五里ヨリ十里ニ及ヒ。周回凡五十里許。岸邊ハ大率水淺クシテ。大船ノ碇泊ニ便ナラサレトモ。西岸ニハ二三ノ良港アリ。伊勢海ノ東。知多渥美ノ兩郡ニ抱カレテ一灣アリ。其西部知多郡ノ方ヲ知多灣又衣浦ト云ヒ。東部渥美郡ノ方ヲ渥美灣ト云フ。濱名灣ハ遠江ノ南西隅ニ在リ。東西四里。南北五里許。往時ハ一ノ湖水ナリシカ。明應八年地震ノ爲メニ外海ト交通スルニ至レリ。故ニ其海口ヲ今切ト云フ。

(港津) 港津ノ著名ナルモノ。伊勢ニ四日市及桑名ノ兩港。志摩ニ鳥羽。的矢ノ二港。尾張ニ師崎。武豐等ノ二三港。三河ニ大濱港。遠江ニ掛塚港。駿河ニ清水港。伊豆ニ下田港。相模ニハ浦賀・横須賀ノ二港アリ。

下田・浦賀ハ一時外國船ノ入泊ヲ許セシ所、横須賀ハ軍港ニシテ東洋稀有ノ大造船所アリ。又武藏ニ横濱港アリ、開港場ノ第一ニ居ル。其他ハ安房ノ館山港、上總ノ木更津港、下總ノ銚子港、常陸ノ那珂平瀨ノ二港等ナリ。

(近海) 志摩ノ大王崎ヨリ伊豆ノ石廊崎ニ亘ル海上ハ、之ヲ遠州灘ト稱シ、水程凡七十里、古ヨリ航海ノ難所ト稱セラル。相模ノ城カ島ヨリ、伊豆半島ノ東側ニ至ル海上ヲ相模灘ト云フ。房總半島ノ東方海上ハ、之ヲ房州沖ト稱シ、黒潮ノ衝ニ當リテ、潮流甚々急ナリ、犬吠崎以北常陸ノ海上ハ、之ヲ鹿島灘ト云フ。

(島嶼) 本道ノ島嶼中、最モ著名ナルハ伊豆七島及小笠原群島並ニ硫黃島トナス。伊豆七島ハ大島、利島、新島、神津島、三宅島、御藏島及八丈、縞ノ産地ナル八丈島ヲ以テ成リ、伊豆半島ノ南東海上四十餘里

ノ間ニ羅列ス、其近クシテ且ツ大ナルモノヲ大島ト云ヒ(周圍十里二十六町)伊豆ノ東岸ヲ距ルコト凡六里ナリ。

小笠原群島ハ伊豆ノ南方、二百餘里ノ海中ニ在ル十七箇ノ島嶼ヨリ成リ、其最大ナルモノヲ父島(十四里三十四町)母島(十四里十九町)トシ、兄弟、姉妹、鯉、媳等ノ諸島之ニ次キ、皆山多クシテ平地少シ。此群島ハ文祿年中、小笠原貞頼ノ發見セシ處ニシテ、現今ノ居民内外人ヲ併セテ二千餘人アリ。母島ノ南六七十里ノ海上ニ近時我邦ノ版圖ニ入リシ、三箇ノ火山質島嶼アリ、之ヲ硫黃島列島ト呼フ。

(地勢山岳) 本道ハ、地面南ニ向ヒテ徐々ニ低ク、其河流モ概テ南流ス。之ヲ概論スルニ、東西兩部ノ諸國ハ平地ニ富ミ、中部諸國ハ山多シ。今其著名ナル高山ヲ舉クレハ、常陸ニハ東部平野ノ間ニ筑波山アリ、安房、鋸山ハ上總ノ境ニアリ、山骨露出シテ鋸齒ノ如シ、多ク石

材ヲ出ス、房州石ト稱スルモノ是ナリ。武藏ノ秩父郡ニハ武甲山、三



富士山ノ遠景

ヨリ望見スルヲ得ヘシ、其絶頂ニハ古ノ噴火口アリ、中腹以上ハ赭

峯山、雲取山等ノ諸山アリ、總稱シテ秩父山ト云フ。甲斐ハ關東山脈ト富士帶トノ蟠嶁スル所ニシテ、高山多シ。其最タルモノ、信濃ノ境ニハケ岳九、六八〇アリ。其東ニ金峯山、國師岳。西ニ駒ヶ岳（九、九〇五）地藏岳、白根（一〇、二一〇）七面身延等ノ諸山アリ。而シテ本脈ノ主タル富士山ハ、甲駿二州ノ境ニ屹立シ、其高サ一萬二千四百六十七尺、我邦ノ名山ナリ。快晴ノ日ニハ、三四十里ノ遠方

石疊ヤトシテ植物ヲ生セズ。山容ハ圓錐狀ニシテ、火山ノ好標本タリ。頂上ニハ四時白雪斷ユルコトナシ。

相模ノ中央ニ雨降山アリ、一名ヲ大山ト稱ス。西境ニ箱根山アリ、其山頂ノ湖水ヲ蘆湖ト云フ、古ノ噴火口ナリ。箱根ハ東海道中第一ノ難處ニシテ、登降八里ト稱ス。

伊豆半島ハ箱根山嶺ノ南延セルモノニシテ、天城山（五、五六四）最も高ク、山中多ク良材ヲ産ス。又富岳ノ西、遠江ノ境ニ最モ高キモノヲ大無間山トナス、高サ九千三百四十尺アリ。遠江ニハ大井、天龍兩河ノ間ニ北ニ黒法師山アリ、中央ニ秋葉山アリ、有名ナル小夜、中山ノ坂路ハ其南麓ニ在リ。尾張ノ小牧山ハ、平野ノ中央ニ孤立スル一小山ナレトモ、天正年間、羽柴、徳川二氏對陣ノ地ナルヲ以テ世ニ知らル。伊勢近江ノ境ナル鈴鹿山ハ、東海道ノ通路ニ當リ、頗ル急峻ニシ

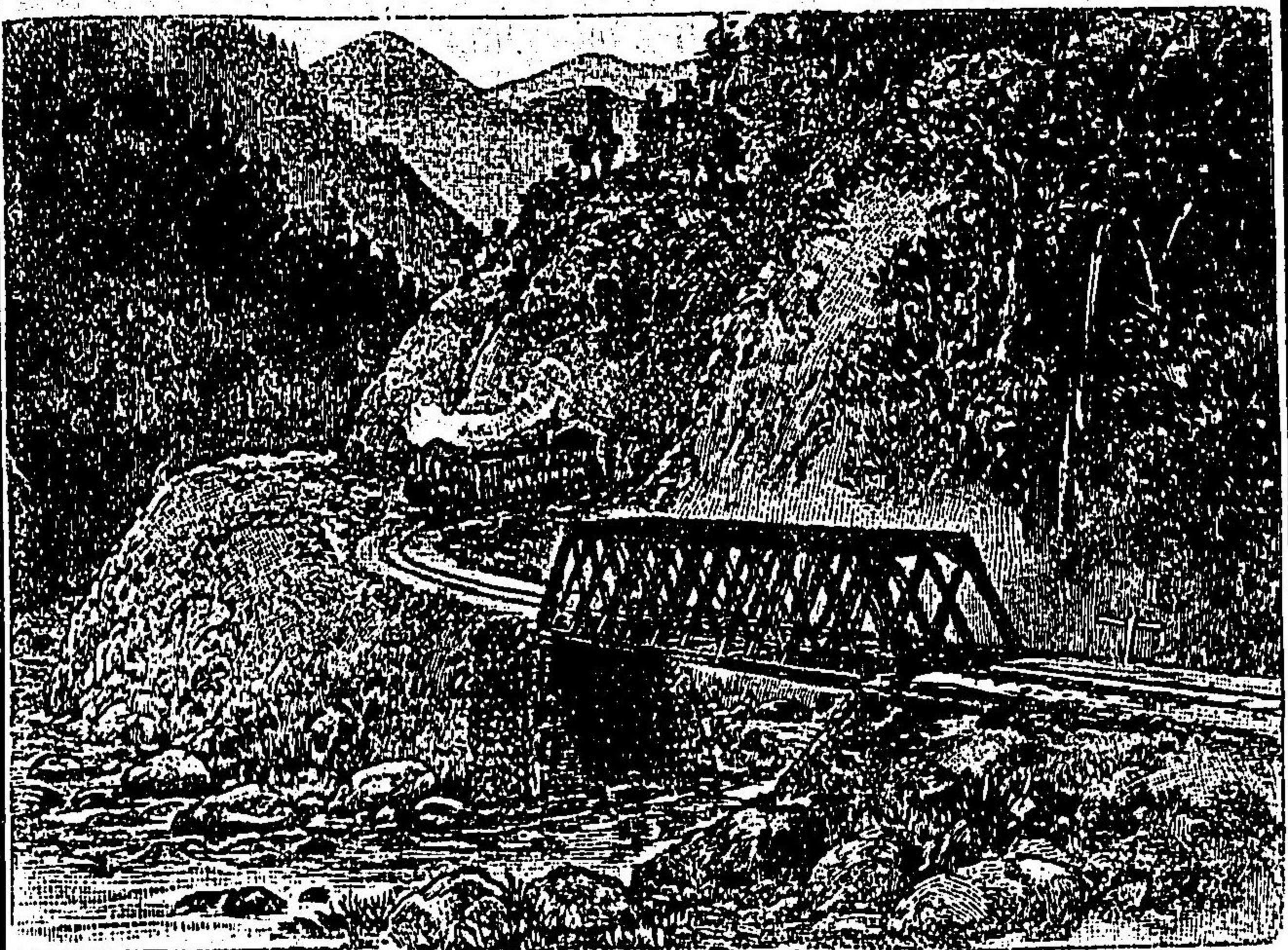
テ、其南麓ニ鈴鹿關ノ古跡アリ、日本三關ノ一タリ。
 (河流) 本道河流ノ最モ長キモノハ、利根川ニシテ、天龍川・木曾川之
 ニ次キ、共ニ東海道ノ三大河ト稱セラレ。利根川ハ、我邦第三ノ長流
 ニシテ、俗ニ坂東太郎ト稱ス、上野文珠山ニ發源シ、南流シテ下總ノ
 關宿ニ至リ、分レテ二川トナル、其本流ハ更ニ南東ノ方向ニ流レ、鬼
 怒川・小貝川ヲ併セ常陸・下總ノ境ニ沿ヒ、銚子港ニ至リ、海ニ注ク、流
 程七十一里、河口ハ其幅一里ニ達ス、關宿ニ至ルマテ、小汽船ノ往來
 自在ニシテ、運輸ノ便、東國ニ冠タリ。支流ハ武藏・上總ノ界ニ沿フテ
 南ニ流レ、東京灣ニ入ル、江戸川是ナリ。里見氏没落ノ古戰場タル有
 名ナル國府臺ハ、其左岸ニアリ。今ハ教導團ヲ茲ニ置ケリ。
 天龍川ハ、源ヲ信濃ノ諏訪湖ニ發シ、遠江ニ入りテ、眞直ニ南流シ、下
 流分レテ大天龍・小天龍ノ二派トナリ、共ニ掛塚港ニ注ク、湖口ヨリ

417511

海ニ至ルマテ五十六里。

木曾川ハ源ヲ信濃筑摩郡ニ發シ、美濃・尾張ノ境ヲ流レ、下流數派ト
 ナリテ、伊勢海ニ入ル、流程五十五里。

以上三川ニ次キテ大ナルモノ、常陸ニ那珂・久慈ノ二川アリ。武藏ニ
 荒川及多摩川アリ、荒川ハ源ヲ秩父山中ニ發シ、東京灣ニ注ク、其下
 流ハ、即チ東京ノ東部ヲ流ル、隅田川ニシテ、櫻花ヲ以テ有名ナル
 向島ハ、其東堤タリ。多摩川ハ源ヲ甲斐ノ大菩薩山ニ發シ、東京灣ニ
 注ク、其水極テ清キカ故ニ、引キテ東京市中ノ飲料ニ供セリ、相模ニ
 ハ馬入・酒匂ノ二川アリ、其酒匂川ハ富士山麓ニ發シ、小田原ノ東ヲ
 流レ、海ニ入レルモノニテ、此川ノ溪間ハ、東海道鐵道箱根ノ嶮ヲ避
 ケテ此ニ通ス、頗ル難所ナリ。駿河ニハ、富士川アリ、甲斐ヨリ來リ、駿
 河ノ中央ヲ横キリテ、田子浦ニ注ク、水勢極テ急ニシテ、日本三急流



酒勾川溪間汽車進行ノ圖

ノ一ト稱セラル。駿河ト遠江ノ境ニ大井川アリ、此河平時ハ水甚々少ク、河床半ハ露出スレトモ、雨フヲハ暴ニ漲ル。

(湖沼) 本道湖沼ノ大ナルモノハ霞浦・北浦・印旛沼等ニシテ、就中霞浦ヲ大ナリトス、霞浦ハ常陸ノ南部ニ在リ、周回三十六里、面積七方里餘ニシテ、近江ノ琵琶湖ニ次ク大湖タリ。霞浦ノ

東ニ北浦アリ、周回凡十五里、利根川ト共ニ銚子港ニ注ク。印旛沼ハ下總ノ中央ニ在リ、周回十二里、其形屈曲シテ南沼・北沼ニ分ル。遠江ニ佐鳴湖・高塚湖アリ。甲斐ノ川口・山中・本栖・西・精進・四尾連ノ六湖ハ、駿河ノ富士沼及相模ノ蘆湖(四里三十丁)ト共ニ富士八湖ト稱ス。蘆湖ハ箱根山頂ニ在リ、山緑ニ水清ク、避暑ニ宜シ。湖畔ニハ離宮ノ設ケアリ。

(鑛泉) 鑛泉モ亦其數四十個處ノ多キアリ、鑛泉場ノ最モ著名ナルハ、伊豆ノ熱海ニシテ、伊豆半島ノ地頸ニ在リ、風景絶佳ニシテ、冬季モ氣候温暖ナルヲ以テ、貴顯紳士ノ遊浴スルモノ多シ。ユノ温泉ハ、晝夜各、三回、時ヲ違ヘス、熱湯ヲ涌出ス、所謂間歇温泉ト稱スルモノナリ、地下ニ沸沸ノ聲アルヲ聞クヤ、直ニ熱湯噴キ上リ、凡一時半ニシテ止ム。泉質ハ硫黄鹽類ヲ含ム。熱海ニ次クモノハ、相模ノ湯本・塔

澤・宮下・堂ヶ島・底倉・木賀・蘆湯等ニシテ、共ニ箱根山中ニ在リ、コレヲ箱根七湯ト稱ス。其地清凉ニシテ、三伏ノ候尙ホ暑ヲ感セス、夏期浴客多シ。其他伊豆・甲斐・武藏・伊勢等ニ尙ホ數多アリ。

(平原) 本道ノ平原ハ、關八州ノ平野及尾張地方ヲ最トナス。關八州ノ平野ハ、相模以東、本道中ノ六州ト東山道ナル、上野下野ノ兩州ニ連リ、方五六十里ニ亘ル。習志野・小金ヶ原ハ、下總ノ南部ニ在リ、此平野中武藏ノ秩父山以東、東京灣ニ至ル間ハ、所謂武藏野ノ原ニシテ、昔時ハ寂寥無人ノ荒野ナリシカ、今ヤ田畝大ニ闢ケ、村里相連リ、殆ト遺地ナキニ至レリ。尾張ハ東及南ニ小丘アレトモ、他ハ美濃ト共ニ全ク平坦ノ沃野ナリ。

此他ノ諸國モ、沿海ノ地ハ概テ平坦ナリ。渥美邊ニ本野原アリ。遠江ノ海濱ニ牧野原・三方原ノ廣野アリ。三方原ハ有名ノ牧場ニシテ、古

之ヲ引馬野ト呼ヘリ。駿河ノ富士ノ裾野ト稱スルハ、富士南麓ノ廣原ニシテ、浮島原トハ、愛鷹山ト田子ノ浦トノ間ナル平地ナリ。

(氣候) 本道ハ各地互ニ地勢ヲ異ニスルコト少カラスト雖モ、其地南方開ケテ、太平洋ノ暖濕ナル空氣ニ浴スル所多キヲ以テ、全道ノ氣候ハ、概シテ暖カニ、降雨ノ量亦頗ル多シ。但シ伊豆七島ノ内、八丈島及小笠原群島並ニ硫黃島ハ、熱帶ニ近キカ故ニ、四季頗ル温熱ナリ。今本道内ニ於ケル測候所ノ實測ニ係ル温度、雨量及雨天日數ヲ左ニ掲ク。

測候所	最高温度ノ極	最低温度ノ極	平均温度	雨野水量	雨野日數
津	三五・二	零下五・七	一四・二	一八六七耗	一六五日
名古屋	三五・八	零下六・七	一四・一	一六三七耗	一四四日
濱松	三六・九	零下五・二	一四・九	一八三五耗	一三四日
沼津	三四・一	零下八・七	一四・九	一八九四耗	一四二日

魚白

東京 三六・一 零下九・二 一三・七 一四九八耗 一四一日
 銚子 三三・六 零下四・九 一五・〇 一五七五耗 一四五日

(物産) 本道ハ農産物少シトセス、中ニモ尾張ノ米・麥・藍・大根・三河ノ綿・遠江・駿河ノ茶・常陸ノ烟草・甲州ノ蠶絲・葡萄等殊ニ著名ナリ。又伊豆天城山ノ山林ハ、有名ナル林区ニシテ、檜・樅其他ノ良材ニ富ム。製品ハ織物ヲ第一トシ、武藏ノ秩父絹・八王子織物・甲斐ノ郡内織・甲斐絹・山繭織・下總ノ結城紬・銚子縮・尾張ノ鳴海絞・伊勢ノ緞子・紗・松坂縞・八丈島ノ八丈縞等ハ其名海内ニ高シ。左ニ重ナル數縣ノ織物量數表(明治二十六年)ヲ示ス。

縣	絹織物	木綿織物
山梨縣	五一四、二六八反	八四、四六六反
埼玉縣	二五六、三五一反	三、五一三、一九四反
神奈川縣	二五六、三五一反	二三、六二〇反

愛知縣 九、二五一反 一二、四八二、四六四反

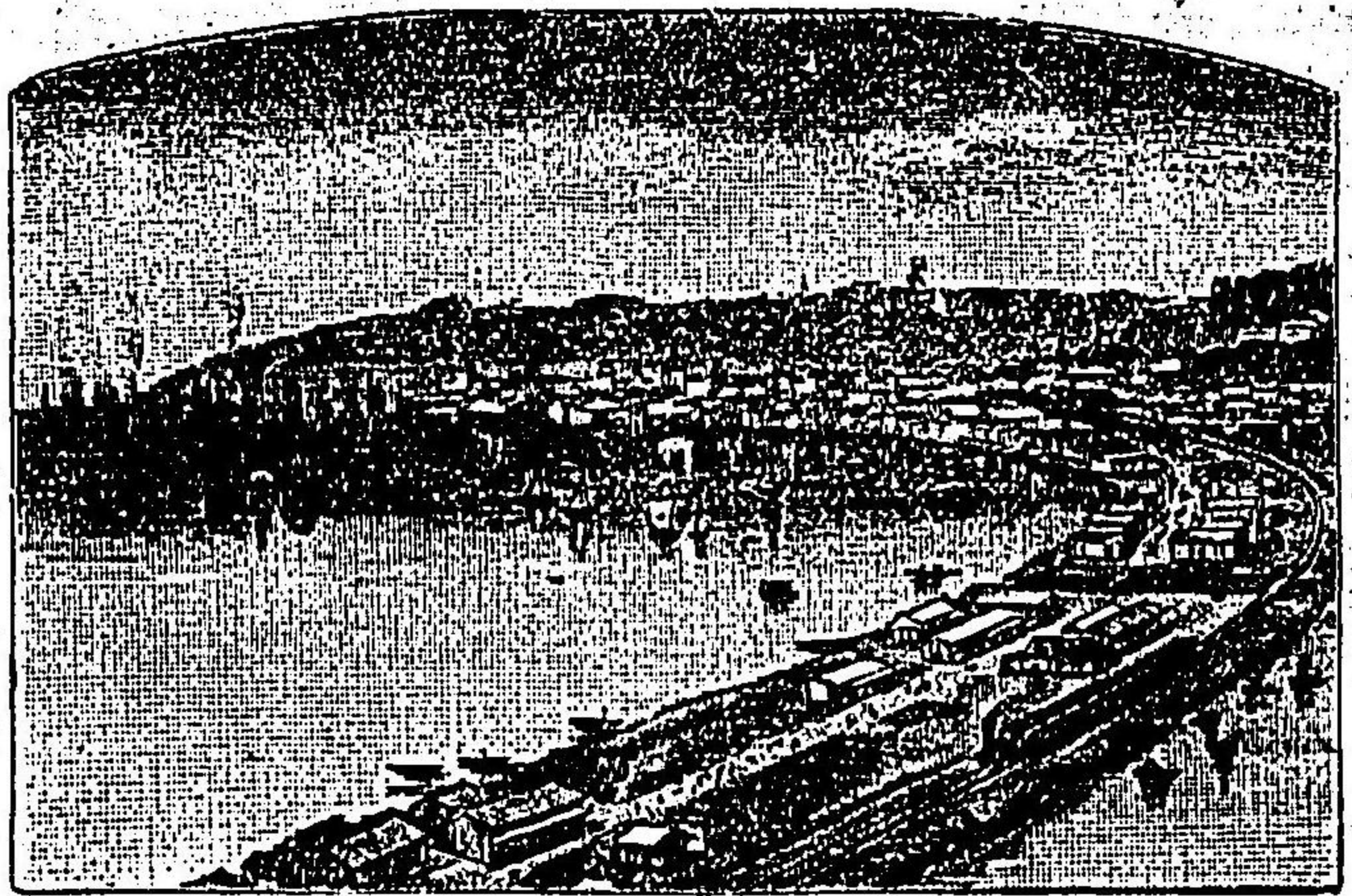
陶器ハ、伊勢尾張地方最モ盛ニシテ、伊勢ノ萬古燒・尾張ノ瀬戸燒・七寶燒・犬山燒ハ其名世ニ高シ。此他諸種ノ製造品中、著名ナルモノヲ舉クレハ、伊勢ノ染形紙・尾張ノ名古屋扇・駿河ノ駿府細工・駿府塗・駿河半紙・伊豆ノ雁皮紙・相模ノ貝細工・武藏ノ川口鑄物・淺草海苔・下總ノ流山味醂・野田醬油・佐原酒・佐倉炭・行徳鹽・常陸ノ紙類・銅器等ナリ。漁業ハ、伊勢海・駿河灣・相模灣及九十九里濱最モ盛ニシテ、諸種ノ魚介・海藻等ヲ産ス。就中、伊勢ノ海蝦・時雨蛤・志摩ノ眞珠・駿河ノ興津鯛・相模ノ鰹・兩總ノ鰺等ハ最モ著名ナルモノタリ。鑛産中金屬ハ甚々豊ナリト云フヘカラス。金ノ如キハ僅ニ伊豆・甲斐ヨリ少量ヲ産スルノミ。然レトモ非金屬中、三河ノ御影石・名倉砥・遠江ノ石腦油・甲斐ノ水晶・雨畑硯・伊豆ノ石材・安房ノ石材及磨砂・常



宮城二重橋ノ圖

陸ノ石炭・大理石等ハ有名ナリ。
 (都市) 本道著名ノ都市ハ、武藏ノ東京・横濱、尾張ノ名古屋、駿河ノ静岡等ヲ最トナス。
 東京ハ、我國ノ首府ニシテ、宮城ヲ始メトシ、中央諸官省皆此處ニ在リ、東京府廳亦此處ニアリ。其地北緯三十五度三十九分十五秒、東經百三十九度三秒(東京天

文臺ニ位シ。東京灣ノ北西岸ニ在リ、隅田川其東部ヲ流ル。地勢大率平坦ニシテ、只小丘其北西部ニ斷續セルノミナリ。廣袤東西三里南北四里、全市ヲ分チテ十五區トナス、人口百三十四萬、街路清潔ニシテ、夜間ハ無數ノ瓦斯燈・電氣燈輝々トシテ恰モ晝ノ如シ、人馬絡繹日夜絶エス。就中京橋・日本橋及神田ノ三區最モ繁華ナリ。
 宮城ハ、市ノ中央ニ卓立シ、繞ラスニ溝塹ヲ以テス。諸官衙、國會議事堂等大概其近傍ニ在リ。此府我邦文明ノ中心ナレハ、學校・病院・博物館・銀行・鐵道停車場・製造場・神社・佛閣等ノ規模宏大ナルモノ枚舉ニ遑アラズ。市街ノ間ニハ、處々ニ運河ヲ通シ、馬車鐵道ヲ通シタレハ、貨物ノ運輸、衆庶ノ交通皆極テ便ナリ。府ノ内外ニハ、名勝遊覽ノ地亦多シ、上野・芝・淺草ニハ大ナル公園アリ、向島及飛鳥山ハ、櫻花ノ名所タリ。其他龜井戸ノ梅瀧ノ川ノ紅葉等亦著名ナルモノナリ。



横濱港

横濱ハ、東京ヲ距ルコト南ノ方八里
 許、東京灣ノ西岸ニ位シテ、我邦第一
 ノ開港場タリ。本牧^{ホンセウ}ノ岬其南東ニ突
 出シ、港内廣闊、其深サ八仞ヨリ十仞
 ニ達シ、内外ノ大艦巨舶常ニ輻湊セ
 リ。市街ハ港ノ南西岸ニ臨ミ、神奈川
 縣廳茲ニ在リ。人口十七萬アリ。明治
 二十七年中、内外汽船ノ此港ニ出入
 セシモノ、左ノ如シ。

出船
 内國 外國

二〇
 一八六

一八、八八二
 二九一、六六八

入船
 内國 外國

二四
 二九〇

二二、〇二〇
 四四五、四四三

名古屋ハ、三府ニ次ク大都會ニシテ、尾張平野ノ南部ニ位シ、愛知縣
 廳ノアル所ナリ。市街ハ數里ニ連リ、水陸運輸ノ便大ナリ。名古屋城
 ハ市北ニ在リ、慶長十五年、徳川義直ノ建築セシ者ニシテ、其天主臺
 上ニ安置セル黄金ノ鯰ニヨリテ、其名世ニ高シ。

静岡ハ、駿河ノ安倍川ノ東岸ニ在リ、静岡縣廳ノ所在地ナリ。明治以
 前ハ之ヲ府中ト稱ス、故ニ又駿府ノ名アリ。徳川家康老後退隱ノ所
 タリ。市街頗ル繁盛ニシテ、漆器・竹器ノ産ヲ以テ名アリ。此他置縣都
 市ニハ、伊勢ノ津、甲斐ノ甲府、武藏ノ浦和、下總ノ千葉、常陸ノ水戸ア
 リ、皆頗ル繁盛ナル都會ナリ。又伊勢ノ宇治、山田ハ宮川ノ南岸ニ在
 リテ、豊受太神宮ヲ祀ル、之ヲ外宮ト稱ス。市街ノ南、五十鈴川畔ノ皇

太神宮ヲ内宮ト云フ。四方ヨリ參詣ノ人常ニ多シ。尾張ノ熱田ハ熱田神宮ノアル處ナルヲ以テ、單ニ之ヲ宮ト稱シ、伊勢ニ渡ル要津タリ。三河ノ岡崎ハ矢作川ノ東岸ニ在リ、昔徳川氏基業ノ地タリ、相模ノ小田原ハ箱根ノ東麓ニ在リテ、山ヲ負ヒ海ニ臨ミ、頗ル要害ノ地ニシテ、昔時北條氏ノ居城タリ。横須賀ハ觀音崎ノ北ニ在リテ、壯大ナル造船所アリ、海軍鎮守府ヲ茲ニ置キ、港内ニハ軍艦常ニ碇泊ス。武藏ノ品川・八王子・川越・千住・神奈川等ハ、皆往時有名ノ宿驛タリ。今人口一萬以上ノ著名ナル都市ヲ表示スレハ、次ノ如シ。

伊賀上野町	一二、九八六
宇治山田町	三〇、三〇一
桑名町	一九、九一八
伊勢津市	三〇、三一〇
四日市町	二一、一七九

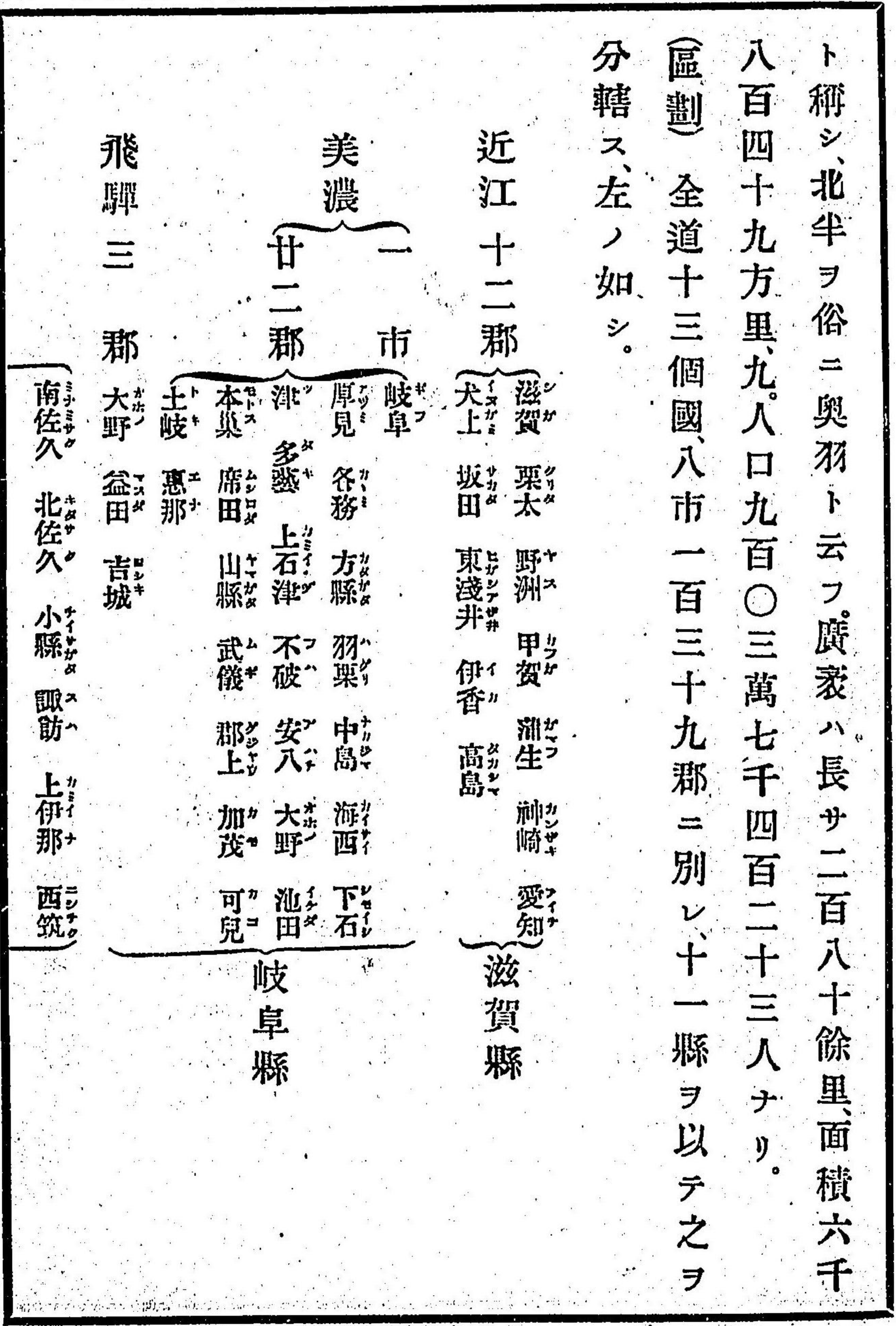
松阪町	一三、一三六
名古屋市	二〇、九二七〇
熱田町	一九、八三〇
豐橋町	一八、六二一
岡崎町	一七、〇九八
遠江濱松町	一六、七五五
駿河静岡市	三七、三一七
沼津町	一一、四五八
甲斐甲府市	三四、七〇二
小田原町	一五、一八一
横須賀町	一八、七五八
東京市	一、三四二、一五三
横浜市	一七〇、五九七
品川町	一五、二二六

武藏	八王子町	二五、五五六人
川越町	二〇、〇四七人	
千住町	一五、一四九人	
神奈川町	一七、〇〇一人	
本銚子町	一四、九五七人	
下總	千葉町	二五、七四〇人
船橋町	一二、二五七人	
常陸	水戸市	三〇、三六五人

四 東山道

〔位置廣袤人口〕東山道ハ、本道ノ西端ハ畿内及山陰道ニ連リ、南ハ東海道ニ接シ、北ハ連山ヲ以テ北陸道ニ界ス、而シテ北半ノ東ハ太平洋ニ瀕シ、西ハ日本海ニ臨ミ、北端ハ津輕海峡ヲ隔テ、蝦夷島ト相對ス、其南半、即チ東海・北陸兩道ノ間ニ介レル部分ヲ、通常中山道

ト稱シ、北半ヲ俗ニ奥羽ト云フ。廣袤ハ長サ二百八十餘里、面積六千八百四十九方里、九。人口九百〇三萬七千四百二十三ナリ。
〔區劃〕全道十三個國、八市一百三十九郡ニ別レ、十一縣ヲ以テ之ヲ分轄ス、左ノ如シ。



信濃十六郡

摩マ 東筑摩トウシクマ 下伊那シモイナ 南安曇ミナミアツタ 北安曇キタアツタ 更級オウジキ 長野縣

上野十一郡

勢多セタ 群馬グンマ 多野タノ 北甘樂キタカンラク 碓氷ウスヒ 山田ヤマダ 群馬縣

下野

宇都宮ウツノミヤ 河内カワチ 上都賀カミツガ 芳賀ハガ 下都賀シモツガ 鹽谷シホヤ 那須ナス 栃木縣

磐城十郡

相馬ソウマ 東白川ヒガシシラカハ 西白川ニシシラカハ 石川イシカハ 田村タムラ 雙葉フタバ 石城イシキ 福島縣

岩代十郡

信夫シノブ 伊達イダ 安積アサカ 安達アタダ 岩瀬イハセ 南會津ミナミエチマ 福島縣

市 仙臺センダイ

陸前

十四郡 柴田シロタ 名取ナトリ 宮城ミヤギ 黒川クロカハ 加美カミ 志田シダ 玉造タマヅクリ 宮城縣

陸中

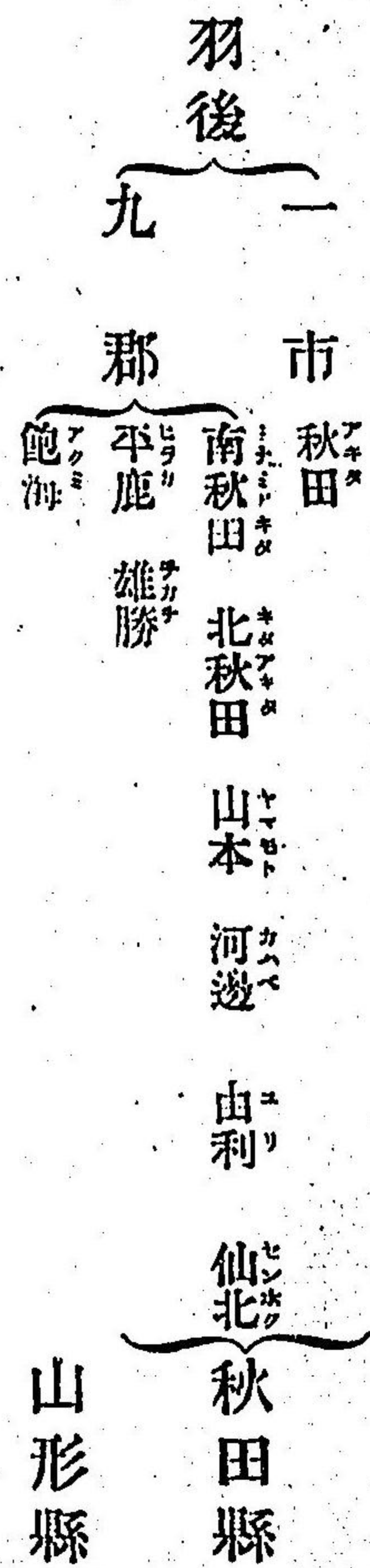
十二郡 盛岡モリオカ 巖手イハテ 紫波ムラサキ 稗貫ヒロツクニ 和賀ワカ 膽澤イハサマ 江刺エサシ 西磐ニシイハ 巖手縣

陸奥

九郡 弘前ヒロサキ 東津輕ヒガシツリガハ 西津輕ニシツリガハ 中津輕ナカツリガハ 南津輕ミナミツリガハ 北津輕キタツリガハ 青森縣

羽前

三郡 山形ヤマガタ 米澤コメザ 南村山ミナムラヤマ 東村山ヒガシムラヤマ 西村山ニシムラヤマ 北村山キタムラヤマ 最上モリノヘ 山形縣



〔海岸〕本道ノ海岸ハ、其太平洋ニ面スル處ハ、大灣大岬ナシト雖モ、小出入極テ多ク、恰モ鋸齒ノ狀ヲナス、之ニ反シテ、日本海ノ沿岸ハ、出入甚々稀ナリ。其海灣ノ大ナルモノ陸奥ノ内海ヲ以テ最トナシ、仙臺灣之ニ次ク。半島ニハ、北郡及牡鹿、男鹿等アリ。陸奥ノ内海ハ、本道ノ北端陸奥ニ在リ、東西凡十五里、南北十里、沿岸凡五十里許、北郡半島、北津輕郡ト左右相對シテ此内海ヲ擁ス、海口ヲ平館海峡ト云フ。夏泊崎南方ヨリ内海ノ中央ニ突出シテ、之ヲ野邊地、青森ノ二灣ニ分ツ。北津輕郡ノ最北角ヲ龍飛崎ト稱シ、北海道

渡島ノ白神崎ト相對ス。其間僅ニ五里ニ過キサレ、峽路ニシテ、潮流急駛、舟行危難ナリ。北郡半島ハ、北端ニ大間岬アリ、東端ニ尻矢岬アリ。尻矢岬ハ、其端暗礁トナリテ海中ニ延出スルコト三里ニシテ、海霧常ニ深キカ故ニ、燈臺霧鐘ノ設アリ。

仙臺灣ハ、陸前ノ南東ニ在リ、牡鹿半島其北東ニ突出ス、其端ヲ黒岬ト云フ。金華山ハ岬端ニ近キ一島ニシテ、周回凡三里半、全島岩石、悉ク奇ヲ極ム。仙臺灣内ニハ松島アリ、日本三景ノ一ニシテ、數百ノ小島海中ニ散布シ、島上悉ク翠松ヲ戴キ、風景極テ愛スヘシ。男鹿半島ハ、日本海ノ沿岸ニ於ケル本道最大ノ屈曲部ニシテ、東面ハ八郎瀉ヲ抱キ、寒風山其岸上ニ峙テリ。

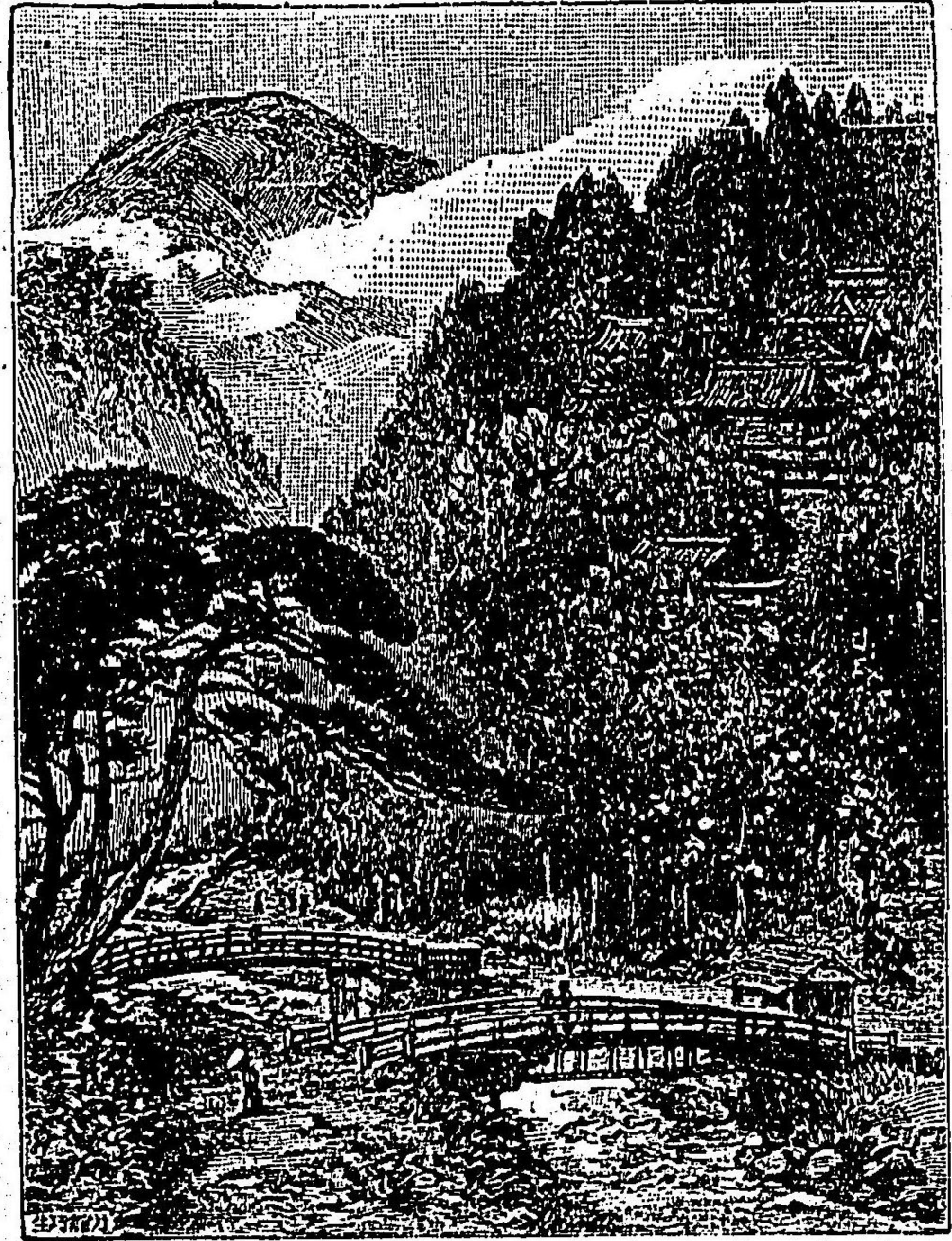
〔港津〕港津ノ著名ナルモノ、磐城ニ小名濱港アリ、陸前ノ仙臺灣内ニ石巻、野蒜、萩濱ノ三港アリ。陸中ニ宮古、釜石ノ二港アリ。陸奥ノ内

海ニ青森・野邊地ノ二港アリ。羽後ニ酒田能代ノ二港アリ。就中石巻・青森・宮古及酒田ノ諸港最モ著ハル。

(地勢) 本道ノ高山峻嶺ニ富メルハ、諸道ニ冠タリ。中山道地方ハ東西・南北ノ兩派及富士帶ノ諸山脈交互錯雜シテ東海・北陸兩道ノ脊梁ヲナセリ。殊ニ信飛兩州ノ地ハ平地ト雖モ、往々海面ヲ拔クコト、一千尺及至二千尺ニ達スル者アリテ、皇國第一ノ高地ナリ。奥羽地方ハ地勢稍低平ニシテ、第二南北派ノ中央山脈ヲ中線トシ、地面太平。洋日本海ノ兩沿岸ニ向ヒテ傾斜シ、處々ニ稍大ナル平原ヲ有ス。(山岳) 本道山岳ノ最モ著名ナルモノヲ舉クレハ、近江ノ南部平野ノ間ニ三上山アリ、近江富士ノ稱アリ。美濃ノ西南隅ニハ、養老山アリ、山中ノ瀑布ヲ養老ノ瀧ト云ヒ、古ヨリ名アリ。乘鞍岳(一〇、四五〇)ハ飛驒ノ東境ニ峙テル高山ニシテ、國ノ中央ナル位山ハ、其峯高カ

ラサレトモ、山中水松樹ヲ産スルヲ以テ、其名却テ他山ヨリ著ル、信濃ニテハ西境ノ御嶽(一〇、五一〇)最モ高ク、山頂常ニ雪ヲ頂キ、草木生長セス。其東方ニ駒ヶ岳(九、五〇四)アリ、此兩山ノ間ハ有名ナル木曾ノ谿谷ニシテ、長サ十八里ニ亘ル。東ノ方駿河ノ境ニ近キ處ニハ、赤石山(一〇、二一〇)アリ、東境第一ノ高山ナリ。國ノ北邊ニハ、西ニ大蓮華山アリ、東ニ黒姫山アリ、姨捨山ハ國ノ中央ニ在リ、東千曲川ヲ隔テ、鏡臺山下相對シ、觀月ノ勝地ナリ。田毎ノ月ト稱スル者は是ナリ。鏡臺山ノ東方、上野ノ境ニ淺間山(八、一八〇)アリ、山頂常ニ烟ヲ吐キ、時々爆發シテ燒土ヲ飛ハス、之カ爲ニ山麓數里ノ地ハ燒石粟ヤトシテ樹木ヲ見ス、世ニ之ヲ淺間ノ燒野ト云フ。此山ノ東ノ坂路ハ碓氷峠ニシテ、登リ二里半、北陸通路中第一ノ難所タリ、此路南ノ溪間ニ隧道ヲ穿チテ鐵道ヲ通セリ。上野ノ中央ニハ赤城・榛名・妙義ノ

三山鼎立セリ。赤城山ハ北東ニ聳エ、妙義山ハ南西ニ峙ツ、山中奇巖
アルヲ以テ聞エ、榛名山ハ兩山ノ間ニ位シ、山上ニ榛名湖アリ、古ノ



噴火口ニシテ、嚴
冬ニハ製氷場ニ
日供ス。山腹ニ著名
ナル伊香保温泉
アリ。下野ノ西方
ニハ有名ナル日
光山アリ、群峯重
疊ノ中、男體、赤薙
ノ兩峯、卓出セリ。
男體山ハ又黒髮

山ト稱ス、山中ニ中禪寺湖アリ、幽邃樂シムヘシ。湖水ハ溢レテ華嚴
ノ瀧ト爲リ、飛下三十丈極テ壯觀ナリ。裏見、霧降等ノ瀑布モ、亦其近
傍ニ在リ、日光山麓ノ東照宮ハ、天下ノ財寶ヲ竭シテ經營セシモノ
ナレハ、建築壯麗ヲ極ム。實ニ此山ハ海内無雙ノ靈境ト稱スヘシ。日
光ノ西方ニ庚申山アリ、奇異ノ岩山ニシテ石橋洞門ノ勝アリ、其南
ニ足尾ノ銅山アリ、日本産銅ノ第一ニ居ル。國ノ北境ニ那須岳アリ、
有名ナル那須野カ原ハ、其南麓ノ平原ニシテ、東西凡五里、南北凡八
里ニ亘ル。岩代ノ北隅ナル一切經山(六・三三〇)ハ明治二十六年山腹
爆裂シ、爾後蒸氣立上リ今尙ホ止マヌ。其ヨリ西南ニ較距リテ盤梯
山(六・二七〇)アリ。睡眠火山ニ屬シ、久シク噴火ヲ止メタリシカ、此モ
明治二十一年忽然爆裂シ、災害六里四方ニ及ヒ慘狀ヲ極メタリ。駒
ヶ岳・赤安山等ハ國ノ南西隅ニアル高山ナリ。岩手山又岩鷲山ハ、姫

神岳(六、二二〇)ト國ノ北部ニ東西相對峙セリ、東方海邊ノ連山ハ早池峰(六、六〇〇)最モ高ク、陸奥ノ西部海岸ニ近キ岩木山ハ、津輕富士ノ稱アリ。羽前ノ中央ニハ月山アリ。羽後ノ南西隅ニハ鳥海山アリ。山趾直ニ海ニ迫ル。此處ヲ有耶無耶ノ關ト稱ス。

(河流) 本道ニテ最モ有名ナル大川ハ、木曾・信濃・阿武隈・北上・最上等ノ諸川ナリ。

木曾川ハ、源ヲ信濃ノ筑摩郡ニ發シ、南西ニ流レ、木曾山中ヲ過キテ美濃ニ入り、尾張ノ界ニ沿ヒテ伊勢海ニ注ク。下流ハ頗ル運輸ノ利アレトモ、水源高ケレハ、流勢極テ急劇ニシテ、霖雨ノ候ニハ、屢堤防ヲ壞リテ、濃尾ノ平野ニ氾濫ス。

信濃川ハ、其上流ニ兩支アリ、一ハ甲斐ノ金峰山ニ發シテ千曲川ト稱シ、一ハ信濃ノ西隅ニ起リテ犀川ト稱ス。此兩川武田、上杉兩雄ノ

古戰場ナル河中島ニ至リテ相會シ、北東流シテ越後ニ入り、信濃川

ト云ヒ、日本海ニ注ク。流程凡一百里、内六十里ハ本道内ニ在リ。

阿武隈川ハ、源ヲ磐城ノ旭嶽及甲子山ニ發シ、北流シテ岩代ノ東部ヲ貫キ、再ヒ磐城ニ入り、陸前ノ境ヨリ太平洋ニ注ク。流程凡五十里、

北上川ハ、源ヲ陸中ノ北境ニ發シ、南流シテ陸前ニ入り、其注口ニ近ツキテ、一支流ヲ東ニ分ツ、之ヲ追波川ト云フ、本流ハ石卷ニ至リテ

仙臺灣ニ注ク。此河ハ本道中第一ノ長流ニシテ、長サ凡七十六里、舟楫ノ便少カラス。

最上川ハ、源ヲ羽前ノ南境ナル大日嶽ニ發シテ北流シ、又右轉シテ羽後ニ入り、酒田ニ至リテ日本海ニ注ク。其水流急ニシテ、日本三急流ノ一ト稱セラル。然レトモ四十里餘ノ間、舟楫ヲ通スヘシ、流程凡六十二里アリ。

尚ホ以上諸川ニ次キテ稍、著名ナルモノ近江ノ勢田川、美濃ノ長良川、飛驒ノ益田川、下野ノ鬼怒川、羽後ノ能代川及御物川等トス。

〔湖沼〕本道ニハ本邦第一ノ湖水近江ノ琵琶湖アリ。此湖ハ地盤ノ陷リテ成レルモノニシテ、東西五里、南北十五里、周回凡六十餘里、沖奥・竹生ノ諸島湖中ニ散在シ、湖邊勝地ニ富ム、所謂近江八景此ニアリ。又此湖ノ北岸、余吾湖ノ傍ニ有名ナル賤岳ノ古戰場アリ。琵琶湖ニ次キテ大ナルモノヲ岩代ノ猪苗代湖トス、周圍凡十六里、中央ニ翁島ト云ヘル小島アリ、羽後ノ西岸ニ近ク八郎瀉アリ、一ニ琴湖ト云フ、周圍凡十五里、一方海ニ通ス、陸奥ノ西海岸ニ十三瀉アリ、東海岸ニ小河原沼アリ、南境ノ十和田湖ハ陸中ニ亘リ、周回凡十里、其水懸リテ銚子瀉トナル、下野日光山中ニ中禪寺湖アリ、信濃ノ南部ニ諏訪湖アリ、湖濱ニ諏訪上下ノ神社及温泉場アリ、湖中處々ニ赤温

泉ヲ湧出ス。

〔鑛泉〕本道、温泉極テ多ク、其數總テ百七十、畿内八道中第一ニ位ス。本道中ノ十三國ハ、一トシテ鑛泉ヲ有セサルモノナク、就中岩代・上野・信濃ニ最モ多シ。其最モ著名ナルハ、上野ノ伊香保ニシテ、榛名山ノ東麓ニ在リ、浴客常ニ群集ス、草津及磯部ハ、伊香保ニ次キテ著名ナルモノニシテ、下野ノ日光及鹽原モ亦近來浴客甚タ多シ。

〔平原〕本道ハ、西部ニ美濃ノ平野アリテ、南尾張ニ亘ル、木曾・楫斐・長良ノ諸水其間ヲ流レ、地味豊饒ニシテ、牧草、水田全野ヲ掩フ。中部兩毛ノ南部ハ、關八州ノ平野ノ一部ニシテ、田圃相接シ、一望曠然タリ。其北東ニハ有名ナル那須野カ原アリ、近來少シク開墾ニ就ケトモ、過半ハ今尚ホ荒野ナリ。奥羽ニハ會津・米澤ノ二平原及奥ノ平原アリ。奥ノ平原ハ北上・阿武隈兩河領ノ總稱ナリ。其他信濃ノ松本平、善

光寺平及佐久平、陸奥三本木原、琵琶湖ノ沿岸、其他各州ノ海ニ瀕スル地方ニハ、概テ狹長ナル平野アリテ、耕耘殆ト遍シ。

(氣候) 南部中山道ハ、土地一般ニ高ケレハ、寒氣強ク、就中飛驒・信濃地方ハ殊ニ甚タシク、嚴寒ノ際ニハ、諏訪ノ湖面全ク凍合シテ、人馬氷上ヲ往來シ。木曾ノ山中、五月花開キ九月麥熟シ、盛夏尙ホ綿衣ヲ着ケ、日光ノ幽溪、梅雨期中桃花唇ヲ現ハシ、六月中旬櫻花爛熳タルカ如キ奇觀アリ。然レトモ美濃及兩毛ノ南部、其他低平ノ地ハ、氣候一般ニ温暖ナリ。奥羽地方ハ、東方太平洋ニ瀕シテ、北海ノ寒流ニ洗ハレ、冬季ハ空氣乾燥シ寒威凜烈ナリ。其西方ハ日本海ノ濕風ニ浴スルヲ以テ、稍暖ナレトモ降雪多ク、秋田・青森地方ハ、冬季積雪丈餘ニ及フコトアリ。今左ニ本道内ニ於ケル測候所ノ實測ニ係ル温度及雨雪ノ概況ヲ掲ク。

測候所	最高温度ノ極	最低温度ノ極	平均温度	雨雪水量	雨雪日數
岐 阜	三六・九	零下 一一・七	一四・二	一九五〇耗	一五二日
長 野	三四・六	零下 一五・九	一〇・八	九五二耗	一六四日
宇 都 宮	三三・八	零下 一一・二	一二・〇	一六九八耗	一五七日
福 嶋	三五・六	零下 一八・五	一一・四	一二六三耗	一六〇日
山 形	三五・二	零下 二〇・〇	一〇・三	一一八八耗	一九二日
石 巻	三三・七	零下 一三・一	一〇・九	一一〇〇耗	一四一日
秋 田	三五・〇	零下 二四・六	一〇・三	一七二〇耗	二二二日
青 森	三四・〇	零下 一九・四	九・〇	一二四六耗	二二三日

(物産) 美濃・飛驒・信濃・兩毛及奥羽ノ山地ハ、樹木翳鬱トシテ諸種ノ良材ニ富ム、中ニモ信濃木曾山ノ檜ハ、品質優良、全國無雙ト稱ス。各地ノ平野ハ、地味概テ肥沃ニシテ米穀・桑・茶ノ培植盛ニ、奥羽ハ牧場多クシテ良馬ヲ産ス。其農産ノ主要ナルモノヲ擧ケレハ、近江・美濃



生巧師

富岡製絲場ノ圖

及奥羽ノ米、近江ノ信樂及土山ノ茶、信濃ノ更科蕎麥、下野ノ鹿沼ノ麻等ニシテ、羽後ノ秋田落ハ大ナルヲ以テ、其名世ニ著ハル。
 本道ハ、本邦第一ノ養蠶地方ニシテ、蠶絲・蠶卵紙ノ産出夥シク、長野・群馬及福島ノ三縣ノ如キハ、蒸氣機械ヲ備ヘタル製絲場ノ設ケ多シ。殊ニ上州富岡製絲場ハ極テ盛大ニシテ、皇國第一ト稱ス。左ニ其

明治二十六年中ノ産額表ヲ掲ク。

長野縣蠶絲	三六二、六二〇貫	蠶卵紙	一、一六五、九〇一枚
群馬縣同	三三二、六六八貫	同	一九三、五三三枚
福島縣同	一一九、一二九貫	同	五二六、一三三枚

諸製造品ノ著名ナルモノハ、近江ノ長濱縮緬及蚊帳、美濃ノ美濃紙・岐阜提灯、飛騨ノ一位細工、信濃ノ上田縞、上野ノ桐生織物、下野ノ眞岡木綿、日光塗、岩代ノ會津蠟燭、二本松紬、陸前ノ仙臺平・埋木細工、陸中ノ南部縮緬、陸奥ノ津輕塗、羽前ノ米澤織、最上ノ紅花、羽後ノ秋田畝織・春慶塗等トス。
 水産ハ、近江ノ源五郎鮎、勢多川ノ鯉、美濃木曾川ノ鱒、奥羽諸川ノ鮭・鱒、磐城ノ鯉、津輕ノ海參・牡鹿半島ノ電魚等皆著名ナリ。
 鑛屬ハ概子各國ヨリ産ス。其坑現時凡三百八十八個處。就中最モ著

名ナルモノハ、岩代ノ半田銀坑、陸中ノ小坂、尾去澤ノ兩銀山、釜石ノ鐵坑、羽後院内ノ銀坑、阿仁ノ銅坑、下野足尾ノ銅坑、上野小坂ノ鐵坑等ニシテ、石炭ノ産出ハ岩代ヲ以テ第一トシ、石材ハ多ク美濃ノ山中ヨリ出ツ。左ニ重ナル鑛物採掘高明治廿六年略表ヲ示ス。

岐阜縣	銀	二、三三六、四八一匁
枋木縣	銅	一、四一〇、九二一匁
	金	九、五一八匁
福島縣	銀	一、七六一、五七九匁
	石炭	五、一三〇、六一七斤
宮城縣	銀	四、四四、四五七匁
	金	二、四、五四四匁
	銅	八、八五九、七〇三匁
秋田縣	銀	八〇四、〇八九匁
	石炭	六、二六一、六七八斤

(都市) 本道第一ノ都市ハ陸前ノ仙臺ニシテ、廣瀬川ノ岸ニ在リ、仙臺侯伊達氏二十八萬石ノ舊城市ニシテ、今ハ宮城縣廳ノ所在地ナリ。市街ハ一里ニ連亘シ、第二師團司令部アリ、裁判所アリ、第二高等學校アリ。此地東京ヲ距ル九十三里、奥羽地方商業ノ中心ナリ。置縣都市ニハ、近江ノ大津、美濃ノ岐阜、信濃ノ長野、上野ノ前橋、下野ノ宇都宮、岩代ノ福島、陸中ノ盛岡、陸奥ノ青森、羽前ノ山形、羽後ノ秋田等アリ。其大津ハ商業上頗ル便利ノ地位ヲ占メ、所謂江州商人ノ本據タリ。

左ニ本道中、人口一萬以上ノ著名ナル都市ヲ表示ス。

大津町	三、一、二八六
大津町	二、〇、〇二六
大津町	三、〇、四三七
大津町	一、九、九三六

陸中盛岡市	陸前石巻町	岩代福島町	磐城白川町	下野宇都宮市	上野高崎町	信濃上田町	飛驒高山町
三二、三〇三人	一八、一〇三人	六七、八八〇人	一七、八八三人	二五、七四九人	一六、二五四人	二八、八一二人	三二、六四二人
		二八、八一二人	三五、八一三人	二九、二六一人	二一、四八四人	一四、九七六人	
		三二、八六六人					

陸奥弘前市	八戸町	山形市	羽前米澤市	鶴岡町	秋田市	羽後酒田町	能代港町
三一、二八七人	二四、一二八人	一一、五一二人	三三、四五九人	二九、五〇一人	二〇、一五四人	二六、九七三人	二一、四七九人
							一三、二三三人

五 北陸道

〔位置廣袤人口〕 北陸道ハ、北ハ日本海ニ臨ミ、西ハ山陰道ニ連リ、東ハ奥羽地方ニ界シ、南ハ中山道ニ接ス。面積千六百三十四方里一二、人口三百七十九萬五千四百二十三人ナリ。

〔區劃〕 本道ノ國タル七、更ニ之ヲ五市四十三郡ニ分チ、石川・福井・富

山及新潟ノ四縣ヲ以テ之ヲ分轄ス。

若狹 三郡 三方 遠敷 大飯

越前 一市 福井
八郡 足羽 吉田 坂井 大野 南條 今立 丹生

福井縣

加賀 一市 金澤
四郡 江沼 能美 石川 河北

石川縣

能登 四郡 羽咋 鹿嶋 鳳至 珠洲

越中 二市 富山 高岡
八市 上新川 中新川 婦負 下新川 射水 氷見 富山縣

越後 一市 新潟
北蒲原 中蒲原 西蒲原 南蒲原 東蒲原

十五郡 三嶋 古志 北魚沼 中魚沼 南魚沼 刈羽 新潟縣

東頸城 中頸城 西頸城 岩船

佐渡 一郡 佐渡

(海岸) 本道ノ各國ハ、皆海ニ瀕スレトモ、岬灣ノ出入甚々少ク、獨リ中央部ニ能登半島ノ大ナル突出アルト、西隅若狹ノ海岸ニ二三ノ小出入アルノミナリ。

能登半島ハ東西凡十一里、南北凡十八里、加賀・越中ノ間ヨリ、日本海中ニ突出ス、其端ハ一大岬角ヲナシ、海ヲ隔テ、遙ニ佐渡島ト相對ス、之ヲ珠洲岬ト云フ。其近傍ハ岩礁砂洲相連リ、波濤極テ激シク、日本海第一ノ難所ト稱ス。此半島ノ東面ハ、地勢彎曲シテ越中、越後ト相與ニ一ノ内海ヲ擁ス、之ヲ富山灣ト云フ。其内ニ七尾灣アリ、周回凡三十里、能登島其正中ニ横ハル。

若狹ノ海岸ニテハ、中央ニ小濱灣アリ、東西四里、南北二里又越前ノ西隅ニ敦賀灣アリ、狹クシテ長シ。

佐渡ハ、越後ノ北西海上ニアル一大島ニシテ、海灣左右ヨリ其腰ヲ扼シ、形、法馬ノ如シ、主ナル岬角四アリ。其北及東ヲ指スモノヲ彈岬及濡木岬ト稱シ、南及西ニ出ツルモノヲ春日岬及澤崎ト云フ、其中間ノ海灣ハ即チ眞野ノ入江ナリ。

總テ本道ノ沿岸ハ、斷崖處々ニ聳立シ、巨礁海中ニ散亂シテ、甚々危険ナル處多シ。

(港津) 港津ノ著名ナル者ヲ舉クレハ、若狹ノ小濱灣内ニ小濱港(二十仞)アリ、越前ノ敦賀灣頭ニ敦賀港(四十五仞)アリ、日野河口ニ三國港アリ。加賀ノ安宅河口ニ安宅港アリ。能登ノ七尾灣内ニ七尾港アリ、北海ノ良港ト稱ス。越中射水河口ニ伏木港アリ。越後ニハ信濃川

ノ口ニ、五港ノ一ナル新潟港(五仞)アリ、荒川ノ口ニ直江津港アリ、佐渡ノ南端ニ小木アリ、東ノ灣頭ニ夷湊アリ。

(地勢山岳) 本道ハ、本州中部ノ北斜面ナレハ、地勢ハ全ク東海道ト反對ナリ。而シテ、其西部諸國ニハ、第三南北派山脈ト中國火山脈ノ餘波ト交會シ。東部諸國ニハ、第二南北派ノ中央火山脈及西部海岸火山脈ノ兩山脈馳走スルヲ以テ、著名ノ高山尠カラス。今ソノ重ナルモノヲ舉クレハ、加賀・越前・飛騨三國ノ境ニ白山アリ、其高サ八千八百九十尺、北陸道中有名ノ高山ナリ。礪波山ハ又俱利伽羅峠(八八〇)トモ云ヒ、加賀・越中ノ境ニアリ、木曾義仲カ平氏ノ軍ヲ鏖殺セシ古戰場ナリ。越中ノ東南隅、信濃ノ境ニ近ク兀立スルモノハ立山ナリ、北陸著名ノ高山ニシテ、高サ九千八百尺、加賀ノ白山ヨリ遙ニ高シ。山中處々ニ火口アリ、常ニ硫烟ヲ吐キ、地獄谷ト稱ス。立山ノ北ニ

劔岳アリ、峭然トシテ直立シ、恰モ劔ヲ立テタルカ如シ、其南ニハ藥
 師岳、鷲羽山等ノ高山アリ。越後ニハ、高峯多シ、第一ハ、南西隅、越中、信
 濃ノ境上ニ聳立スル大蓮華山ニシテ、南、鎚ヶ岳、北、雪倉岳ト共ニ之
 ヲ蓮華三峯ト稱ス。其脈北向シテ、越後、越中ノ境ヲ走ル、其山趾ノ海
 岸ニ迫ル處ヲ、親不知ノ難所トナス。大蓮華山ノ東方、信濃ノ境上ニ
 近ク妙高山、燒山等ノ火山アリ。此兩山ハ富士帶ノ北端ナリ。岩代ノ
 境ニハ、有名ノ險路ナル八十里越、六十里越、御神樂岳、淺草山等アリ。
 (河流) 本道河流ノ最モ大ナルモノヲ信濃川トナシ、阿賀野川、神通
 川、射水川、常願寺川、黒部川、手取川及日野川等之ニ次ク、以上ハ北陸
 八大河ノ稱アリ。
 信濃川ハ、信濃千曲川ノ下流ニシテ、越後ノ平野ヲ北流スルコト、凡
 四十里、新潟港ニ至リテ海ニ注ク、流程凡一百餘里、本邦第二ノ長流

ナリ、此川ハ信越ノ國境ニ於テ、處々ニ激流飛瀑ヲナセルヲ以テ、上
 流ハ舟楫ノ便少ケレトモ、河口ヨリ數十里ノ間ハ緩流ナルヲ以テ、
 小汽船ノ往來亦自在ナリ。
 阿賀野川ハ、其上流ハ岩代ノ日橋川ニシテ、越後ニ入り、北西流シ、松
 カ崎ノ港ニ注ク。全長四十五里餘ニシテ、其越後ニアルモノハ凡二
 十二里許。
 神通川ハ、飛驒宮川ノ下流ニシテ、越中ノ中央ヲ北流スルコト三十
 里ニシテ、東岩瀬港ニ注ク、流程五十里、下流ノ幅二百五十間、水深ク
 シテ運輸ノ便アリ。
 射水川ハ、又莊川ト稱ス、飛驒白川ノ末ニシテ、神通川ノ西ヲ奔ル、河
 口ハ伏木港ニシテ、水源ヨリ此ニ至ルマテ五十八里。
 常願寺川ハ、鷲羽岳ニ出テ、北西ニ奔下シテ水橋ニ至リ、海ニ入ル、長

サ凡十八里。黒部川ハ立山・蓮華兩山脈ノ間ヲ急奔シ、下流數派トナ
リテ海ニ注ク、其谿谷ヲ出ル處ニ愛本ノ飛橋アリ、往時甲斐ノ猿橋
周防ノ錦帶橋ト共ニ、日本三奇橋ト稱セラレタリ。

日野川ハ日野(二十四里)・足羽(二十五里)・九頭龍(三十二里)三川ノ合
流セルモノニシテ、共ニ越前ノ南境ニ發源シ、中央ニ於テ相會シテ、
三國港ニ至リ海ニ注ク。手取川ハ、白山ニ出テ、北西ニ急走シテ、日本
海ニ入ル、長サ凡二十里。

(湖沼) 湖沼ノ著大ナルモノハ、若狹ニ三方湖アリ、三湖相接シテ、其
水互ニ交通ス。中央ニ在ルモノヲ水月湖ト云フ、周回二里廿八丁、南
北ノ兩湖ハ、共ニ周回二里餘ナリ。

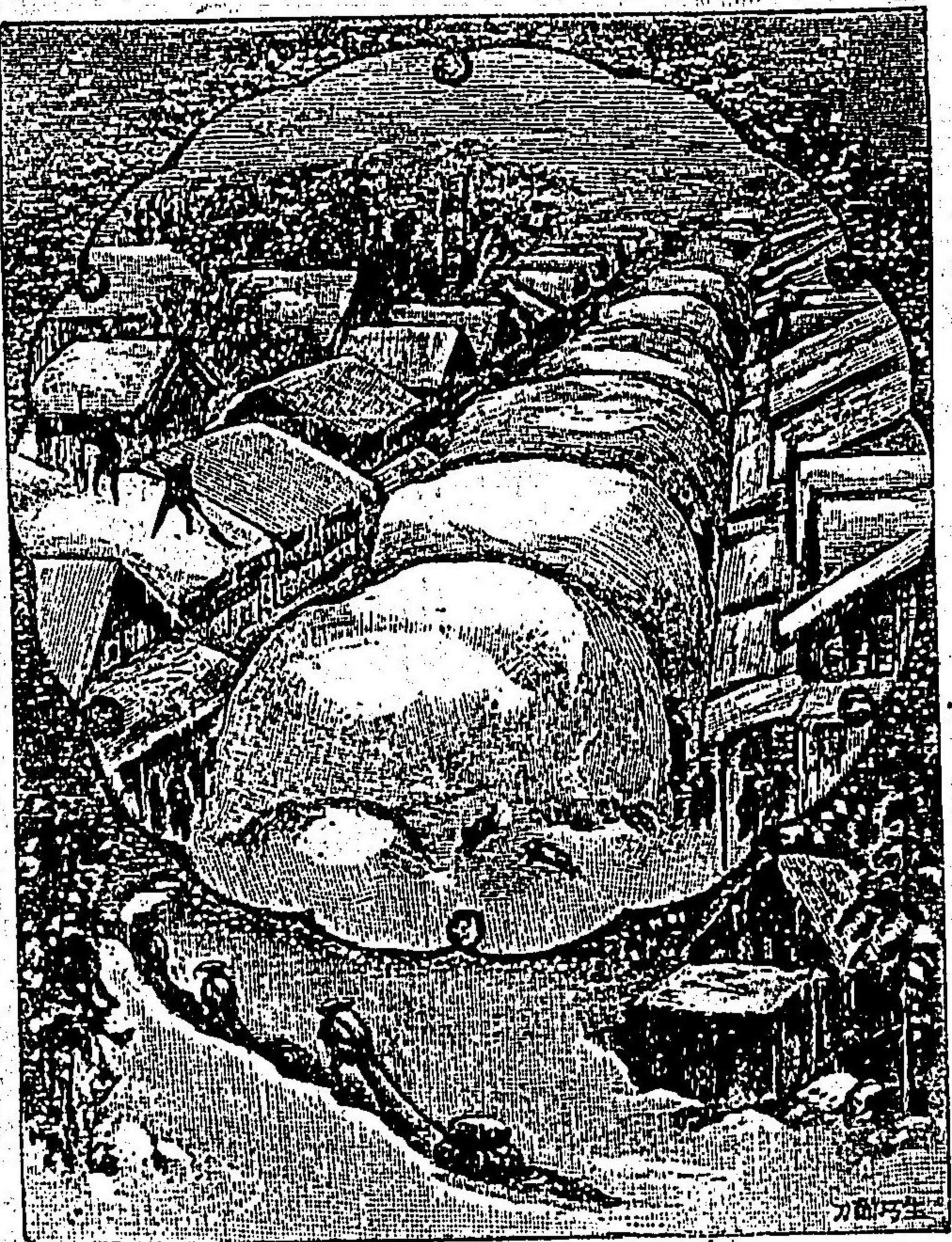
越前ノ北隅ニ北瀉入江アリ、周回五里二十二町、加賀ノ南西海岸ニ
柴山瀉アリ、北東海岸ニ河北瀉(一名八田瀉)アリ、周回六里二十町、湖

中ニ魚類多シ。能登ノ南西海岸ニ邑知瀉アリ、越後ノ東方阿賀野川
ノ下流ニ近ク福島瀉アリ、佐渡ノ東ノ灣頭ニ近ク加茂湖アリ、

(鑛泉) 鑛泉ハ其數總テ五十一个處、其中二十八個處ハ越後ニアリ。
全ク之ナキハ若狹・佐渡ノ二國ナリ。今鑛泉場ノ稍、著名ナルモノヲ
舉クレハ、加賀ノ南部山間ニ於テ、山代・山中・粟津・中宮・湯涌等アリ。越
中立山ノ麓ニ有峯・黒薙等アリ。越後ニ於テハ、東方荒川ノ岸ニ湯澤、
魚沼川ノ岸ニ椽尾股及大湯等、飯豊山麓ニ瀧谷、妙高ノ山間ニ關山、
赤倉・蓮華ノ諸泉アリ、國ノ中央部ニ出湯・田上及村杉アリ、彌彦山下
ニ稻島・岩室ノ兩湯アリ。

(平原) 北陸八大河ノ灌漑スル地域ハ、概子肥沃ノ平原ナリ。特ニ越
後信濃川ノ平原ハ、最モ大ニシテ、世ニ所謂越後米ノ產地ナリ。
(氣候) 本道ハ冬期ハ大陸地方ノ寒キ西風ヲ受ケテ、極テ寒冷ナル

ヘキ理ナレトモ、實際ハ、サノミ甚シカラス。是レ其沿岸ニ近ク温暖ナル對馬海流ノ過クルアルト、本道ノ土地ノ傾斜セルトニヨリテ



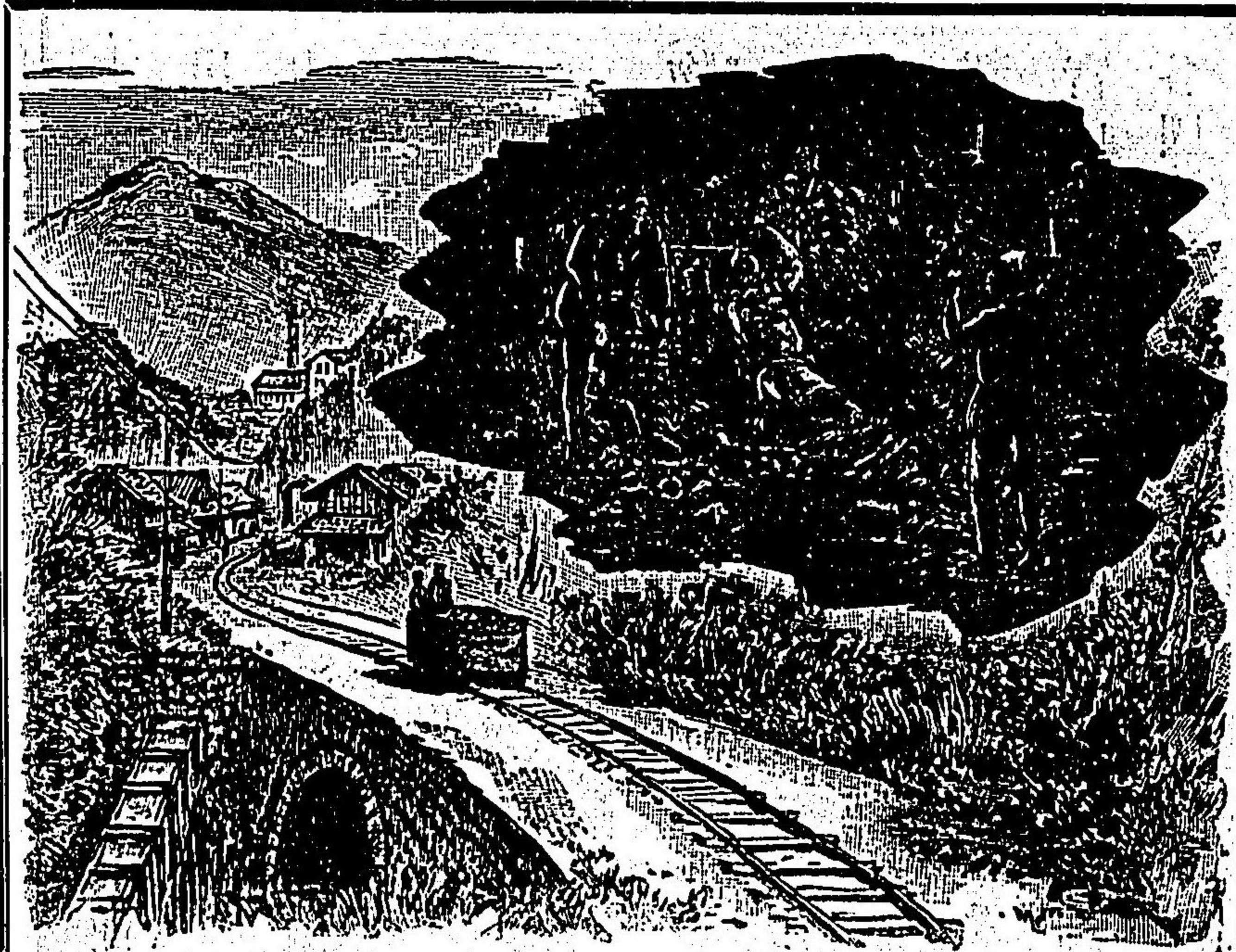
其西風ノ、雲雨雪霰ヲ生スルコト、ノ多キヲ以テナリ。然レトモ、冬期ノ雨雪ハ又決シテ少量ニアラス、海岸ノ平地ト雖モ、積雪三四尺ニ達シ、山間ニテハ、例年一丈乃至二

丈ノ積雪ヲ見ル、サレハ此數月ノ間ハ住民皆屋内ニ閉居シテ外出ツルヲ得ス。

左ニ本道内、測候所ノ觀測ニ係ル、温度及雨雪ノ概況ヲ示ス。

測候所	最高温度ノ極	最低温度ノ極	平均温度	雨雪水量	雨雪日數
金澤	三六・八	零下七・四	一一・一	二五二三耗	二二六日
伏木	三四・九	零下八・八	一一・〇	二〇九〇耗	二二三日
新潟	三六・一	零下九・四	一一・六	一七三一耗	二二六日

(物産) 加越ノ平野ハ、地味肥沃ニシテ米穀・桑・麻ノ産出甚々多シ。然レトモ、其他ハ、概子瘠土ニシテ、農産ニ乏シ。製造品ノ著名ナルモノハ、若狹ノ若狹塗、能登ノ輪島塗、越前ノ奉書紙・鳥子紙・蚊帳・奉書紬、加賀ノ加賀絹・杉原紙・象眼細工・菅笠及九谷焼、越中ノ銅鐵器、吳郎丸布、富山ノ賣藥、越後ノ越後縮布・越後紬・精好平等ナリ。各國ノ沿海ハ水産物ニ富ム、中ニモ若狹ノ鯛・鰈、能登ノ鯺・鯨、越後ノ



鮭・鱒等最モ良産ナリ、而シテ
 各國ノ山谷ハ、何レモ獸皮・木
 材ヲ出ス。白山ノ熊膽其價最
 モ貴シ。
 鑛屬ハ、諸國概子之ヲ産スル
 カ中ニモ、佐渡ノ金銀ハ、其最
 山モ有名ナルモノニテ、明治二
 十五年、其鑛山ノ産量、金六萬
 一千六百八十一匁、銀百四十
 一萬九千七百六十匁ナリ。
 (都市) 金澤ハ、北國第一ノ大
 都會ニシテ、人口八萬七千餘

石川縣廳及第四高等學校等アリ。其地加賀ノ東北隅犀川・淺野川ノ
 畔ニ在リテ、大ニ運輸ノ便ヲ得タリ。舊前田氏百二萬石ノ城市ナリ。
 富山ハ、越中ノ中部ニ位シ、神通川ノ東岸ニ臨ム、前田氏十萬石ノ舊
 城下ニシテ、富山縣廳アリ、人口凡五萬八千、亦股賑ナル都會ナリ。
 新潟ハ、信濃川ノ河口ニ在リテ、人口凡五萬、新潟縣廳ノ在ル處ニシ
 テ、且ツ開港場ノ一ナリ、豪商軒ヲ並ヘ、商業頗ル盛ナリ。
 福井ハ、松平氏三十三萬石ノ舊城地ニシテ、市街ハ足羽川ニ跨ル、人
 口四萬三千餘、福井縣廳アリ。足羽川ニハ、九十九橋ト云フ橋ヲ架シ
 テ、兩岸ノ市街ヲ連絡ス、其長サ九十九間ト稱ス。
 左ニ各國著名ナル都市ノ人口表ヲ掲ク。

福井市
 越前武生町

四三、九七五人
 一五、七九六八

伯耆三郡 東伯 西伯 日野

出雲 一市 松江 六郡 八東 能義 仁多 大原 簸川 飯石

石見 六郡 邇摩 安濃 邑智 那賀 美濃 鹿足

隱岐 四郡 周吉 穩地 海天 知夫

島根縣

(海岸) 本道ノ海岸ハ、單直ニシテ曲折寡ク、只丹後及出雲ニ於テ、僅ニ二三ノ變化アルノミナリ。

丹後ノ東端ニハ成生岬アリ。西ニハ與謝郡海中ニ突出シテ半島ヲナス。其北端ヲ經岬ト云フ、巨巖高ク峙チテ舟行危險ナリ。其半島ノ東側ニ鷺岬アリ、遙ニ成生岬ト相對シテ、一ノ内海ヲ擁ス、一岬其正面ニ突出セルモノヲ黑岬ト云フ、其東ヲ舞鶴灣ト云ヒ、内ニ舞鶴軍港アリ、其西ヲ與謝ノ海ト云フ、與謝海ノ中央ニハ、一條ノ砂嘴北ヨ

リ斗出シ、翠松其上ニ連リ、遠ク望メハ長橋ノ如シ、是レ即チ天ノ橋立ニシテ本邦三景ノ一ニ居ル。

出雲國ノ沿岸ニハ、島根半島西ヨリ東ニ曲延ス。其東端ヲ地藏崎ト云ヒ、北端ヲ多古鼻ト云フ、又其西端ヲ十六島鼻ト稱シ、巨礁十六之ヲ繞ル、又半島ノ中央部ハ、少シク南方ニ横出シ、本陸ノ北岸ニ迫リテ馬瀨ノ瀬戸ヲナス、其幅狹キ處ハ二町ニ足ラス。瀬戸内ハ即チ有名ナル宍道湖ニシテ、外ハ中海ナリ。中海ノ東方ニハ夜見濱斗出シ、島根半島ト共ニ中海ノ口ヲナス、其間ヲ中江海峡ト云フ。

(港津) 本道港津ノ著名ナルモノ、舞鶴・官津・境及西郷ノ四港アリ。舞鶴港ハ丹後舞鶴灣ニ在リ、深サ凡八仞、近時海軍鎮守府ヲ設置シテ軍港ニ充ツ。官津港ハ與謝海ノ中ニ在リ、灣内水深キコト十仞ニ達シ、頗ル碇泊ニ便ナリ。境港ハ伯耆夜見濱ノ北端ニアリ、港口東ニ向

ヒ、風浪ノ虞少ク、山陰第一ノ良泊ト稱ス。西郷港ハ、隱岐ノ島後島ニ在リ、境港ヲ距ルコト凡二十里、國內物貨ノ出入重ニ之ニ由ル。其他丹後ノ久美濱港、但馬ノ諸寄港、伯耆ノ米子浦、出雲ノ美保、關石見ノ大浦、隱岐ノ知夫港等亦稍著名ナリ。

(地勢山岳) 本道ノ地勢ハ、南山陽道ノ境ヨリ、北、日本海ニ向ヒテ低下シ、其傾斜稍急ナリトス。然レトモ、其南境ナル中國山系及中國火山脈ハ處々ニ岐分派出シ、殊ニ丹波、石見兩國ノ如キハ、山岳岡陵國中ニ相望メリ。今、山ノ著名ナルモノヲ舉クレハ、伯耆ノ大山オホヤマ又大神山オホカミヤマハ山系中ニ擢テ、高サ五千九百九十尺、中國第一ノ高峰トス。三瓶山ハ出雲、石見ノ境ニ在リ、高サ三千八百七十尺ナリ。丹波ノ北境ニ大江山アリ。但馬、因幡ノ境ニ扇山、氷ノ山アリ。因幡ノ南境ニ那岐山ナギヤマ五、二六〇アリ。伯耆ノ南境ニ蛭山ヒルヤマ、兜ヶ山、道後山等アリ。中央ニ船

上山ウヘヤマ(三、二二〇)アリ、此山ハ往時名和長年カ、後醍醐帝ヲ佐ケ、勤王ノ旗ヲ舉ケタル處ナルヲ以テ、其名著ハル。又出雲ノ南境ナル阿圖馬山、石見ノ南境ナル冠山等モ、亦本道ノ高山ナリ。

(河流) 本道ハ地域狹少ナレハ、河川ノ流程モ亦短シ。但シ一二ノ大川ナキニアラス。石見ノ江川エノカハ(一名石見川)ハ中國第一ノ大河ニシテ、備後ヨリ來リ、石見中部ニ於テ日本海ニ注ク、長サ五十餘里、幅凡二百間、舟楫ノ通スル處殆ト廿里ニ達シ、運輸ノ便甚タ大ナリ。丹後ノ由良川ハ、長サ凡三十里、上流ハ丹波ノ和知川ニシテ、源ヲ近江界ノ山谷ニ發シ、福知山ニ至リテ福知川又音無瀬川ト稱ス、丹後ニ入りテ單ニ之ヲ大川ト呼フ、河口ハ由良港ナリ。

(湖沼) 湖沼ハ出雲ノ中海ウミナ周回十六里餘及宍道湖シノミチウミ十三里餘ヲ以テ最モ大ナリトス。此二湖上古ハ潮水相往來セシカ故ニ、併セテ之ヲ

意宇ノ海ト呼ヘリ。此他因幡ニ湖山池、伯耆ニ東郷池等アリ。

(鑛泉) 鑛泉ハ其數都ヘテ二十個處、石見ノ六個處ヲ最多トシ、丹後、隱岐ニハ全ク之ナシ。鑛泉場ノ有名ナルモノ、丹波ノ鹽崎、但馬ノ湯ノ島及湯村、因幡ノ吉岡湯、石見ノ有福等トス。

(氣候) 本道ハ、地勢善ク北陸道ニ似テ、寒カルヘクシテ寒カラズ。然レトモ降雪ノ量ハ亦頗ル多シ、但シ丹波ハ、寒氣強クシテ霧深シ。左ニ、本道内測候所ノ觀測ニ係ル温度及雨雪ノ概況ヲ表示ス。

(但シ濱田ハ明治二十六年分ナリ)

測候所	最高温度ノ極	最低温度ノ極	平均温度	雨雪水量	雨雪日數
境	三七・二	零下八・二	一四・〇	一八七五耗	二〇七日
濱田	三六・七	零下五・五	一四・一	一四〇六耗	一九二日

(物産) 本道ハ、土地一般ニ蕪瘠ニシテ、農産ハ少シ。只丹波ノ煙草・茶、但馬、伯耆ノ麻、出雲ノ人參・蜜柑等ノ著名ナルアルノミナリ。製造品

ノ有名ナルハ丹後ノ縮緬・撰絲、但馬ノ出石陶器、豊岡柳行李、伯耆ノ木綿、出雲ノ十六島海苔等ナリ。

海産ニハ、出雲松江ノ鱈、其名人口ニ膾炙シ、因幡ノ白珊瑚亦世ニ名アリ。牧牛ハ本道ニ大ニ流行シ、世ニ神戸牛ト稱スルモノ、多クハ但馬、因幡地方ヨリ出ツルト云フ。丹波、隱岐二國ハ杉・樅等ノ良材ニ富ム。鑛産ハ又本道ノ富メリトスル所ニシテ、就中但馬生野ト石見邇摩ノ銀山ハ、産出ノ量夥シク、伯耆、出雲、石見ノ鐵モ、其採掘高ノ多キコト我邦ニ於テ一二ノ位置ヲ占ム。左ニ金銀及鐵ノ出坑高ヲ掲ク。

(明治二十六年)

兵庫縣(生野) 金 銀

鳥取縣 鐵

- 一九、八一—一匁
- 一、三五四、九三—六匁
- 七六八、二八—七匁

島根縣

鐵 銀

七六五、七五一 匁

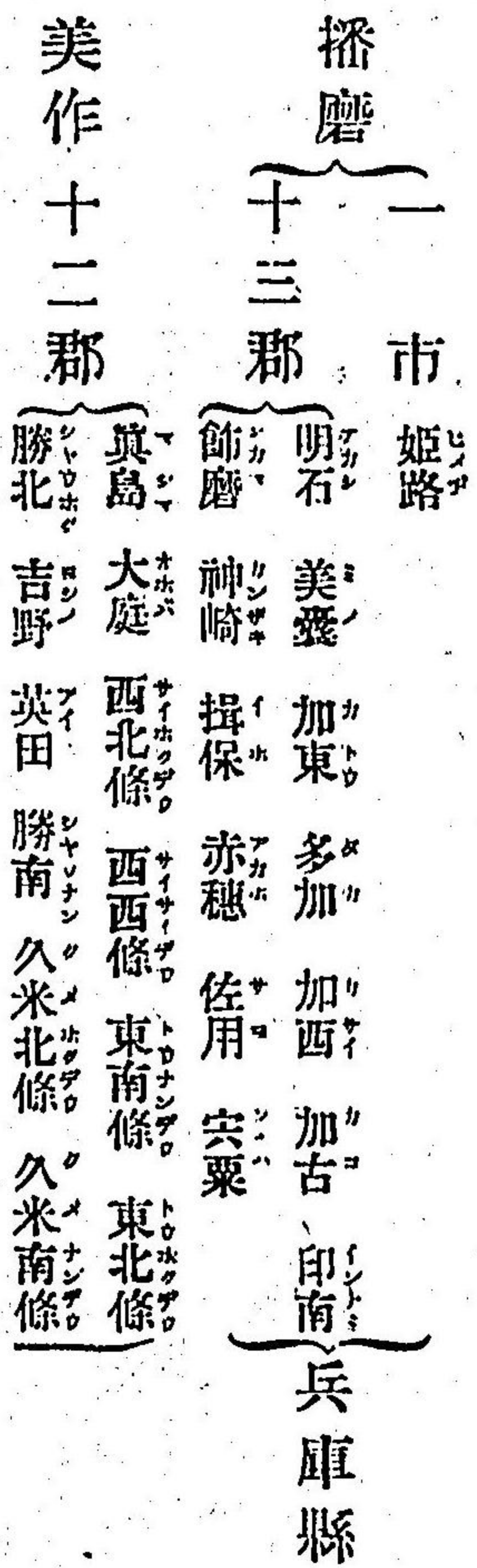
一、一九〇、九二一 匁

(都邑) 本道ニ於テ人口一萬以上ノ都邑ハ、其數僅ニ三個、松江最モ大ニシテ鳥取之ニ次ク。松江ハ出雲馬瀨瀬戸ノ岸ニ在リテ、宍道湖ニ臨ミ、風景清雅ニシテ商業盛ナリ、人口三萬四千六百、松平氏十八萬六千石ノ舊城地ニシテ、現今島根縣廳ヲ茲ニ置ク。市ヲ距ル、西ノ方十一里、杵築ニ大社アリ。鳥取ハ、因幡ノ千代川ニ沿ヒ、賀露浦ニ接ス、人口二萬八千、鳥取縣廳アリ、舊ト池田氏三十二萬五千石ノ城下ナリ。此他伯耆ノ米子人口一萬五千餘ニシテ鳥取ニ次キ、丹波ノ龜岡・福知山、丹後ノ宮津・舞鶴、但馬ノ豊岡、石見ノ津和野・濱田及隱岐ノ八尾等亦皆名アリ。

七 山陽道

(位置廣袤人口) 山陽道ハ、東ハ畿内ニ通シ、北ハ中國山系ヲ以テ、山陰道ト脊ヲ合セ、南ハ内海ヲ隔テ、四國島ト相對シ、西ハ長豊(赤間關)海峽ヲ夾ミテ九州島ト相望ム。本道ハ山陰道ト共ニ之ヲ中國ト稱ス。面積千五百七十方里二七、人口四百十九萬二千七百九十一人ナリ。

(區劃) 本道ハ、八箇國ニシテ、四市七十七郡ニ分レ、兵庫・岡山・廣島及山口ノ四縣ヲ以テ之ヲ分轄ス。



備前 一市 岡山
 八郡 御野 津高 赤坂 磐梨 和氣 邑久 上道 岡山縣
 備中 十一郡 都宇 窪屋 淺口 小田 後月 下道 加陽
 上房 川上 哲多 阿賀
 備後 十四郡 御調 世羅 深津 沼隈 安那 蘆田 品治
 神石 甲奴 三次 三谿 奴可 三上 惠蘇
 廣島
 安藝 一市 廣島
 八郡 安藝 佐伯 沼田 高宮 山縣 高田 賀茂 廣島縣
 周防 六郡 大島 玖珂 熊毛 都濃 佐波 吉敷
 山口縣
 長門 一市 赤間關
 五郡 厚狹 豊浦 美禰 大津 阿武

(海岸) 本道ノ海岸線ハ其出入極テ多シ。而シテ兒島半島及廣島灣

其最モ著シキモノナリ、兒島半島ハ備前ノ一部ニシテ、備中ノ南部ヨリ東ニ向ヒテ鈎出シ、備前本地ト共ニ一ノ内海ヲ抱ケリ。之ヲ兒島灣ト云フ。廣島灣ハ安藝ノ南隅ニ在リ、嚴島・江田島等其前ニ横レリ。灣ノ東口ニ近ク吳港アリ、海軍鎮守府ノ所在地ナリ。

(港津) 本道ノ沿岸ハ頗ル良港ニ富メリ、其最タルモノハ長門ノ赤間關(十仞餘)ニシテ、下ノ關トモ稱シ中國第一ノ巨港ナリ。之ニ次クモノハ安藝ニ吳港・宇品港アリ、播磨ニ室ノ津アリ。備後ニ鞆及尾ノ道ノ兩港アリ。其他備中ノ笠岡港・玉島港、安藝ノ御手洗港、周防ノ三田尻港・室積港、中ノ關港・室津港・新港・柳井港等亦著名ナリ。

(近海) 瀬戸内海ハ、本道及四國島ノ間ニ在ル狹長ナル海水全體ノ稱ニシテ、明石・鳴戸・速吸・長豊ノ四海峽ヲ以テ外海ニ連ル、東西一百里、域内所々ニ各特別ノ名稱アリ、播磨ノ沖ヲ播磨灘ト云ヒ、備後ノ

沖ヲ水島灘ト云ヒ、其南ヲ備後灘ト云ヒ、伊豫ノ北西海上ヲ伊豫灘ト云ヒ、周防ノ沖ヲ周防灘ト云フ。平家覆滅ノ所タル壇浦ハ、其西隅ニ在リ、此内海ハ風浪平穩ニシテ、船上ノ眺望頗ル佳ナリ。

(島嶼) 瀬戸内海ニ於ケル嶋嶼ハ、其數無慮數百、其内本道ニ屬スル主ナルモノヲ舉クレハ、第一ハ周防ノ大嶋(又屋代島、周圍三十里、十三町)ニシテ、安藝ノ倉橋島(二十五里、二十五町)、江田島、能美島(二十三里、十六町)及嚴島(七里、三十一町)之ニ次ク、能美島、嚴島ハ共ニ廣島灣口ニ横ハリ、江田島ハ海軍兵學校ノ所在地ニシテ、嚴島ハ我邦三景ノ一ニ數ヘラレ、島中市杵島姫ヲ祀レル社アルニヨリ、又宮島ト稱ス。社殿ハ平清盛ノ造營ニ係リ、長廊四繞、崖ニ倚リ、水ニ架シ、海潮滿ツルトキハ、殿廓共ニ水上ニ浮フ奇觀ヲ呈ス。島上ニハ彌山(一、八四〇)アリ、沿海ニ七浦ノ勝アリ、風光實ニ愛スヘシ。

(地勢山岳) 本道ノ地勢ハ、北ニ中國山系ヲ負ヒ、土地南ニ向ヒテ次第ニ低下セリ。而シテ山ノ高峻ナルモノ少シ。今稍顯著ナルモノヲ舉クレハ、播磨ノ北部ニ、池田山(四、八八〇)、野尻山等アリ、中央ニ書寫山アリ、甚ダ高カラサレトモ有名ナリ。備中ノ北境ニ三國山アリ、備後ノ中央ニ御神山アリ、山勢巍峨トシテ怪岩多ク、又鬼橋ノ奇觀アリ、此地帝釋寺アルヲ以テ、俗ニ之ヲ帝釋ノ神橋ト云フ。北部出雲ニ接スル處ニ、美古登山、一名烏帽子山、及毛無山アリ。安藝ニハ東部ニ鷹巢山アリ、西方ニ苅尾冠等ノ諸山アリ。

(河流) 本道、河流モ亦長大ナルモノナシ。然レトモ今其主ナルモノヲ舉クレハ、先ツ高田(三十七里)、津山(三十一里)ノ二川アリ、本道第一ノ長流ニテ、共ニ源ヲ美作ノ北境ニ發シ、南流シテ備前ニ入り、西大川、東大川トナリ、兒島灣ニ入ル、運輸灌漑共ニ便利ナリ。次ニ備中ニ

大川アリ、其上流ハ高梁川ト稱ス。周防ニ錦川一名岩國川アリ、下流ニ有名ナル錦帶橋ヲ架ス、長サ一百二十五間、俗ニ算盤橋ト稱ス。備後ニ三次・櫃田ノ兩川アリ。安藝ニ吉田・太田ノ二川アリ。吉田川ハ三次・櫃田ノ二川ト合シ、石見ニ入り江川トナル。播磨ニ加古川アリ、即チ丹波ノ久下川ナリ。

〔湖沼及鑛泉〕 湖沼ハ極テ稀ニシテ、周圍一里以上ノモノ僅ニ三個ニ過キス、即チ備前ノ大池、周防ノ長澤池、長門ノ常盤池、三里餘是ナリ。鑛泉モ亦多カラス、其數總ヘテ十一個處、其著名ナルモノハ、美作ノ鷺ノ湯、周防ノ湯田温泉等ナリ。

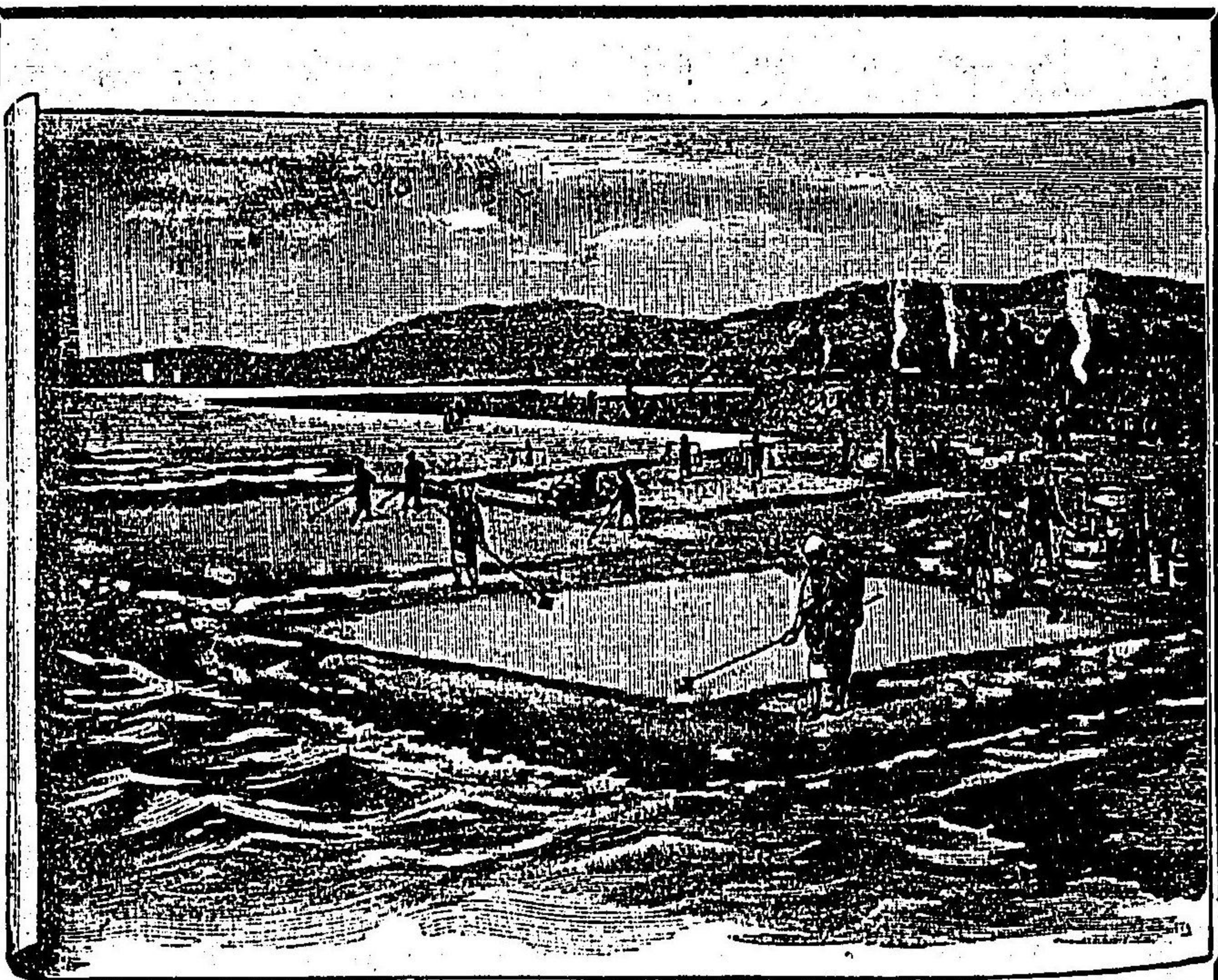
〔氣候〕 本道ハ氣候概テ温和ニシテ、且ツ各國甚シキ差違ナシ。只美作及各州北部ノ山地ハ、氣候稍寒冷ナリ。又降雨ノ量ハ一般ニ甚々多カラス。是レ太平洋ノ濕風、四國山系ニ遮斷セラレ、北風ノ齋シ來

ル水氣ハ、中國山系ニ奪取セララル、ニ由ル。

左ニ本道内測候所ノ實測ニ係ル、温度及雨雪ノ概況ヲ表示ス。

測候所	最高温度ノ極	最低温度ノ極	平均温度	雨雪水量	雨雪日數
岡 山	三四・二	零下 五・九	一四・二	九七六耗	一一六日
廣 島	三七・五	零下 八・四	一四・六	一五二〇耗	一二七日
萩野山口	三五・〇	零下 九・三	一三・六	一九〇〇耗	一七八日
赤間關	三五・八	零下 四・四	一四・九	一六四〇耗	一五九日

〔物産〕 海岸ノ低地ハ、地味頗ル豊沃ニシテ、五穀・煙草・綿・苧・麻ヲ産ス、沿海ノ諸國ハ、四國北岸ノ諸國ト共ニ、鹽業甚々盛ニシテ、播磨ノ赤穂鹽ヲ始メトシ、優等ノ食鹽ヲ産ス。又安藝ノ海濱ハ、夥シク牡蠣ヲ産ス。長門ノ鯨モ水産中ノ主品ナリ。織物ニハ播磨ノ明石縮・高砂染、周防ノ岩國縮・大島木綿、美作ノ雲齋織類、其名最モ高ク、其他製造刀品ノ著名ナルモノハ、播磨ノ龍野醬油、姫路革、備前ノ伊部陶器・長船



圖ノ田鹽
 本道ハ山陰道ト共ニ鐵ノ
 産出多キヲ以テ有名ナリ。
 安藝ノ如キハ其産額年々
 百萬貫内外ニ達シ、全國第
 一ニ位シ、備後モ亦頗ル多
 シ。長門ハ石炭・石材ヲ出ス
 コト多ク、其赤間關硯ハ、名
 聲天下ニ普シ、茲ニ明治二
 十六年中、鐵及石炭ノ産出

高ヲ舉クレハ、左ノ如シ。

岡山縣

銀

五三五、九八〇々

三三三、〇四九貫

山口縣

石炭

二二七、五二七、二九〇斤

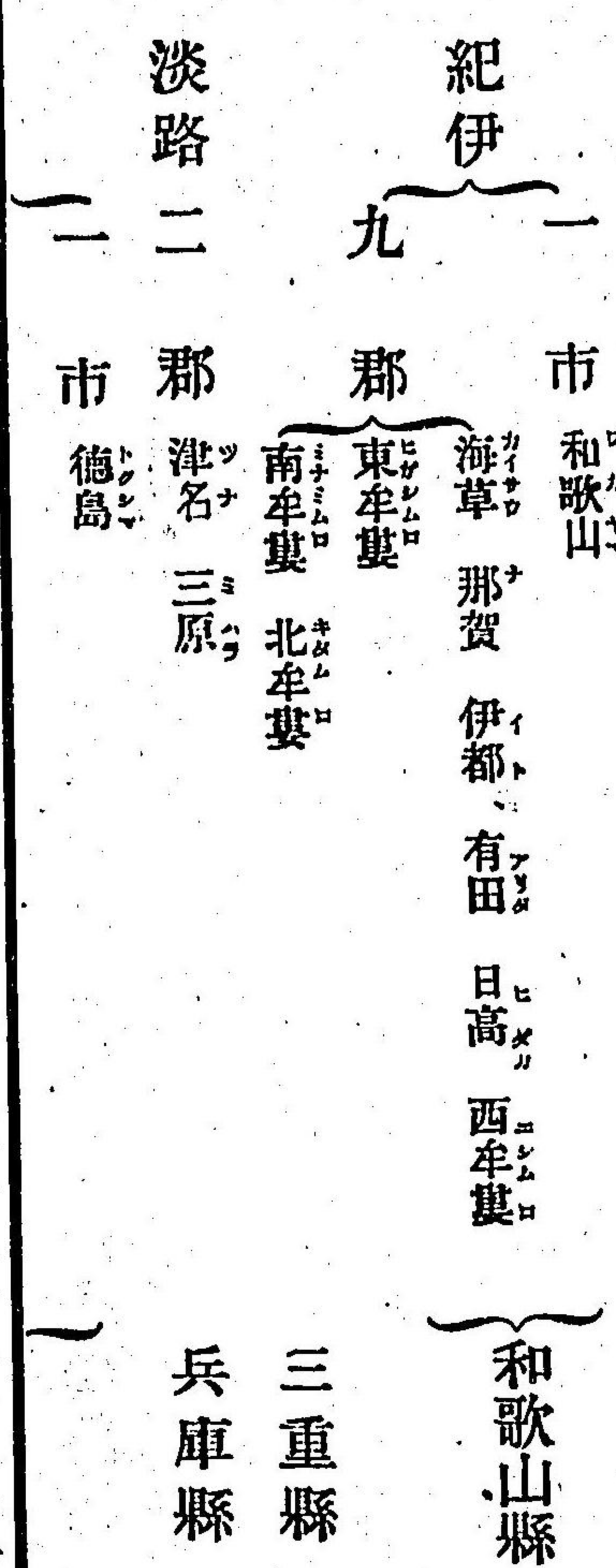
(都市) 本道ニハ、繁華ナル都市多シ、中ニモ藝州廣島ハ最モ殷賑ニ
 シテ、市街ハ廣島灣頭ニ在リ、四方一里ニ亘ル、淺野氏四十三萬石ノ
 舊城市ニシテ、人口九萬四千餘、縣廳アリ、第五師團アリ、裁判所アリ、
 中國第一ノ大都會ナリ。廣島ニ次キテ著名ナルモノ、東ニ播磨ノ姫
 路備前ノ岡山アリ、西ニ周防ノ山口、長門ノ赤間關アリ、姫路ハ中國
 ノ衝ニ當リ、岡山及山口ハ、各、其縣廳ノ在ル所ニシテ、共ニ市街繁盛
 ナリ。赤間關ハ、水陸交通ノ要地ニシテ、港内帆檣常ニ林立セリ。
 今人口一萬以上ノ著名ナル都邑ヲ、左ニ表示ス。

播磨	姫路市	二五、八一三人
美作	明石町	二一、一一四人
備前	津山市	一二、〇九八人
備後	岡山市	五三、一二二人
安藝	福山市	一五、六四九人
周防	尾道町	二〇、二三一人
山口	山口町	九四、三八八人
徳山	徳山村	一五、四二七人
長門	萩町	一二、二三〇人
赤間	赤間關市	三五、三六四人
萩	萩町	一八、七七二人

八 南海道

(位置廣袤人口) 南海道ハ五大島ノ一ナル四國、紀伊・淡路島ノ三部ヨリ成ル。紀伊ハ東、南、西ノ三面ハ皆海ニ面シ、只北ノ一部、伊勢・大和・

河内及和泉ニ界ス。四國島ハ東方、紀伊ト紀伊海峡ヲ夾ミ、北ハ瀬戸内海ヲ隔テ、山陽道ト相對シ、西ハ速吸海峡ヲ隔テ、九州島ニ向ヒ、南ハ一面渺茫タル太平洋ニ臨ム。淡路島ハ紀伊海峡ノ北口ト播磨トノ中間ニ夾マリテ、瀬戸内海ノ東ヲ限ル。本道ノ面積ハ、合セテ千五百九十八方里四七、人口三百八十五萬〇九百人ナリ。
 (區劃) 本道ノ國ハ六、五市、五十二郡ニ分レ、三重・和歌山・兵庫・徳島・香川・愛媛及高知ノ七縣ヲ以テ之ヲ分轄ス。



阿波十郡 名東 勝浦 那賀 海部 名西 板野 阿波 德島縣

麻植 美馬 三好

讚岐一市 高松 十二郡 大内 寒川 三木 小豆 山田 香川 阿野 香川縣

鵜足 那珂 多度 三野 豊田

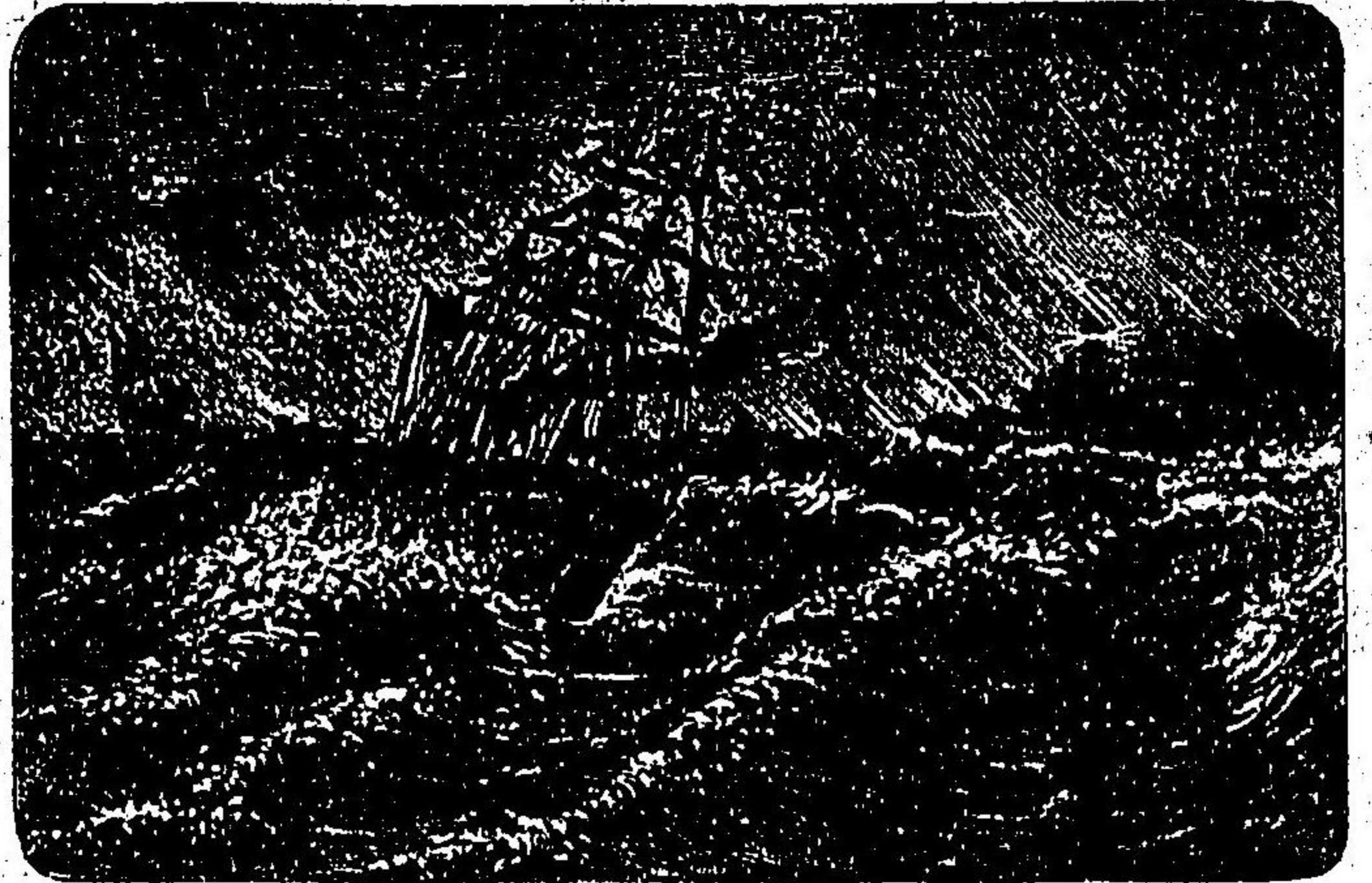
伊豫一市 松山 十二郡 温泉 越智 新居 周桑 宇摩 伊豫 上浮 愛媛縣

穴喜多 西宇和 東宇和 南宇和 北宇和

土佐一市 高知 七郡 土佐 幡多 高岡 吾川 長岡 香美 安藝 高知縣

(海岸) 紀伊ノ海ハ小出入極テ多ク且ツ概子斷崖ナリ其南東ニ突出キルモノヲ潮岬ト云ヒ岬邊潮流極テ急ナリ

潮岬ヨリ北東志摩ニ至ル海上ヲ熊野浦ト云フ波濤荒キヨト遠州



灘ニ劣ラス和歌ノ浦ハ紀伊河口ノ南方一里餘ノ處ニ在ル小灣ニ

シテ明光ノ浦トモ稱ス古ヨリ有名ナル勝地ナリ

四國島ノ東方ニ斗出セルモノハ阿波

湖ノ蒲生田岬ニシテ紀伊ノ比井岬ト相

對シ西ニ向ヒテ長ク延出セルモノハ

伊豫ノ佐田岬ニシテ九州島ト相對ス

又南西隅ヨリ南ニ向ヒテ突出セルモノ

ハ蹉跎崎一名足摺岬ニシテ其東方

ニ當リ斗出セルモノハ室戸崎ナリ此

長サ凡一百里アリ水淺シ四國ノ北方ニハ讚岐ノ箱崎ト伊豫ノ梶

取岬ト東西相對シテ北出シ、其間亦一大海灣ヲナセリ、備後灘・燧灘
是ナリ。淡路ハ、其形三角狀ニシテ、正北ノ一角ハ明石海峡ヲ隔テ、
播磨ニ近接シ、東隅ハ紀伊ニ對シテ由良峽ヲナス、西隅ト阿波トノ
間ハ、即チ有名ナル鳴門海峡ニシテ、其底岩礁多ク、潮水ノ干満ニ際
シ、海水大渦ヲ成シ、航行甚タ危険ナリ。

(港津) 港津ノ著名ナルモノハ、紀伊ノ加太・和歌山・尾鷲・淡路ノ由良・
福良・阿波ノ撫養・那佐・讚岐ノ高松・丸龜・志度浦及多度津、伊豫ノ新居
濱・今治・高濱・三津濱・八幡濱・宇和島・土佐ノ浦戸等ナリ。

(島嶼) 島嶼ノ最モ大ナルヲ小豆島トス、讚岐ノ北東海上ニ在リ、周
圍凡三十壹里。之ニ次クモノハ、伊豫ノ大三島(周回十五里)ニシテ、大
島・伯方島等ノ諸島ト共ニ、梶取岬ノ北方ニ連ル。大島ト今治ノ間ヲ
來島海峡ト稱ヘ、鳴門・大島ノ海門ト共ニ、内海三海峡ト稱ス。

(地勢山岳) 紀伊ノ中央ニ大塔峯アリ、州中第一ノ高峰ニシテ、其山
趾ハ廣袤殆ト十里ニ亘ル。其南東ニ那智山(大雲取山)アリ、有名ナル
那智瀧、山中ニ懸ル、高サ四十餘丈、幅十八間ト云フ。實ニ我國瀑布中
屈指ノモノニシテ、遠ク熊野海上ヨリ望ムヘシ。國ノ西北ニ、龍門山
アリ、紀伊富士ト稱ス。其東方、大和ノ境ニ近ク、高野山アリ、山上ニハ
金剛峰寺アリ、古ヨリ靈境ト稱セラル。石鎚山ハ伊豫・土佐ノ界ニア
リ、四國第一ノ峻峰ニシテ、高サ七千七百九十尺、九月ノ末山頂已ニ
雪ヲ冠シ、五月ニ至リテ始テ消ユ。阿波ノ南邊ニ又一高山アリ、劍山
(七、三九〇)ト云フ、有名ナル祖谷ハ即チ其西麓ナリ。讚岐ノ西部ニ著
名ナル象頭山アリ、山腹ニ琴平神社アリテ、壯麗人目ヲ驚カス。
(河流) 河流ノ著大ナルモノ、紀伊ニ熊野川(新宮川)・紀伊川及日高川
アリ。阿波ニ吉野川及那賀川アリ。土佐ニ渡川・仁淀川及物部川アリ。

熊野川ハ一ニ成川ト云ヒ、大和十津川ノ下流ニシテ、紀伊ニ入りテ、南東流シテ熊野浦ニ注ク。紀伊川ハ大和吉野川ノ下流ニシテ、紀伊ノ北邊ヲ西走シ、和歌山ノ北ヲ過キテ海ニ入ル。日高川ハ紀伊ノ西邊ヲ流ル、川ニシテ、源ヲ大和界ノ山中ニ發シ、比井岬ニ近キ鹽屋浦ニ至リテ海ニ注ク。

吉野川(四十一里餘)ハ四國第一ノ長流ニシテ、四國三郎ノ名アリ。源ヲ四國中央ノ瓶森山ニ發シ、土佐ノ北邊ヲ東流スルコト、凡十五里ニシテ阿波ニ入り、國ノ西北境界ニ近ク並ヒ流ル、ユト凡二十六里ニシテ海ニ注ク。

那賀川ハ源ヲ阿波土佐ノ境ニ發シ、阿波ノ南部ヲ東流シ、中島浦ニ至リテ海ニ入ル。渡川ハ一名ヲ四萬十川ト云フ、源ヲ伊豫ノ西部ニ發シ、山岳ノ間ヲ迂回シテ、土佐ニ入り、下田浦ニ至リテ海ニ朝ス。

仁淀川ハ源ヲ伊豫ノ山間ニ發シ、土佐ニ入りテ中部ノ諸水ヲ合セ、土佐灣ニ注ク。物部川ハ土佐ノ東部ヲ流ル、川ニシテ、阿波ノ界ニ發源シ、吉原浦ニ至リテ、亦土佐灣ニ注ク。

(湖沼) 湖沼ハ、一里以上ノモノ十二アトモ、周圍三里ニ及フモノナシ。其最モ大ナルモノヲ北條池及滿港池トナス。

(鑛泉) 鑛泉ハ、紀伊・伊豫及土佐ニ在リテ、其數總テ十六個處、其最モ著名ナルモノヲ伊豫ノ道後トス、松山ヲ距ル十八町、浴客一年七十萬人ニ下ラスト云フ。此他、紀伊ニ龍神・神場・湯崎・濱湯・本宮・川湯等、伊豫ニ温泉谷・楠窪、土佐ニ別役・圓行寺等アリ。道後ノ外ハ、皆冷泉ナリ。

(氣候) 本道ノ氣候ハ、諸國概テ温暖ニシテ、略、山陽道ニ似タリ。然レトモ、山脈ノ南ト北トハ稍、差違ナキヲ得ス。土佐及紀伊ノ南方沿海地方ハ、春秋ト雖モ、温度高ク、且ツ其海岸近クニ、山岳多ク、黒潮ヨリ

蒸發スル多量ノ水蒸氣之ニ觸ル、ニ由リ、雨量モ亦多シ。之ニ反シテ伊豫・讚岐ハ、山脊ニ位スルヲ以テ雨量少シ。

(物産) 本道ハ土佐及紀伊ノ北東地方ヲ除ケハ、地味、概子肥沃ニシテ、農産物頗ル多シ。特ニ阿波吉野川ノ沃野ハ、藍ノ栽培甚々盛ニシテ、紀伊ノ蜜柑モ亦其名全國ニ高シ。本道又水産ニ富ミ、紀伊ノ鯨、土佐ノ鯨節・珊瑚及眞珠等ハ最モ著名ノモノナリ。製造品ハ紀州ノ綿「フランネル」雲齋織・高野紙・淡路ノ伊賀野燒・阿波ノ齋田鹽・織織・讚岐ノ食鹽・砂糖・保多縞・伊豫ノ松山縞・土佐ノ半紙等最モ多シ。鑛屬ハ伊豫ノ銅ヲ第一トス、其出鑛高ノ多キコト、全國第二ニ位ス。此他各國亦石材ヲ出ス、紀伊那智ノ黒石最モ著名ナリ。

(都市) 都會ハ、徳島ヲ第一トシ、和歌山・高松・高知・松山之ニ次ク。

徳島ハ、阿波ノ東海岸、吉野川ノ口ニ在リ、四國第一ノ都會ニシテ、

須賀侯二十六萬石ノ舊城市ナリ。人口五萬九千、徳島縣廳アリ、

和歌山ハ、紀伊ノ北西端ニ在リテ、北ニ紀伊川ヲ帶ヒ、南ハ和歌浦ニ

臨ム、徳川侯十五萬石ノ舊城市ニシテ、和歌山縣廳ノ在ル處ナリ。

高松ハ、松平氏十二萬石ノ舊城市ニシテ、讚岐ノ北海岸ノ中央ニ在

リ、香川縣廳ノ在ル處ナリ。

高知ハ、土佐灣頭ニアリ、山内侯二十四萬石ノ舊城市ニシテ、今高知

縣廳アリ。

松山ハ、伊豫中部ノ都會ニシテ、重信川下流ノ北方ニ在リ、愛媛縣廳

ヲ茲ニ置ク、此地ハ、久松侯十五萬石ノ舊城市ニシテ、道後ノ温泉ハ、

東ノ方半里程ニ在リ。

今本道都市ノ人口ヲ表示スレハ、左ノ如シ。

紀伊 和歌山市

五六、九二七人

阿波 徳島市

五九、九九七人

讃岐 高松市

一七、九六〇人

観音寺町

三三、五六三人

伊豫 松山市

一八、三四七人

今治町

一二、五八四人

字和島町

三一、八七二人

土佐高知市

一四、八一八人

九 西海道

(位置廣袤人口) 西海道ハ、九州島・壹岐・對馬・及琉球ノ諸島ヨリ成ル。其北東ハ長豊・速吸兩海峡ヲ隔テ、本州及四國島ト相隣リ、南東ハ太平洋ニ、西方ハ支那東海ニ、北方ハ日本海ニ瀕ス。全道面積二千九

百八十四萬方里七一、人口六百四十九萬九千八百二十七人(但シ琉球ノ人口ハ姑シ明治二十六年未調査ニ從フ)

(區劃) 本道ハ十二個國ニシテ、六市、八十一郡、八縣ヲ以テ之ヲ分轄ス。但シ琉球ハ、未タ市郡ノ制ヲ實施セズ、許多ノ間切ニ分ル。

筑前 一市 福岡

糟谷 宗像 鞍手 嘉穂 朝倉 筑紫 糸島

福岡縣

筑後 一市 久留米

三井 三潁 八女 浮羽 山門 三池

豊前 六郡 企救 田川 京都 築上

豊後 十郡 西國東 東國東 速見 大分 北海部 南海部

大分縣

肥前		肥後		日向		大隅		薩摩	
二市	十四郡	一市	十二郡	八郡	五郡	一市	八郡	一郡	一郡
長崎	東彼杵	熊本	飽託	宮崎	始羅	鹿兒島	鹿兒島	壹岐	對馬
佐賀	西彼杵	熊本	宇土	南那珂	唵吹	給黎	給黎	壹岐	對馬
長崎縣	來高來	菊地	玉名	兒湯	肝付	楫宿	楫宿	長崎縣	對馬
佐賀縣	南高來	阿蘇	鹿本	東臼杵	熊毛	川邊	川邊	長崎縣	對馬
長崎縣	南松浦	上益城	菊地	西臼杵	大島	日置	日置	長崎縣	對馬
長崎縣	北松浦	熊本縣	阿蘇	北諸縣	薩摩	薩摩	薩摩	長崎縣	對馬
佐賀縣	佐賀	熊本縣	天草	東諸縣	薩摩	薩摩	薩摩	長崎縣	對馬
佐賀縣	神崎	熊本縣	球摩	西諸縣	薩摩	薩摩	薩摩	長崎縣	對馬
佐賀縣	藤津	熊本縣	天草	東諸縣	薩摩	薩摩	薩摩	長崎縣	對馬
佐賀縣	藤津	熊本縣	天草	東諸縣	薩摩	薩摩	薩摩	長崎縣	對馬

壹岐一郡 壹岐
 對馬二郡 上縣 下縣
 琉球一圓 沖繩縣

〔海岸〕 本道ノ沿岸ハ、出入屈曲極テ多ク、特ニ北西ノ一部、肥前ノ如キハ、水陸ノ交界參差錯雜セリ。

九州島ノ北西端ニ東北、松浦郡ノ兩半島アリテ、北方ニ突出シ、其間ニ伊萬里灣ヲ擁ス。鯛浦ハ又大村灣ト稱シ、肥前ノ西邊ニ在リテ、東西兩彼杵郡ノ中ニ彎入シ。水深シ、肥前・筑後・肥後ノ間ニ深ク彎入セ、ルモノヲ筑紫海又有明海ト云フ、東西狹キ處六里、南北十餘里、島原半島、肥後ノ天草島ト相對シテ、其海門ヲ扼ス、其間僅ニ一里餘、之ヲ早崎瀬戸ト云フ、潮流急駛舟行最モ難シ。此海上秋夜燐光ヲ發ス、俗ニ之ヲ不知火ト稱ス、西彼杵、島原兩半島ノ中間ヨリ南西ニ向ヒテ